ホンダ ディーゼルトラクタ

取扱説明書

TX201・TX221・TX241
TX261・TX281・TX301
TX321



お買いあげありがとうございました。ご使用になる前に
必ずこの取扱説明書をお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。


注意マーク


火気厳禁



ディーゼル軽油


燃料（残量）


グロー


バッテリ充電異常


エンジンオイル圧力異常



エンジン停止


エンジン水温


ホーン


方向指示器


ヘッドライト（下向）


ヘッドライト（上向）


作業灯



作業灯（前）



作業灯（後）


シャトル（前後進切換）


アクセル高


アクセル低


倍速ターン


水平制御


自動耕深制御


後進時作業機上昇



オートアップ


３点リンク（上げ）


３点リンク（下げ）


ワイパ

はじめに

このたびはホンダ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警 告**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注 意**： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はTX241を基本とし，TX241と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によって …… “201仕様” “221仕様” “241仕様” “261仕様” “281仕様” “301仕様” “321仕様”
- ノンクラッチトランスミッション付き(F) …… “Uシフト仕様”
- 安全キャブ付き（エアコン付き） …… “Q仕様”

トラクタを安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と守るべき警告・注意事項を解説していますので熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．**確認と手続き：**

(1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。

(2)道路走行に必要なナンバプレートの取得手続きを行なってください。

(3)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にトラクタの安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．**トラクタの運転：**

(1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

(2)安全にトラクタを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

(3)倍速ターン，AD，デフロックの正しい取扱い方を体得してください。

(4)トラックへの安全な積み・降ろし，ほ場への出入時の注意，および旋回方法等を理解し，必ず守ってください。

トラクタの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．**上手な装置の使いかた：**

(1)油圧，三点リンク，ＰＴＯの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(2)モンローマチック・MCオート，およびタイヤの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(3)キャブ装備品の正しい取扱いと調整方法を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

6．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

⚠安全に作業するために　……⚠-1

サービスと保証について　……1
ご相談窓口　……1

小型特殊自動車としての取扱い　……2
小型特殊自動車取得の届出と
ナンバプレートの取付け　……3
運転免許　……3
自動車損害賠償責任保険のお勧め　……3
小型特殊自動車とは　……3

運転に必要な各部の名称　……4
イージーチェッカ　……5

運転前の点検　……7

エンジンの始動と停止　……8
始動のしかた　……8
キースイッチ　……10
停止のしかた　……12
暖機運転　……13
バッテリあがりの処置　……13
バッテリプラスカットリレー　……14

トラクタの運転　……15
ならし運転(最初の約50時間)　……15
運転席回りの調節　……15
シート　……15
安全キャブ・安全フレームと
シートベルトについて　……16
ステアリングハンドル　……17
バックミラー　……17
灯火類の操作　……18
コンビネーションスイッチ　……18
発進・走行　……18
ブレーキペダル　……18
クラッチペダル　……19
クリープレバー　……20
倍速ターンレバー　……21
AD(オートディスクブレーキ)レバー　……22
マニュアルシフト仕様　……23
シャトルレバー　……23
主変速レバー　……23
副変速レバー　……23
クリープレバー　……23
アクセルレバーとアクセルペダル　……23
駐車ブレーキ　……24
Uシフト(F)仕様　……24
主変速レバー　……25
シャトルレバー　……25
クリープレバー　……25
停車・駐車　……26
運転中の作動確認　……26
次の場合には，直ちにエンジンを
止めてください。　……26
イージーチェッカ　……27
燃料計　……27
水温計　……28
トラクタメータ　……28
デフロックの使い方　……29
デフロックペダル　……29
旋回のしかた　……29
坂道での運転　……29
ほ場への出入り時の注意　……30
道路走行中の注意　……30
トラックへの積み・降ろし　……31
パワーステアリングの取扱い
【パワーステアリング仕様】　……31
外部電源取出端子　……32
作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，
ローダ電源用カプラ，
予備電源カプラ　……32
燃料給油ポンプ専用電源コンセント　……32

油圧・三点リンク・PTO　……33
油圧　……33
油圧(ポジションコントロール)レバー　……33
レバーストッパの使い方　……33
ポンパレバー　……34
ポンパランプについて　……34

オートアップスイッチ ……35
作業機落下速度の調整 ……36
三点リンク ……37
ロアーリンク取付け穴の選択 ……38
トップリンクの調整 ……38
リフトロッドの調整 ……38
チェックチェーン ……38
作業機を取付けないときの注意 ……38
けん引ヒッチ（別途購入品） ……39
けん引フック ……39
PTO ……40
PTO変速レバー ……40
PTO軸カバー，PTO軸キャップ ……40

モンローマチック・
モンローマチックオートの取扱い ……41
スイッチの取扱い ……41
モンロー切換えスイッチ ……42
モンロ角度ダイヤル ……43
オート切換えスイッチ ……43
耕深調節ダイヤル ……44
三点リンク高さ規制ダイヤル ……44
バックアップスイッチ ……45
モンローマチック手動スイッチ ……46
作業機の取扱い ……46
故障・異常の表示 ……47

タイヤ・ウエイト ……48
タイヤ ……48
タイヤの空気圧 ……48
輪距の調整 ……48
前輪 ……48
後輪 ……49

キャブ装備品の取扱い ……50
ドア・窓の開閉とロック ……50
ドア ……50
リヤウインド ……50
クォータウインド ……51
ルームランプ ……51
ワイパ ……51
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ …51
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ ……51
作業灯 ……52
作業灯スイッチ ……52
作業灯（前） ……52
作業灯（後） ……52
エアコン【Q仕様】 ……53
空気の流れ ……53
風向調整 ……53
コントロールパネル ……54
取扱い操作方法 ……55
ヒータ使用上の注意 ……56
AM / FMラジオ付き
カセットプレーヤの取扱い ……57
共通部の操作のしかた ……57
電源の入／切のしかた、音量調節 ……57
左右のバランス調整ツマミ ……57
フェダー調整 ……57
低音・高音の調整 ……57
時計表示のしかた ……57
時計の調整のしかた ……57
ラジオを聞くには ……58
バンド切換え ……58
手動選局のしかた ……58
自動選局のしかた ……58
プリセット選局のしかた ……58
プリセット・オートプリセットについて …58
オートプリセットのしかた
（FM 2バンドのみ） ……59
ディスプレイ表示 ……59
AM放送時のモノラル切換え ……59
ラジオの放送は同一のプログラムが
各地の放送局から送られていることが
ありますので，感度のよい放送局に
合わせてください。 ……59
テープを聞くには ……60
カセットテープの挿入 ……60
演奏面の切換え ……60
巻戻し，早送り ……60
カセットテープの取出し ……60
メタルテープの切換え ……60
取扱い上の注意 ……61
アンテナ ……61
灰皿 ……62
シガライタ ……62
インプルメントの装着 ……62
インプルメント用操作ボックスの組付け …62

トラクタの簡単な手入れと処置 ……63
定期点検箇所一覧表 ……63
給油（水）一覧表 ……64
推奨オイル・グリース一覧表 ……65
エンジンオイル・ミッションオイル ……65
グリース ……65
フロントグリル及びサイドカバーの外し方 …66
フロントグリル及びサイドカバー ……66
日常点検 ……66
エンジンオイルの量及び汚れ ……67
ミッションオイルの量及び汚れ ……67
冷却水の量 ……68
バキュエータバルブの清掃 ……68
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 ……69
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 ……69
防虫網の清掃 ……70
防虫網の清掃（コンデンサ用） ……70
ブレーキペダルの遊び・点検 ……70
駐車ブレーキの作動点検 ……70
クラッチペダルの遊び・点検 ……71
メータ・ランプ類の作動 ……71
燃料給油ポンプの取扱い ……72
ご使用方法 ……73
50時間ごとの点検・整備 ……74
グリースの注入 ……74
エンジン始動システムの点検 ……74
けん制装置の点検 ……75
タイヤ取付けボルトの点検 ……75
ワイヤハーネス，
バッテリ⊕コードの点検・交換 …75
クラッチハウジングの水抜き ……76
パワーステアリングホースの点検 ……76
燃料パイプの点検 ……76
100時間ごとの点検・整備 ……77
エンジンオイルの交換 ……77
バッテリ電解液の点検 ……77
エアクリーナエレメントの清掃 ……79
ファンベルトの点検・調整 ……79
ブレーキペダルの点検・調整 ……80
クラッチペダルの点検・調整 ……81
200時間ごとの点検・整備 ……81
エンジンオイルフィルタカートリッジの
交換 ……81
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 …82
ラジエータホースの点検 ……82
トーイン調整・タイロッドの点検 ……83
室内エアーフィルタの清掃 ……84
外気フィルタ ……84
エアコンコンデンサの詰まり ……85
エアコンベルトの張り ……85
300時間ごとの点検・整備 ……85
前車軸ケースオイルの交換 ……85
400時間ごとの点検・整備 ……86
ミッションオイルの交換 ……86
燃料フィルタエレメントの清掃交換 ……86
600時間ごとの点検・整備 ……87
前部デフケース前後遊びの調整 ……87
800時間ごとの点検・整備 ……87
エンジンバルブクリアランスの点検 ……87
1年ごとの点検・整備 ……87
エアクリーナエレメントの交換 ……87
注油 ……87
ヒータ配管，ホースの点検 ……87
エアコン配管，ホースの点検 ……87
2年ごとの点検・整備 ……88
冷却水の交換 ……88
ラジエータの洗浄 ……89
ラジエータホースの交換 ……89
パワーステアリングホースの交換 ……89
燃料パイプの交換 ……89
モンローシリンダホースの交換 ……89
必要に応じた点検・整備 ……89
燃料の空気抜きのしかた ……89
ヒューズの交換 ……90
スローブローヒューズの交換 ……90
ランプ類の交換 ……90
プラスカットリレーのリセット方法 ……90
オイルの注油 ……91
ウォッシャ液の補充 ……91
冷媒(ガス)量の点検【Q仕様】 ……91

格納 ……92
長期格納時の手入れ ……92

付表 ……93
主要諸元 ……93
トラクタの主要諸元 ……93
走行速度表 ……94

PTO回転速度表 ……95
標準付属品 ……95

作業ごとの一般的な調整要領 ……96

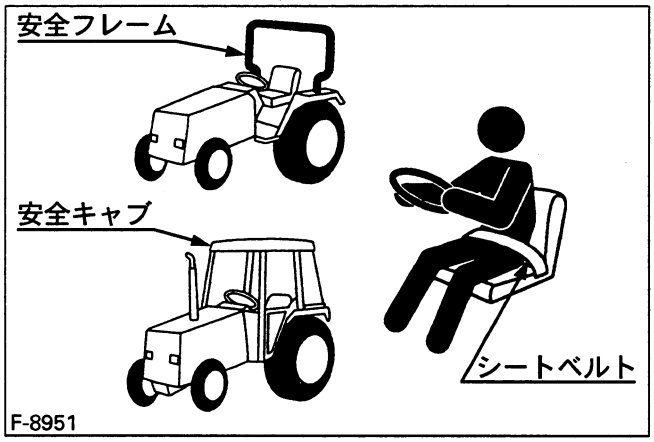
⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

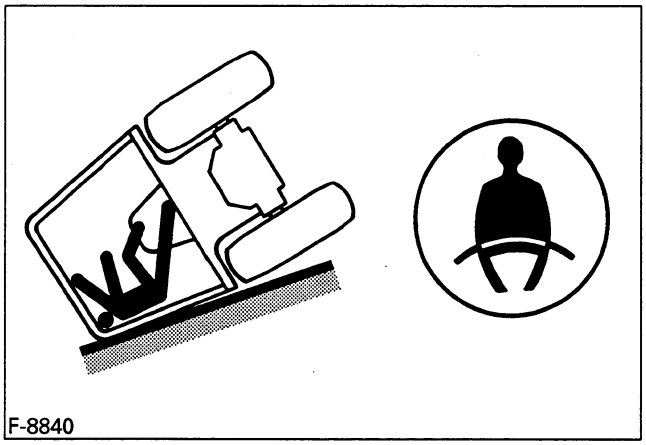
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全キャブ，安全フレームについて

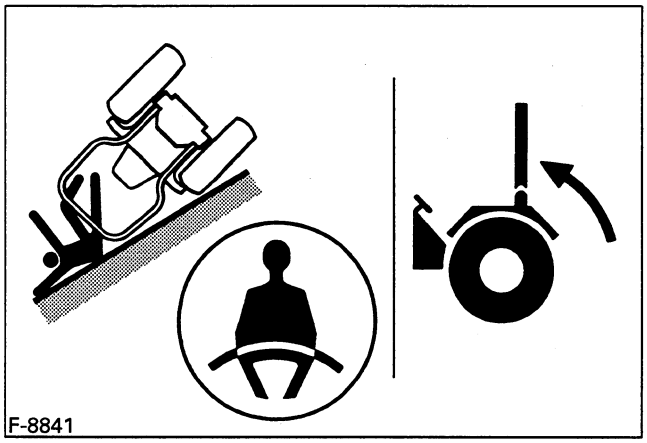
安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。



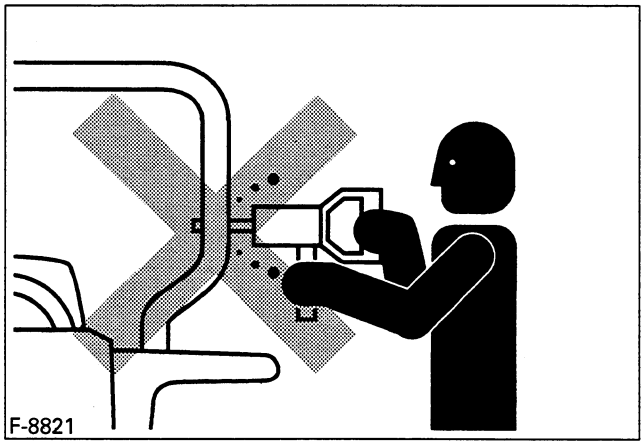
(1)運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。



(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)納屋の出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
(4)安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
(5)安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。



(6)安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。



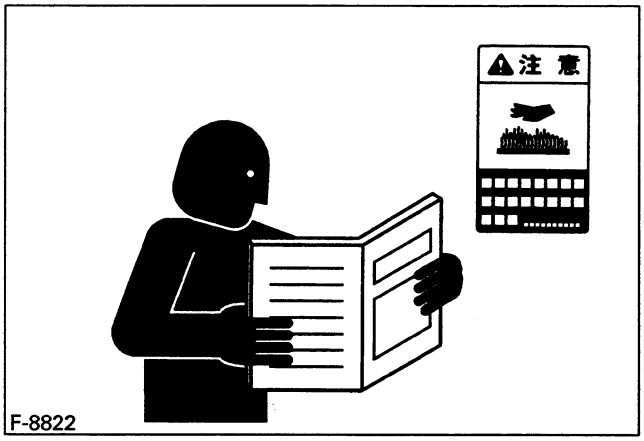
▲ 安全に作業するために

2．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

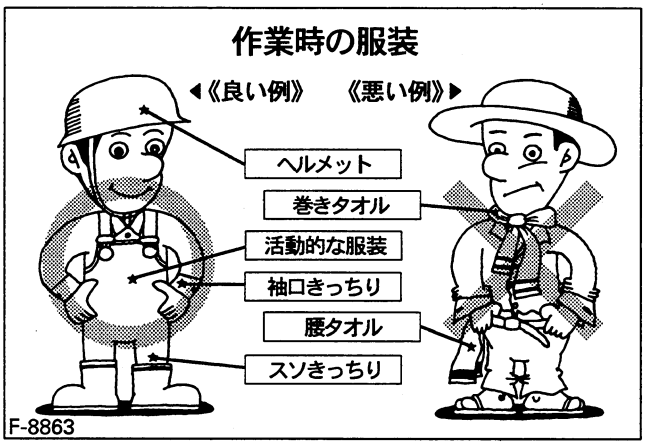
(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



F-8863

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

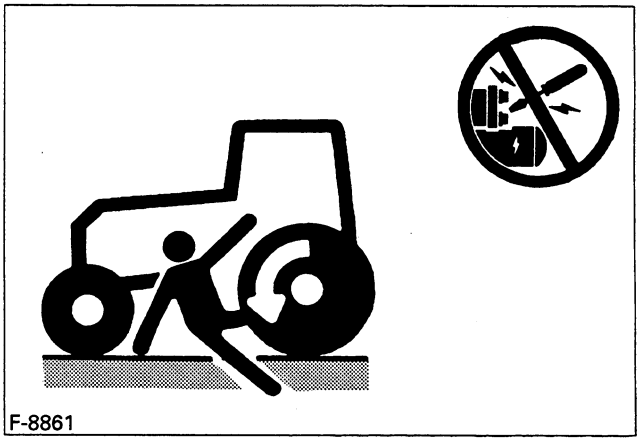
(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

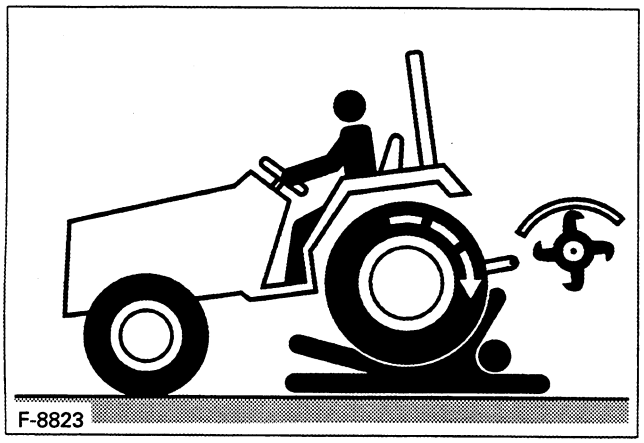
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー・ＰＴＯ変速レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

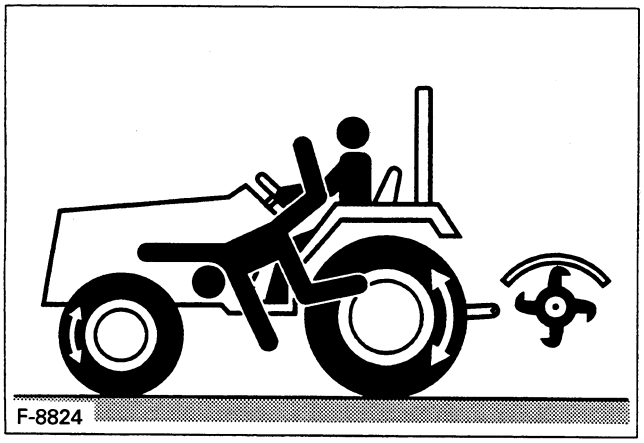

F-8861

(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

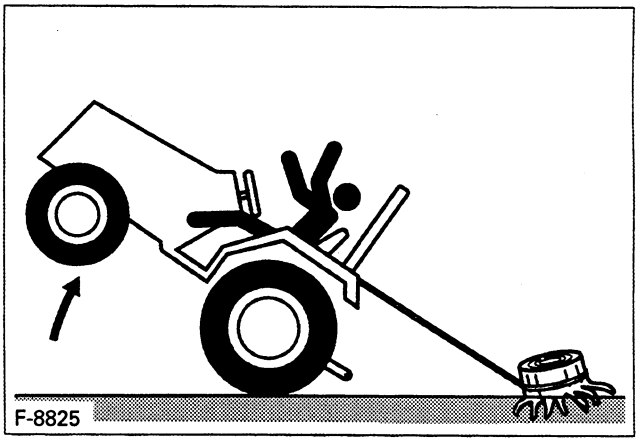


4．運転時に

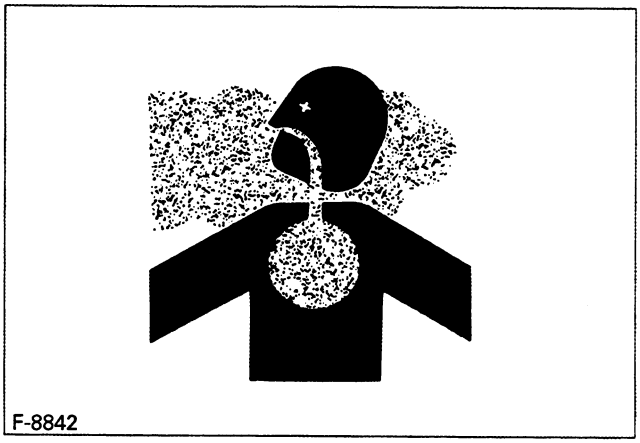
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。



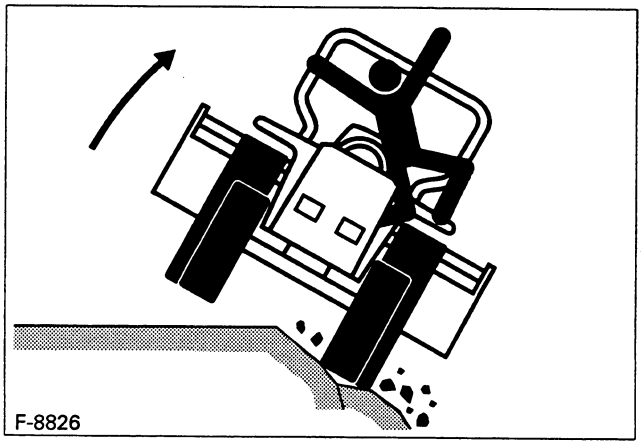
(2)けん引作業には，けん引ヒッチ(別売)を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。



(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

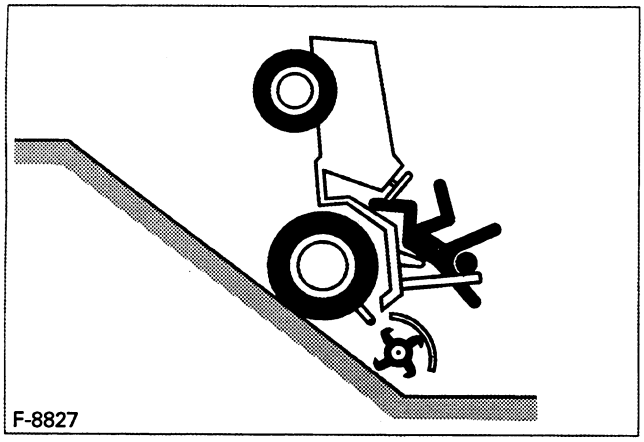


(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。



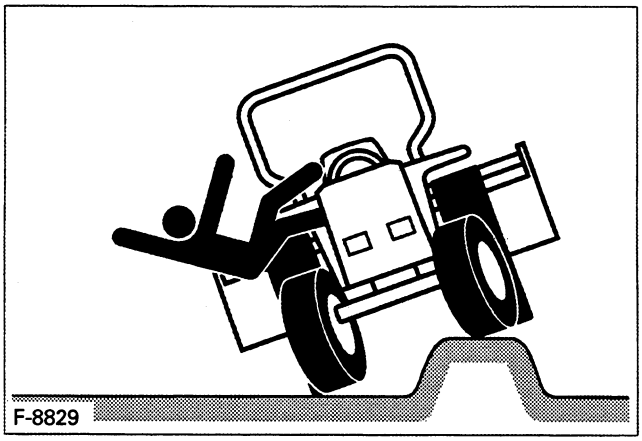
⚠ 安全に作業するために

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

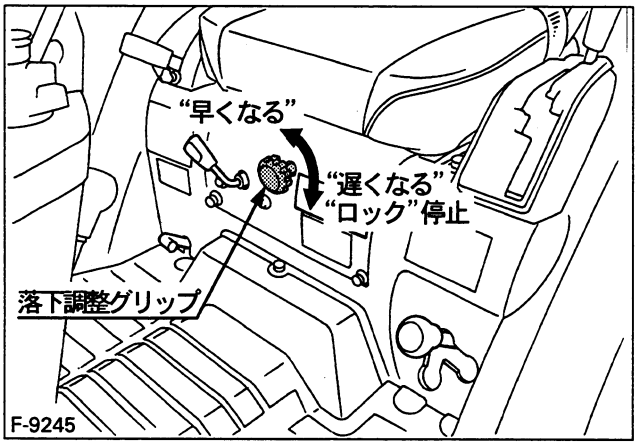


(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

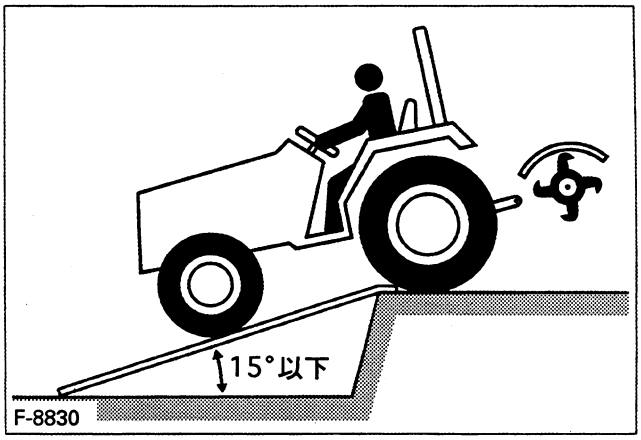
(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。



(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



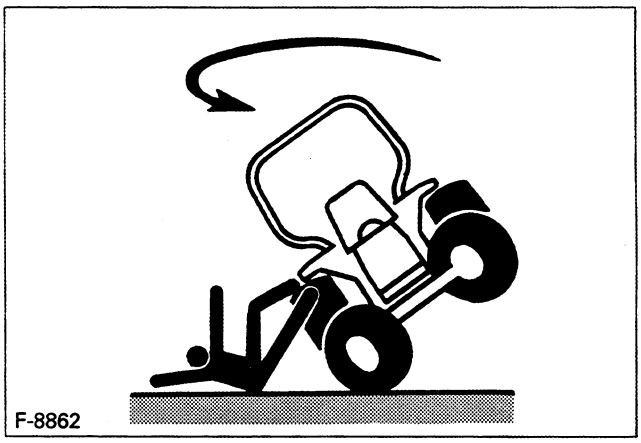
(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

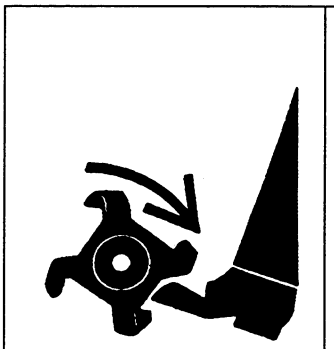
(11)倍速ターンはほ場以外では“切り”にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

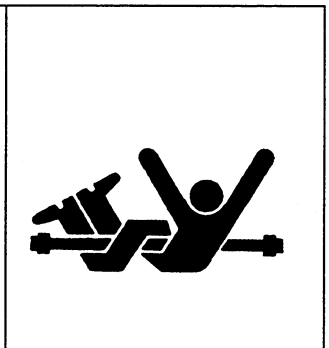


5．作業機使用時に

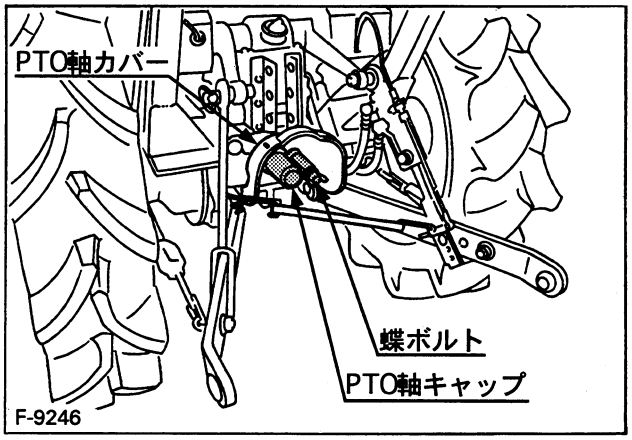
(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


F-8844


F-8845

(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。

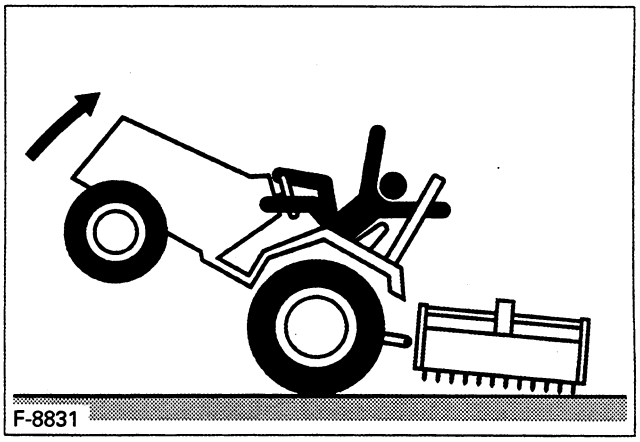


F-9246

(4)ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。

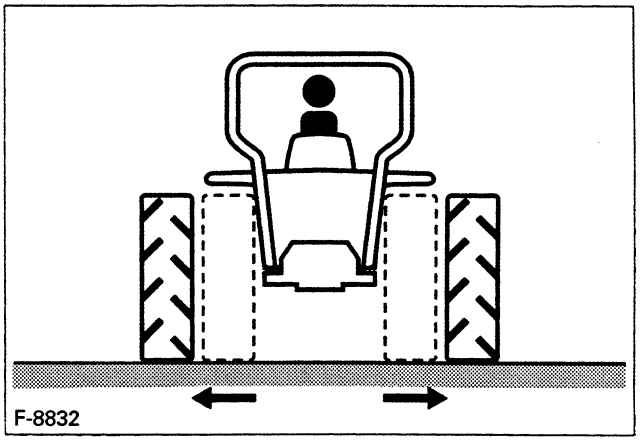
(5)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

(6)３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。


F-8831

(7)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

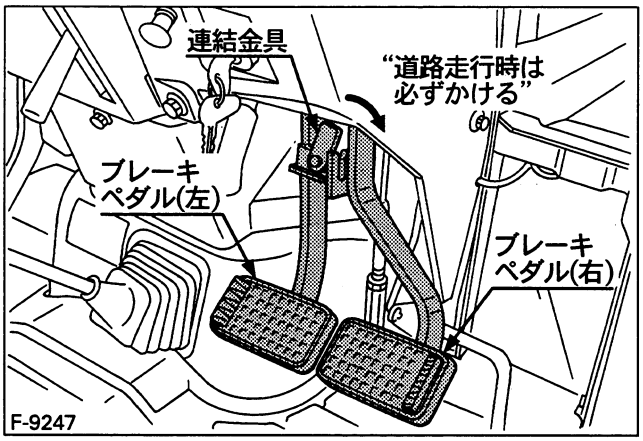
(8)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

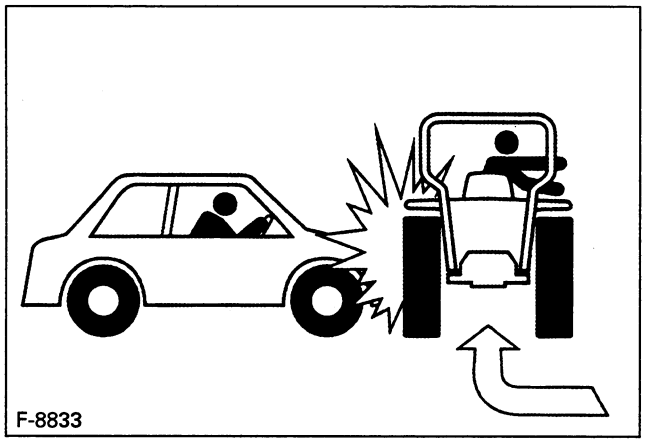

F-8832

⚠ 安全に作業するために

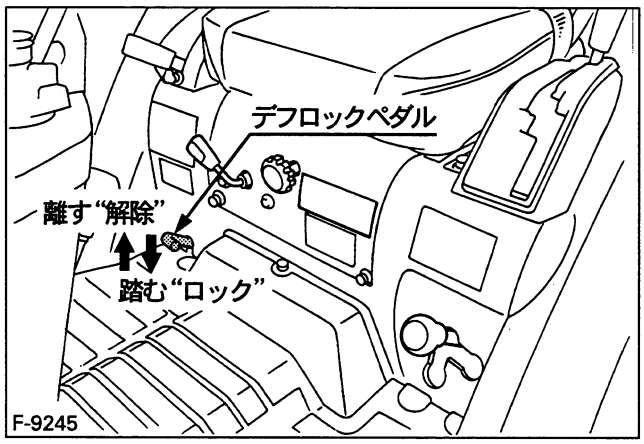
6．道路走行時に

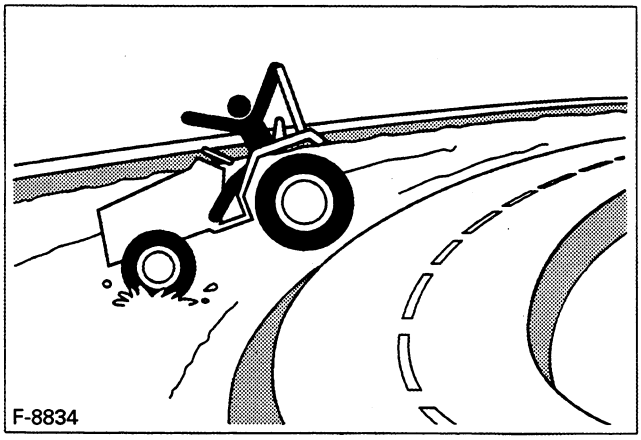
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。





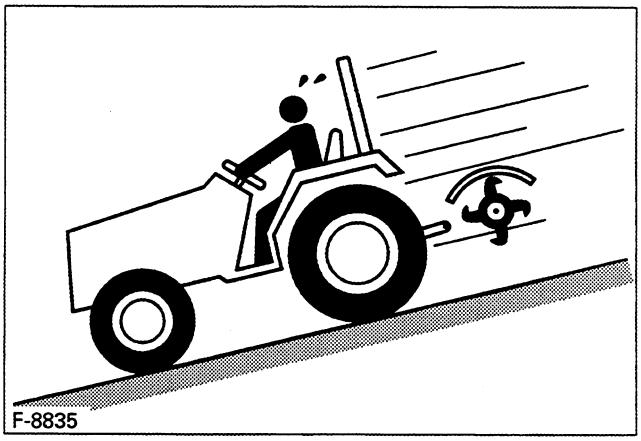
(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。





(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

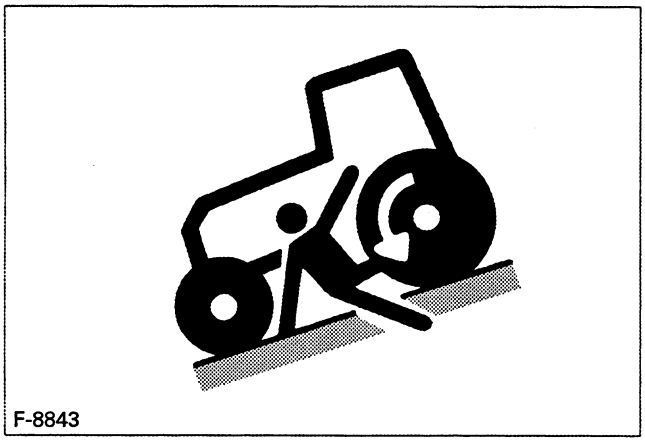


(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，車検証（大型特殊自動車のみ）と運転免許証は携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。



F-8843

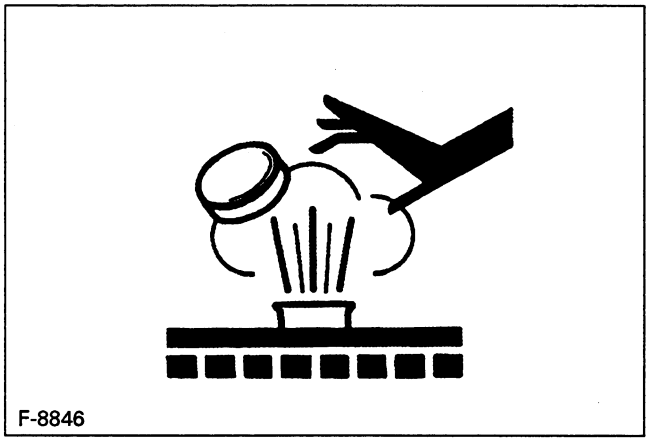
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

8．点検・給油・整備時に

(1)平坦な場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。



F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。



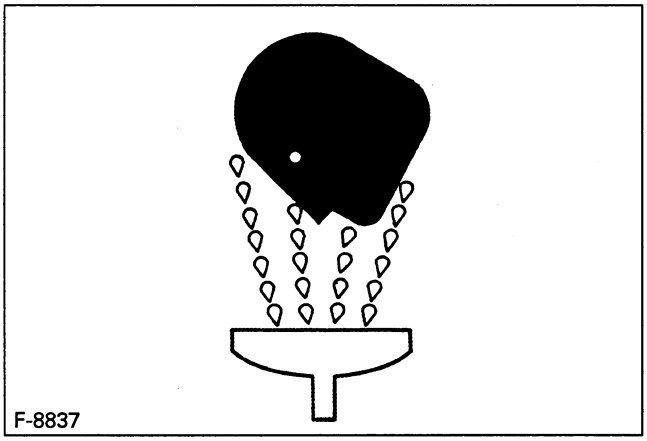
F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの運転の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

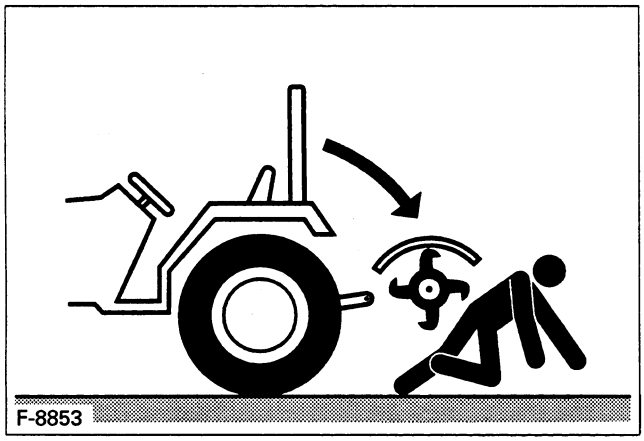
⚠ 安全に作業するために

(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

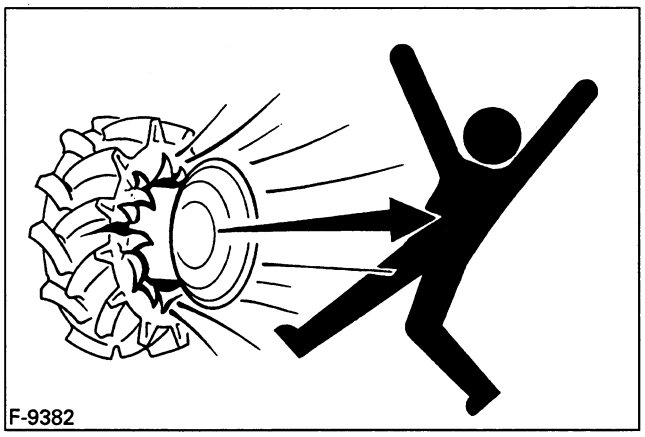
(7)３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。


F-8853

(8)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

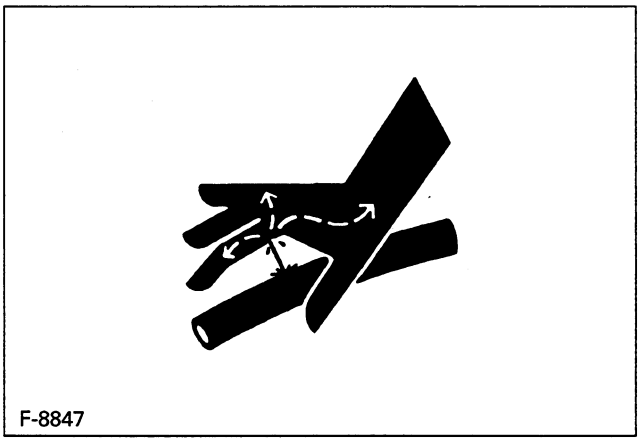
(9)タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

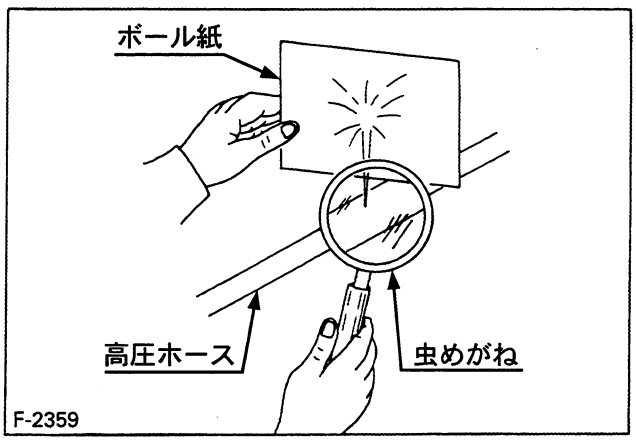
(10)タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


F-9382

(11)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(12)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。


F-8847



F-2359

9. ⚠表示ラベルと貼付け位置

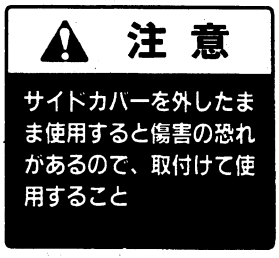
①品番　T0180-4954-1



②品番　3F740-9828-1



④品番　T0180-4955-1



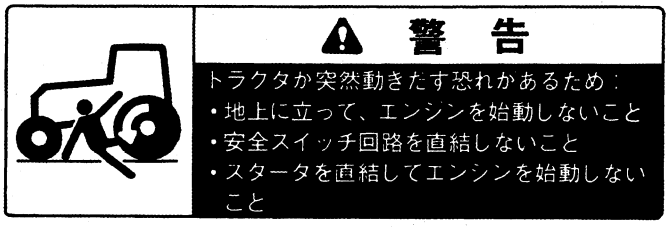
⑤品番　T0180-4958-1

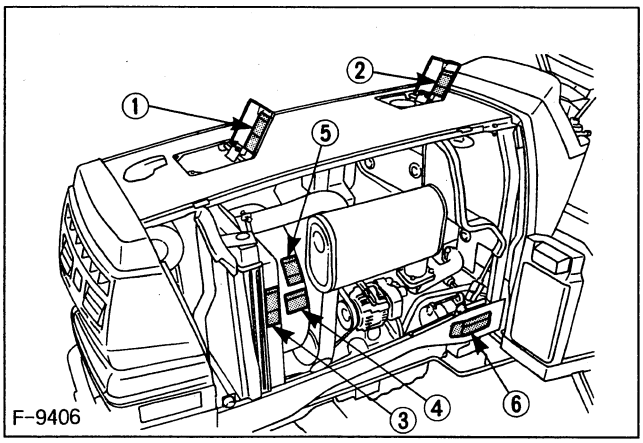


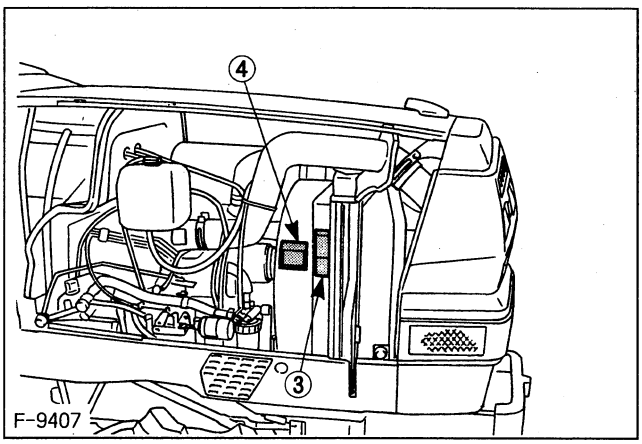
③品番　T0180-4957-1



⑥品番　T0180-4965-2

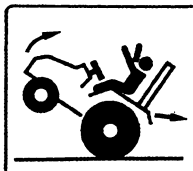






⚠ 安全に作業するために

①品番　T0180-4904-1



⚠ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐために
けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等て行わないこと

②品番　T0180-4959-1



⚠ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
・ＰＴＯ軸の回転中は近つかないこと
・使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

③品番　T0270-4968-2

⚠ 注　意

- ＰＴＯ軸カバーを回転させたまま運転しないこと。必ずもとの位置に戻すこと（回転は両手で左右に90°可能）
- ＰＴＯ軸カバーを取りはずさないこと
- ＰＴＯ軸カバーの上に乗らないこと

④品番　T0270-1780-1

ＡＤ切換えレバーの取扱い

①切換え操作するときは、前輪を直進状態にして下さい
②「入」にするときは、倍速ターンも「入」にして下さい
③下記変速レバー位置では、「入」にできません

	主変速	副変速	クリープ
マニュアルシフト仕様	——	H	H
Ｕシフト仕様	5～8	——	H

⚠注意　あせ上かり時、道路走行時は必ず「切」にすること

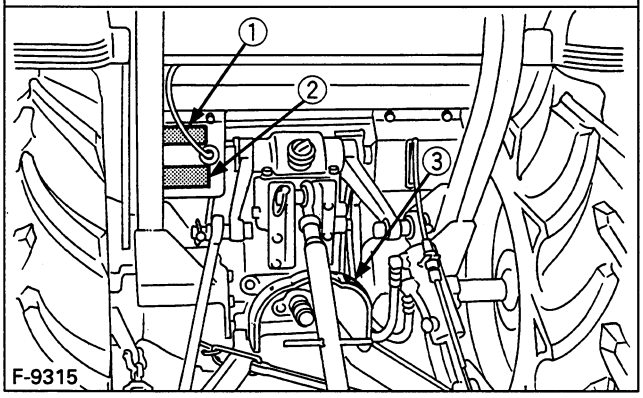
⑤品番　T0180-4905-1

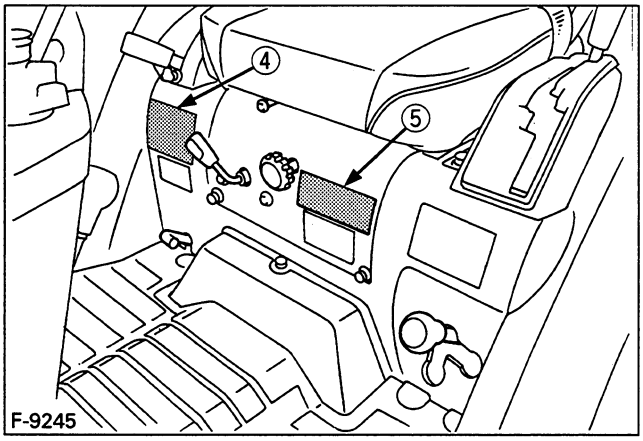


⚠ 警　告

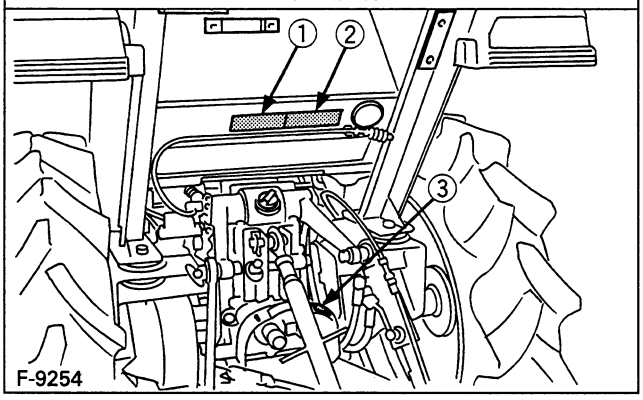
転倒による死傷事故を防ぐために
・倍速ターンは圃場以外で使用しないこと
・高速で使用しないこと

安全フレーム仕様





キャブ仕様



①品番　T0180-4931-1

⚠ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
・シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

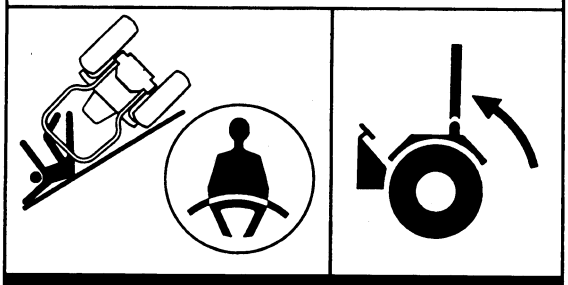
運転時
・道路走行時はテフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

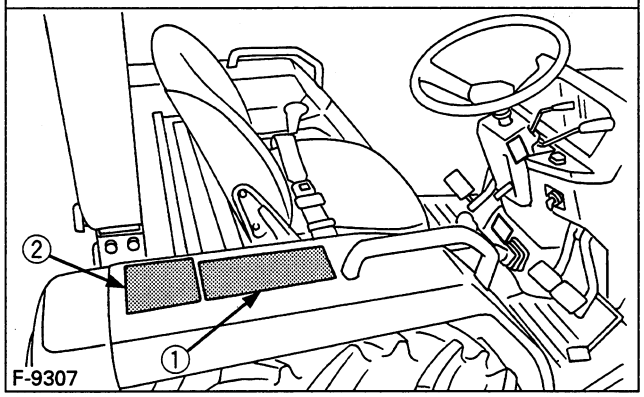
②品番　T0070-4901-2

⚠ 警　告



転倒、転落による死傷事故 軽減のために:
・納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
・安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
・安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

安全フレーム仕様



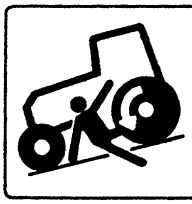
安全に作業するために

①品番　T0273-6497-1 (Uシフト仕様のみ)

注　意

低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと

②品番　T0180-4906-1 (Uシフト仕様のみ)

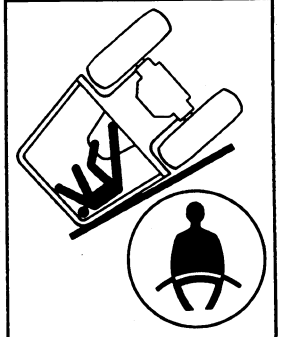


警　告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速キヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません

③品番　T0270-4902-1

警　告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

④品番　T0180-4907-1

注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

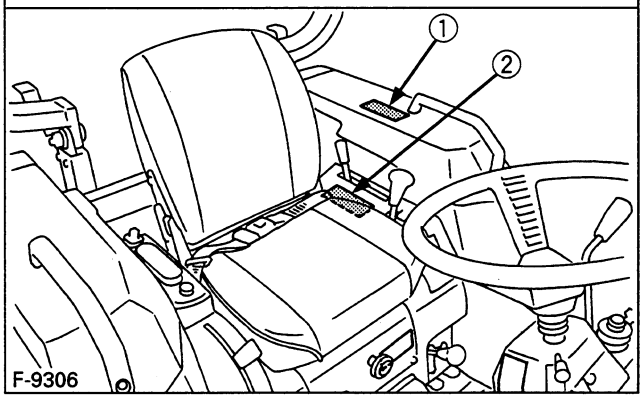
始動時
・シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
・道路走行時はテフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

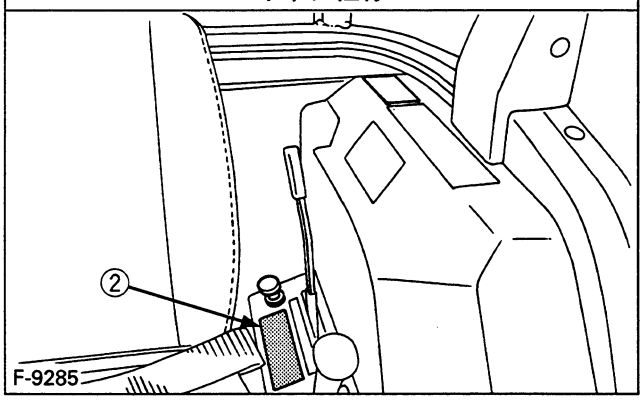
駐車時
・PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

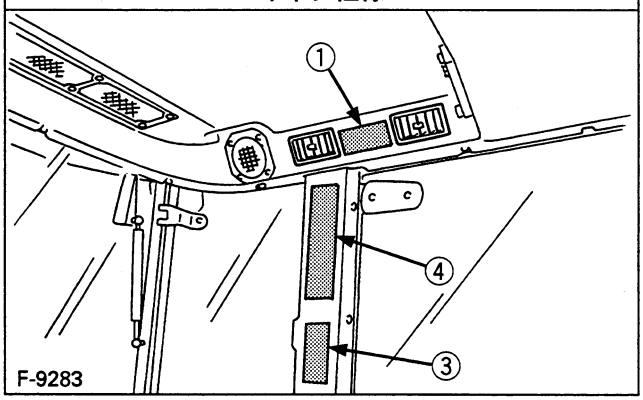
安全フレーム仕様



キャブ仕様



キャブ仕様



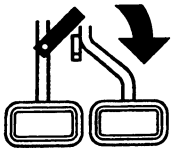
①品番　T0180-4966-1

⚠ 注 意

ポンパは、ほ場内作業にのみ使用すること。作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと

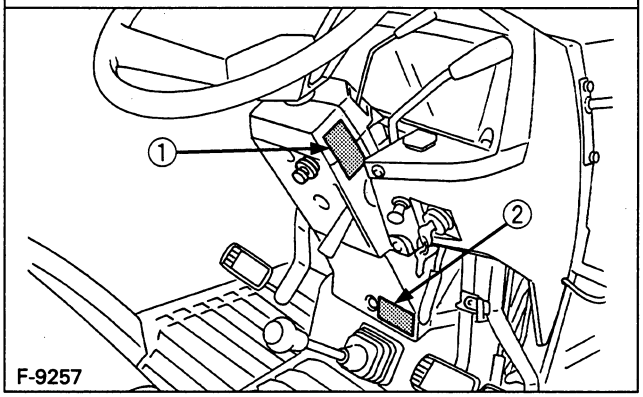
②品番　T0180-4903-2

⚠ 警 告

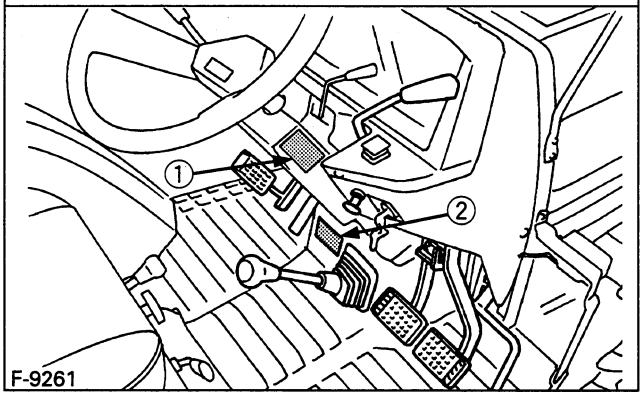


転倒や衝突による死傷事故をふせくために、道路走行時は左右のフレーキペタルを連結すること

TX201Q•221Q•241Q キャブ仕様
TX261(Q)•281(Q)•301(Q)•321(Q)
安全フレーム・キャブ仕様



TX241 安全フレーム仕様



10. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

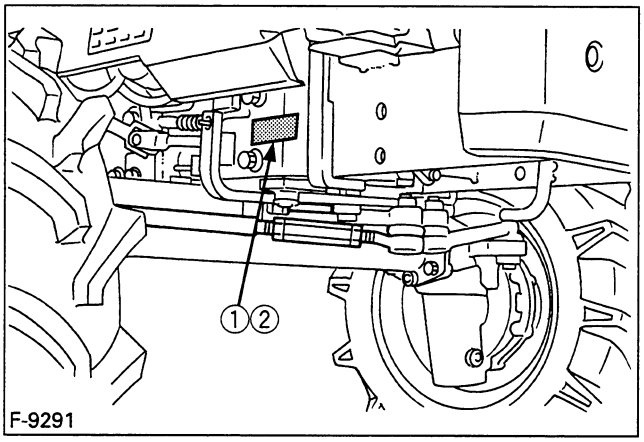
サービスと保証について

■ご相談窓口

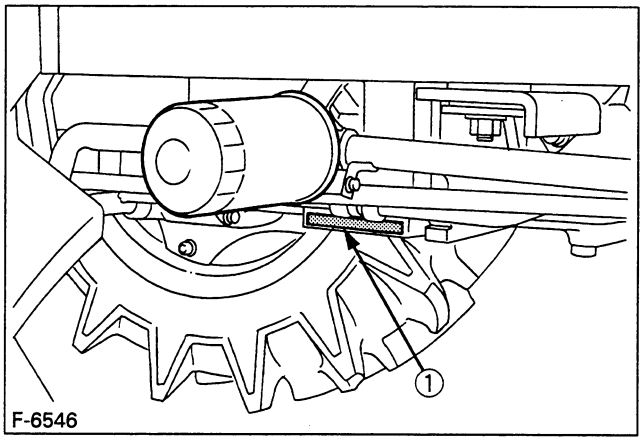
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・整備手帳巻末のホンダ汎用営業所にお気軽にご相談ください。
その際　1. トラクタ名称と車台番号
　　2. エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ホンダ汎用営業所に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

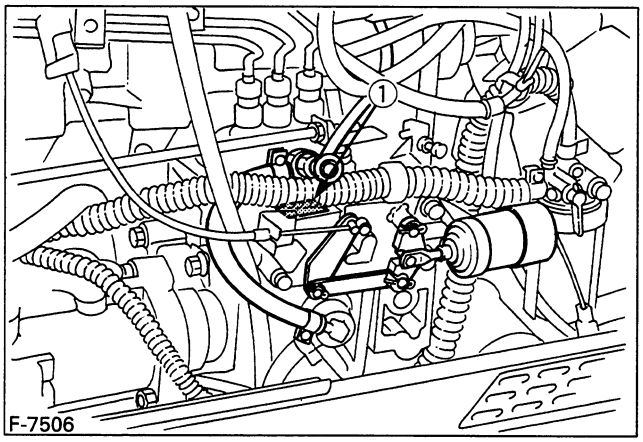
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



①トラクタ名称
②エンジン名称

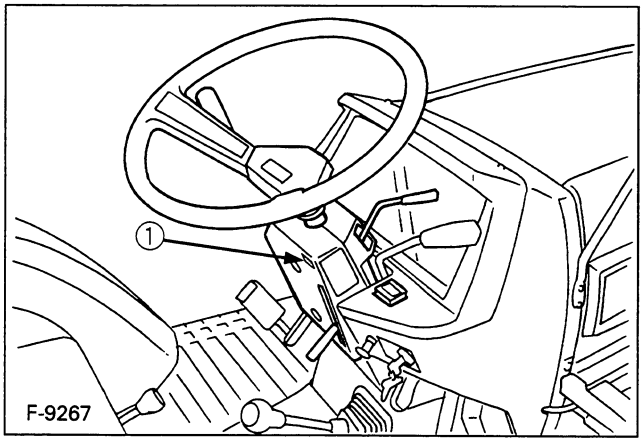


①車台番号



①エンジン番号

保証票は下の図の位置に貼ってください。



①保証票

製　品　名	小型特殊自動車 車名・型式	安全鑑定適合番号	仕　　様	型式認定番号
ホンダTX201	クボタGLAD			農1828号，改造型
ホンダTX221	クボタGLBD			農1829号，改造型
ホンダTX241	クボタGLBD			農1829号，改造型
ホンダTX261	クボタGLDD			農1831号，改造型
ホンダTX281	クボタGLDD		安全フレーム付	農1831号，改造型
	クボタGLID		キャビン付	農1918号，改造型
ホンダTX301	クボタGLED			農1832号，改造型
ホンダTX321	クボタGLED			農1832号，改造型

農機型式名	型式検査（国検）合格番号
クボタGSF23　(安全フレーム)	93010
クボタGSF27　(安全フレーム)	94082
クボタGSF280　(安全フレーム)	94083
クボタGSF32　(安全フレーム)	93045
クボタGSQ241S (安全フレーム)	申請中
クボタGSQ261S (安全フレーム)	申請中
クボタGSQ321S (安全フレーム)	申請中

小型特殊自動車としての取扱い

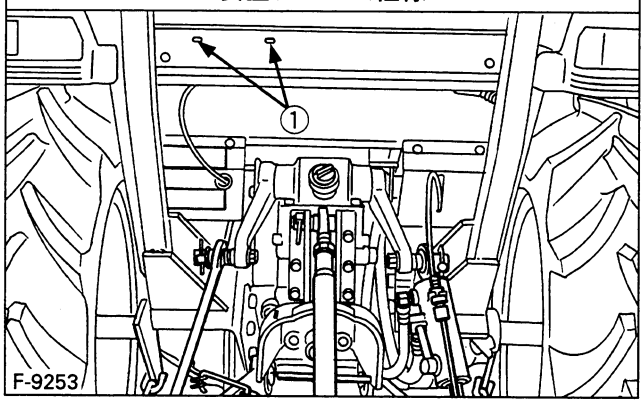
このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

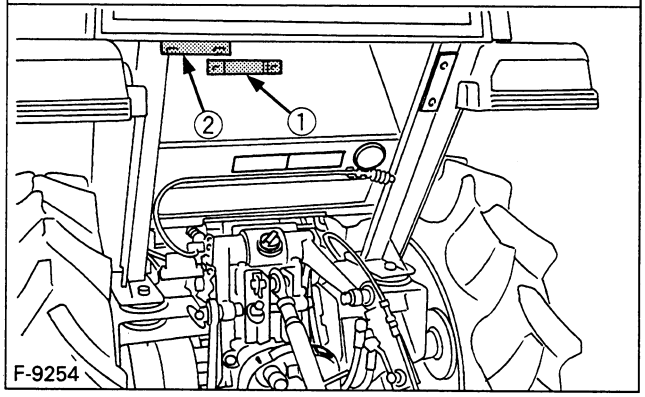
❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。
❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。

安全フレーム仕様



①ナンバプレート取付け位置

キャブ仕様



①ナンバプレート取付け位置【TX201Q･221Q･241Q仕様】
②ナンバプレート取付け位置
【TX261Q･281Q･301Q･321Q仕様】

■運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15㎞／時以下
原動機の総排気量		1500㎤(cc)以下

上記の条件を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特にご留意ください。

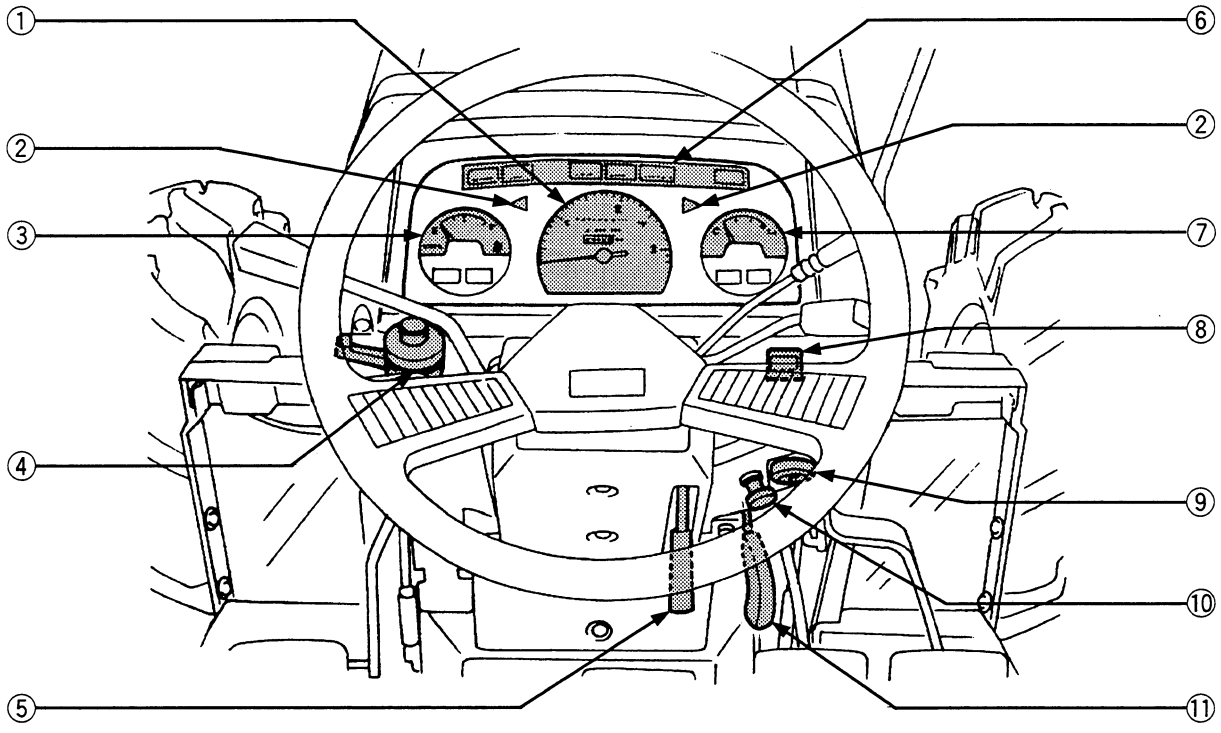
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して運行することはできません。
2. 認定時の構造を変更(大径車輪やインプルメントなどを装着)した状態では，道路走行することはできません。
3. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。

補　足

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

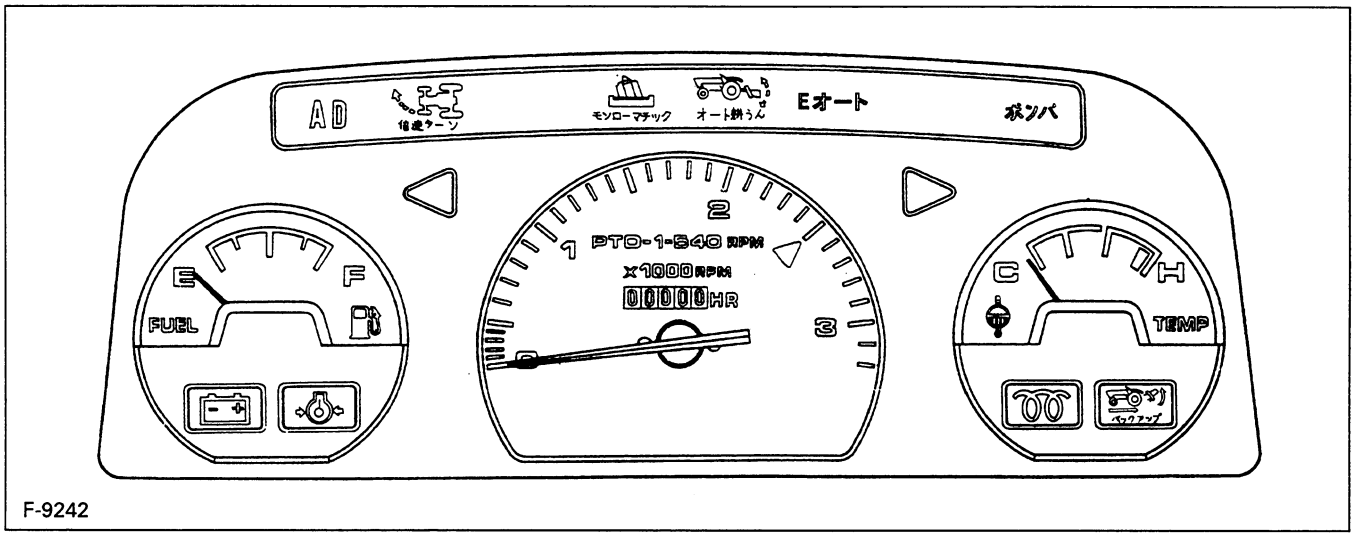


F-9313

参照ページ

①トラクタメータ ……28
②ウインカパイロットランプ ……18
③燃料計 ……27
④コンビネーションスイッチ ……18
　ライティングスイッチ
　ウインカスイッチ
　ホーンボタン
⑤チルトレバー ……17
⑥イージーチェッカ ……27
⑦水温計 ……28
⑧オートアップスイッチ ……35
⑨キースイッチ ……10,11,12
⑩エンジンストップノブ ……8,12
⑪駐車ブレーキレバー ……24,26

■イージーチェッカ



F-9242

参照ページ

バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） ……27

エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯） ……27

グローランプ ……10

バックアップランプ ……45

AD ADランプ ……22

参照ページ

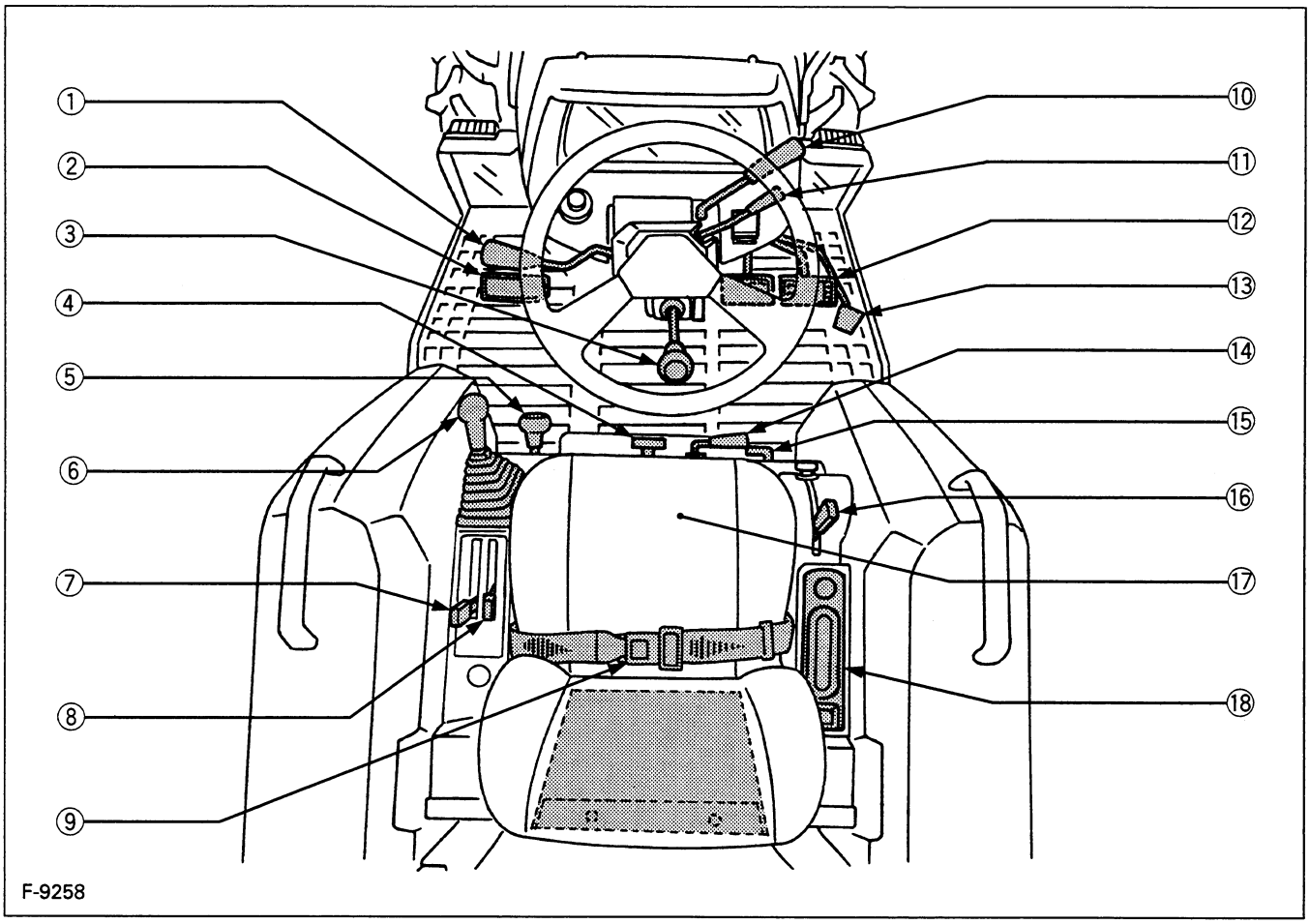
倍速ターンランプ ……21

モンローマチックランプ ……42

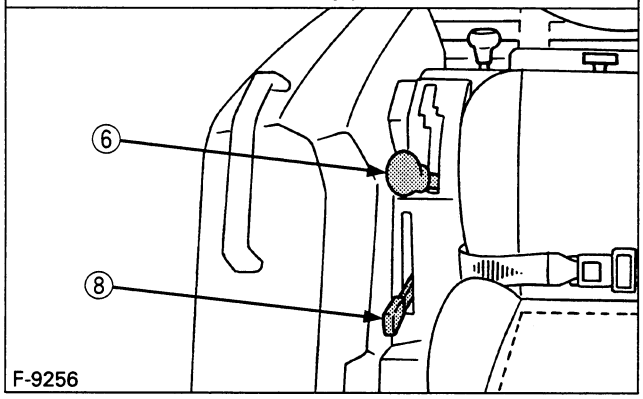
オート耕うんランプ……43

Eオート EオートランプEオートランプ ……43

ポンパ ポンパランプ ……34



Uシフト(F)仕様



参照ページ

①シャトルレバー……23,25
②クラッチペダル……19
③PTO変速レバー……40
④落下調整グリップ……36
⑤倍速ターンレバー……21
⑥主変速レバー……23,25
⑦副変速レバー【マニュアルシフト仕様】……23
⑧クリープレバー……20,23,25
⑨シートベルト……16
⑩アクセルレバー……23
⑪ポンパレバー……34
⑫ブレーキペダル……18
⑬アクセルペダル……23
⑭AD(オートディスクブレーキ)レバー……22
⑮デフロックペダル……29
⑯油圧(ポジションコントロール)レバー……19,33
⑰シート……15
⑱MAスイッチ……41

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**“ホンダ純正オイル”**を使用してください。

エンジンの始動と停止

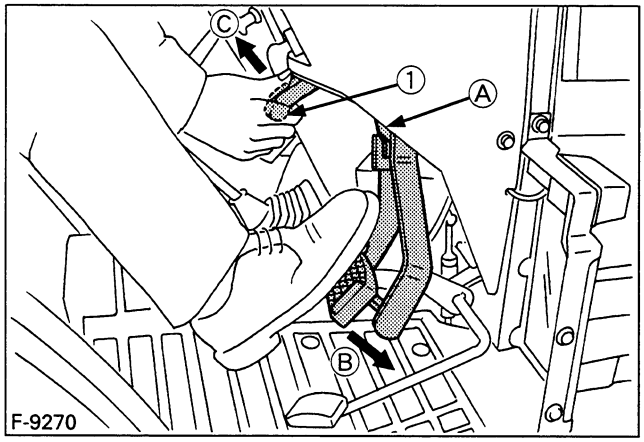
警 告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，シャトルレバーやＰＴＯ変速レバーが“中立”(N)かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

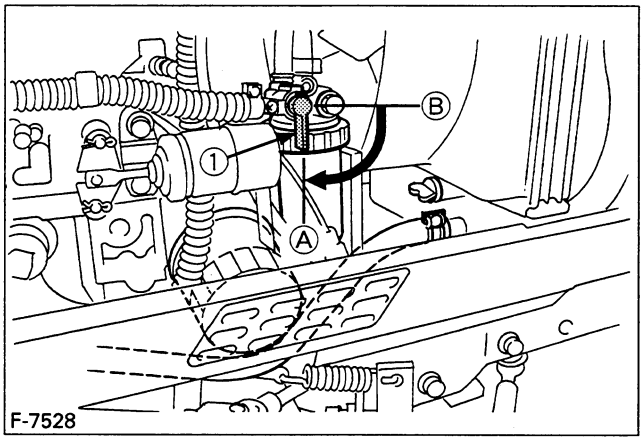
1.駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを“上げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。



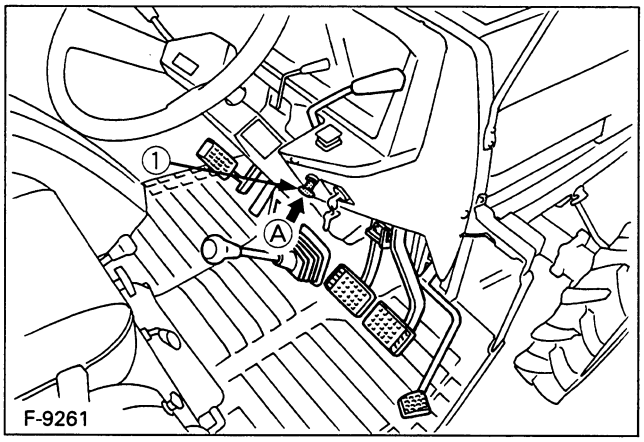
①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具を掛ける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“上げる”

2.燃料フィルタコックを“ON”にします。



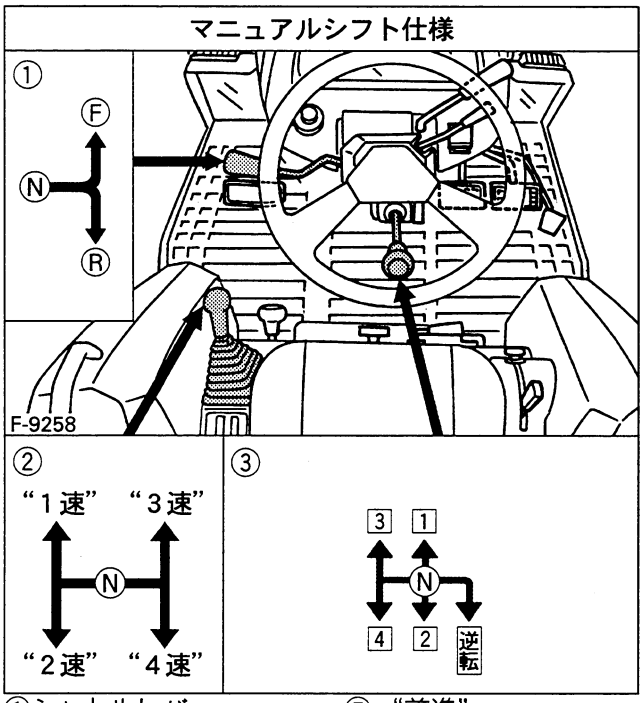
①燃料フィルタコック　Ⓐ“ON”
Ⓑ“OFF”

3.エンジンストップノブが戻っているか確認します。



①エンジンストップノブ　Ⓐ“押込む”

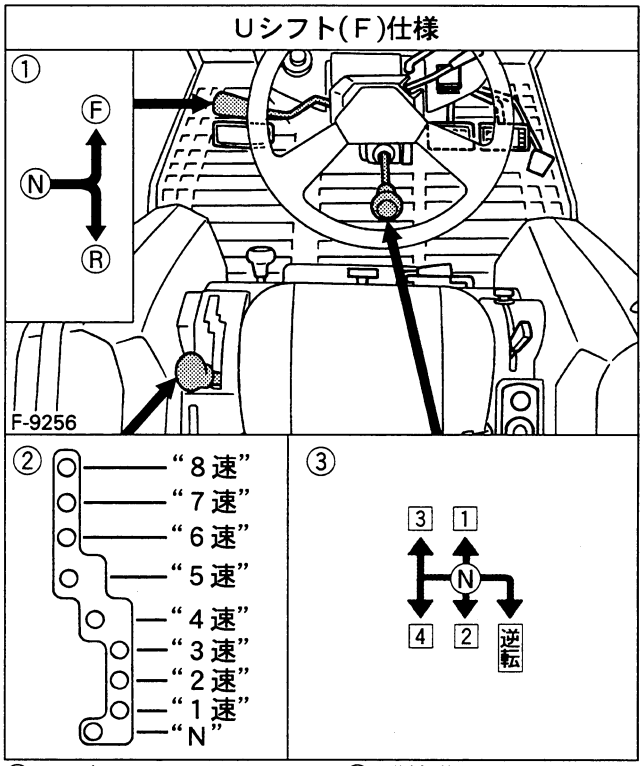
4.主変速レバー，シャトルレバー，PTO変速レバーを“中立”(N)にします。



①シャトルレバー　Ⓕ “前進”
②主変速レバー　Ⓝ “中立”
③PTO変速レバー　Ⓡ “後進”

補　足

＊シャトルレバーとPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。



①シャトルレバー　Ⓕ “前進”
②主変速レバー　Ⓝ “中立”
③PTO変速レバー　Ⓡ “後進”

補　足

＊シャトルレバーとPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

5.キースイッチにキーを差込み“入”位置にします。

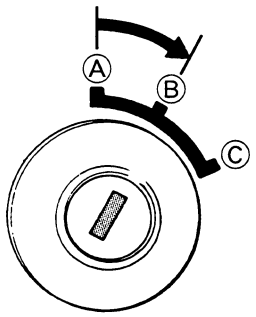
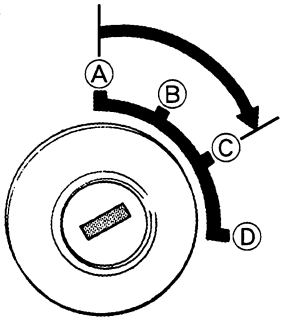
■キースイッチ

切 ……エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC ……キャブ仕様のみエンジン停止中，ラジオ付きカセットプレーヤが使えます。
（この位置で，長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。）

入 ……燃焼室内を予熱する位置。
エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

始動 ……エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に“入”に戻ります。

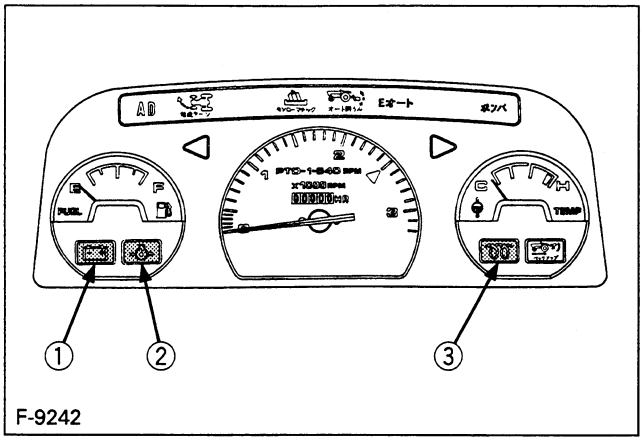
安全フレーム仕様	キャブ仕様
	
F-5724	F-5724改

Ⓐ “切”
Ⓑ “入”
Ⓒ “始動”

Ⓐ “切”
Ⓑ “ACC”
Ⓒ “入”
Ⓓ “始動”

◆イージーチェッカランプ

1. キースイッチを“入”位置にすると，①②③ランプが点灯します。
2. 予熱が完了すると自動的にグローランプ③が消灯します。



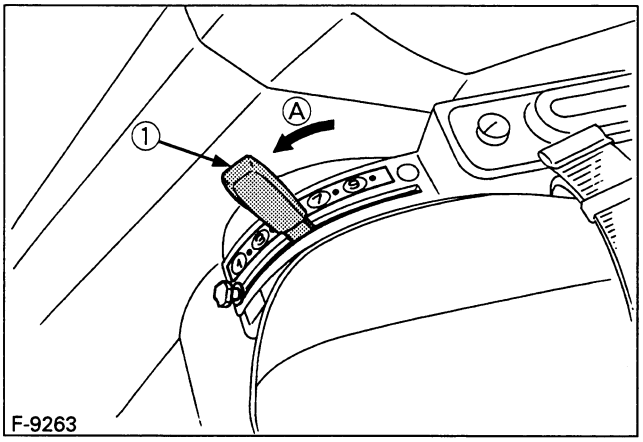
F-9242

①バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
②エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）
③グローランプ

補 足

＊各レバーやスイッチの位置により，イージーチェッカ内のランプが点灯又は点滅する場合もあります。

6.油圧レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。



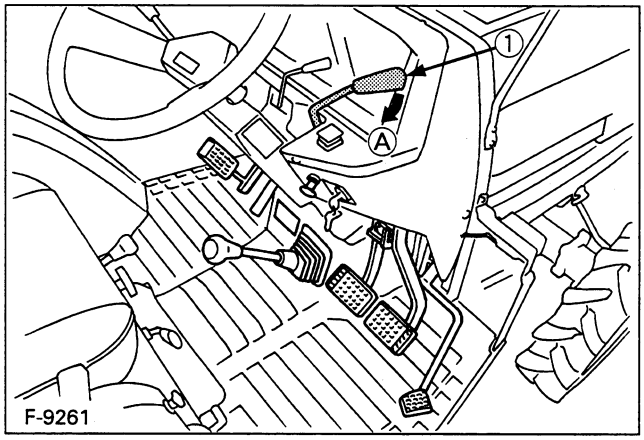
F-9263

①油圧レバー　　Ⓐ “下げる”

補 足

＊油圧ロックされている場合は下がりません。
〔詳細は“油圧”の項を参照〕

7.アクセルレバーを“中程”まで引きます。



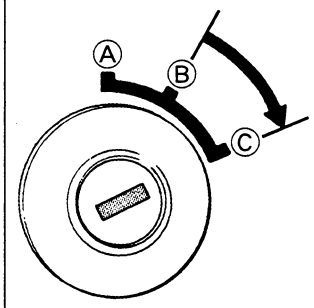
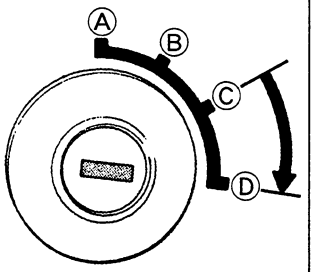
①アクセルレバー　　Ⓐ “加速”

8.クラッチペダルを“踏込み”ます。

補　足

＊エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

9.キーを“始動”位置に回します。

安全フレーム仕様	キャブ仕様
	
F-5724	F-5724改
Ⓐ “切” Ⓑ “入” Ⓒ “始動”	Ⓐ “切” Ⓑ “ACC” Ⓒ “入” Ⓓ “始動”

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

10.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

自動的に“入”にもどります。

重　要

＊エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

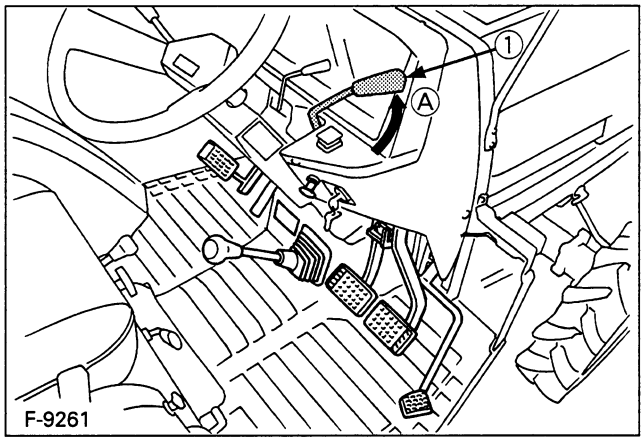
11.バッテリチャージランプ，エンジンオイルランプが“消灯”したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

12.エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま必ず暖機運転しましょう。

停止のしかた

1.アクセルレバーをいっぱい前へ“押し”てアイドリング状態にします。

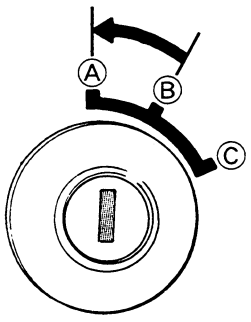
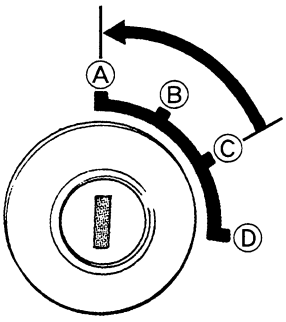


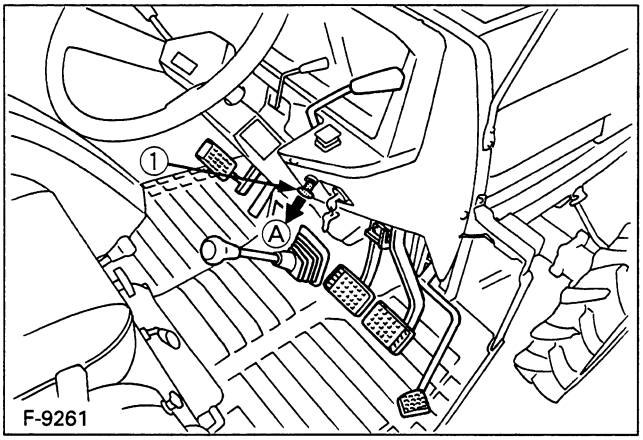
①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

2.キースイッチのキーを“切”の位置にすると，エンジンは停止します。

重　要

＊万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。

安全フレーム仕様	キャブ仕様
	
F-5724	F-5724改
Ⓐ“切” Ⓑ“入” Ⓒ“始動”	Ⓐ“切” Ⓑ“ACC” Ⓒ“入” Ⓓ“始動”



①エンジンストップノブ　　Ⓐ“引張る”

補　足

＊エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

＊エンジンが停止して数秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が作動する音です。

3.キーは必ず“抜き”ましょう。

重　要

＊キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。

＊バッテリプラスカットリレーは，キースイッチ**“切”**の位置で機能するため，トラクタの停止中は必ずキースイッチを**“切”**とし，キーを抜いてください。

暖機運転

注　意

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆本トラクタはUシフトを装備しています。

Uシフトは油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	少なくとも10分間
0～－10℃	10～20分間
－10～－20℃	20～30分間
－20℃以下	30分間以上

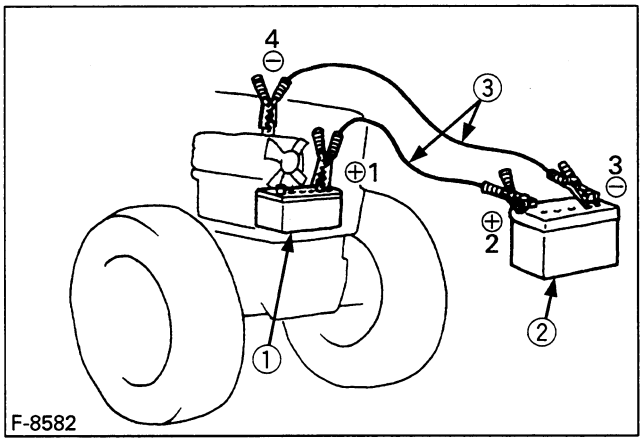
補　足

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
　＊バッテリの⊕端子同士を接続します
　＊マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
　(マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

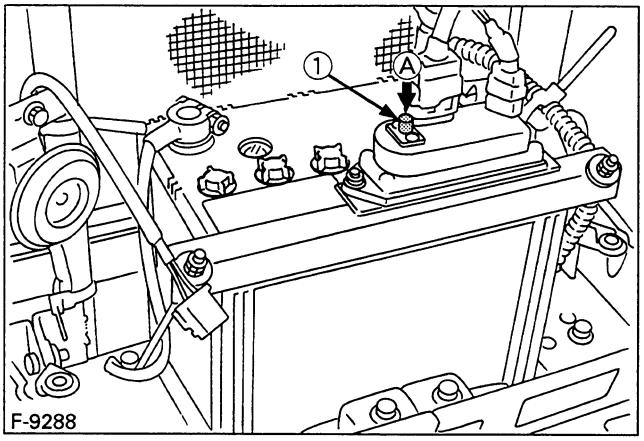
❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸トラクタのエンジンを始動します。
　(始動手順は**“エンジンの始動と停止”**の項を参照)
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

バッテリプラスカットリレー

1. 格納時，配線のショートによる火災を防止する装置です。
2. キースイッチを**“入”**位置にしても，イージーチェッカランプが全く点灯しないときは，プラスカットリレーがしゃ断されている場合があります。
〔リセット方法は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章の**“必要に応じた点検・整備”**の**“プラスカットリレーのリセット方法”**の項を参照〕



①リセットスイッチ　　Ⓐ “押す”

重　要

＊バッテリの性能が低下した場合は，プラスカットリレーが作動し，エンジンが始動しない場合があります。このときは，バッテリの充電又は交換を行ない，リセットスイッチを押してください。

＊プラスカットリレーは，キースイッチ**“切”**の位置で機能するため，トラクタの停止中は必ずキースイッチを**“切”**とし，キーを抜いてください。

トラクタの運転

警 告

＊トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

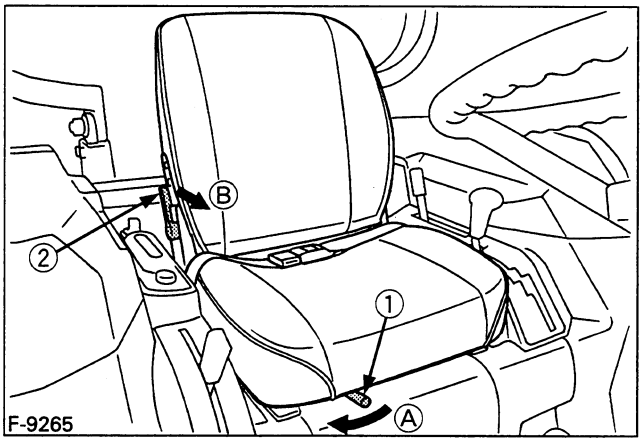
ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. 前後調節レバーでロックを**“解除”**すると，前後5段階に調節できます。
2. リクライニング調節レバーを**“前に倒す”**と，背もたれの角度が調節できます。



①前後調節レバー　Ⓐ “ロック解除”
②リクライニング調節レバー　Ⓑ “前に倒す”

■安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

＊安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

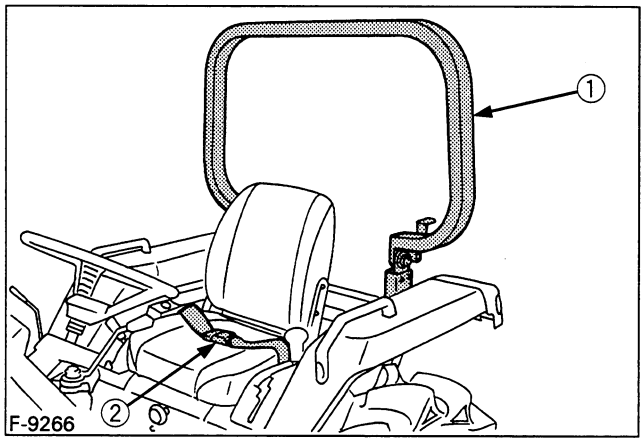
＊安全キャブ又は安全フレームの改造を絶対にしないでください。
また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊安全フレームを立てたときは，ストッパを入れてノブボルトで確実に固定してください。
また日常点検時，ノブボルトにゆがみがないか確認してください。

＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

＊安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。



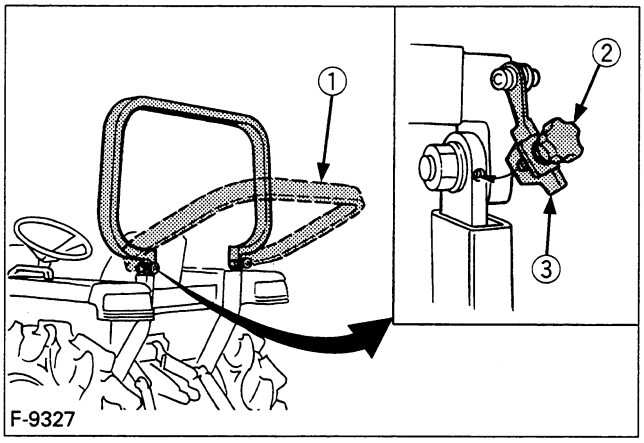
①安全フレーム
②シートベルト

◆折りたたみ方法

ノブボルトをゆるめてストッパを後方へ回動させると，フレーム(ウエ)を後方に折りたためます。

補　足

＊安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。



①上フレーム
②ノブボルト
③ストッパ

◆組立て方法

フレーム(ウエ)を前方に起こし，ストッパを入れてノブボルトでしっかりと確実に固定してください。

〔ノブボルトが締まっていないと，フレーム(ウエ)がガタつきノブボルトが折損することがあります。〕

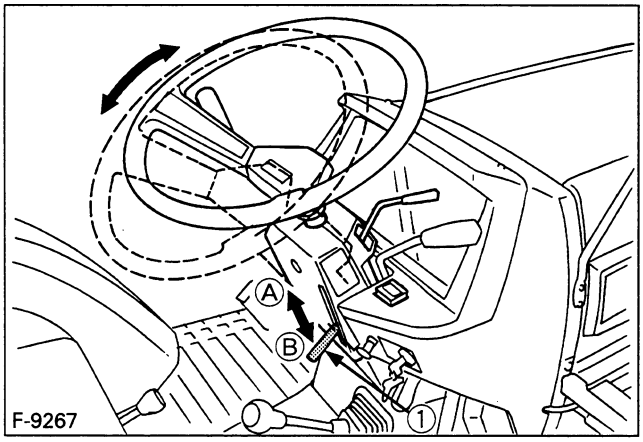
■ステアリングハンドル

注　意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

＊走行中の調節はしないでください。

チルトレバーでロックを**“解除”**すれば，ステアリングハンドルが任意の位置に調節できます。

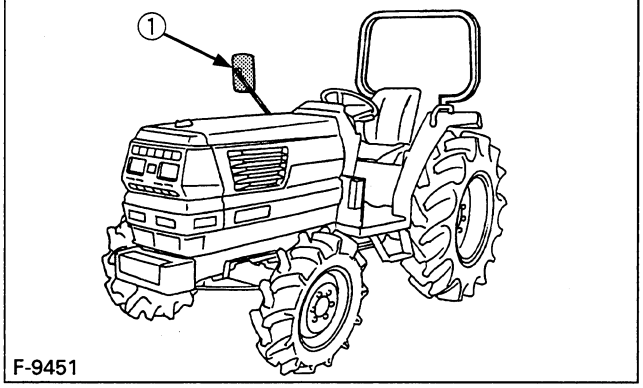


①チルトレバー　　Ⓐ “ロック解除”
Ⓑ “ロック”

■バックミラー

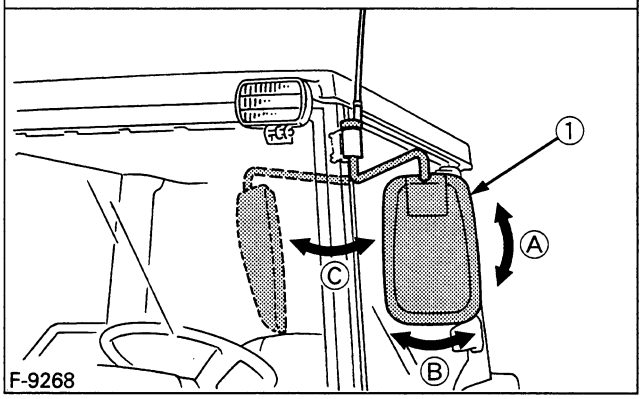
1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. バックミラーは，格納できますので狭い場所などで利用してください。**【キャブ仕様】**

安全フレーム仕様



①バックミラー（右）

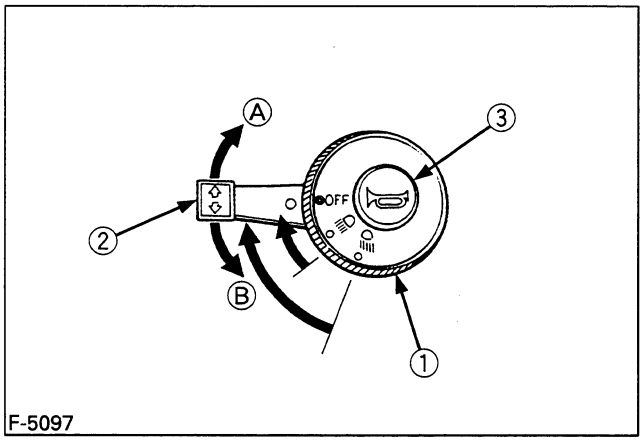
キャブ仕様



①バックミラー　　Ⓐ “上下”
Ⓑ “左右”
Ⓒ “格納”

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ



F-5097

①ライティングスイッチ　Ⓐ “右点滅”
②ウインカスイッチ　Ⓑ “左点滅”
③ホーンボタン

◆ライティングスイッチ

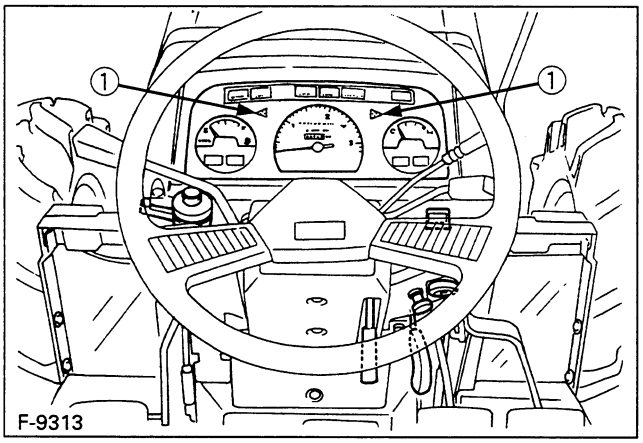
OFF……ヘッドランプ消灯位置。

≡O……ヘッドランプ上向き照射位置。

≡O……ヘッドランプ下向き照射位置。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



F-9313

①ウインカパイロットランプ

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

発進・走行

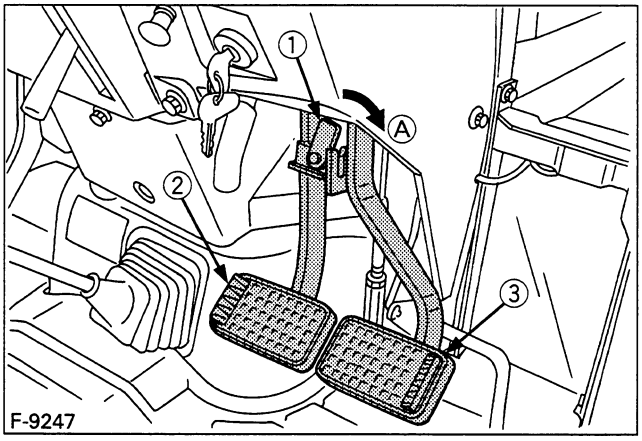
1.ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警　告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。

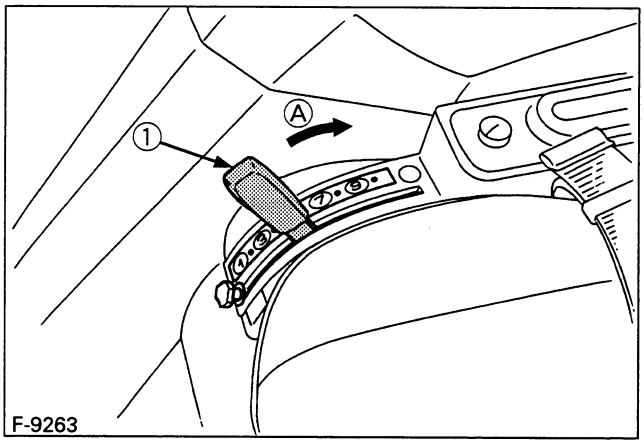


F-9247

①連結金具　Ⓐ “道路走行時は必ずかける”
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)

2.油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は“油圧”の項を参照〕



①油圧レバー　　Ⓐ“上げる”

3.クラッチペダルを踏込みます。

注　意

＊急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

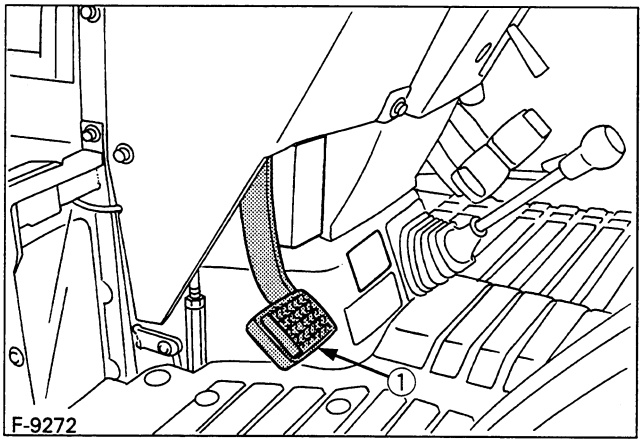
ペダルを踏込む……クラッチが切れる。

ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補　足

＊下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。

- 主変速レバー　**【マニュアルシフト仕様】**
- シャトルレバー**【マニュアルシフト仕様】**
- 副変速レバー　**【マニュアルシフト仕様】**
- クリープレバー
- 倍速ターンレバー
- ＰＴＯ変速レバー



①クラッチペダル

4 .作業に応じ必要なレバー類を操作します。

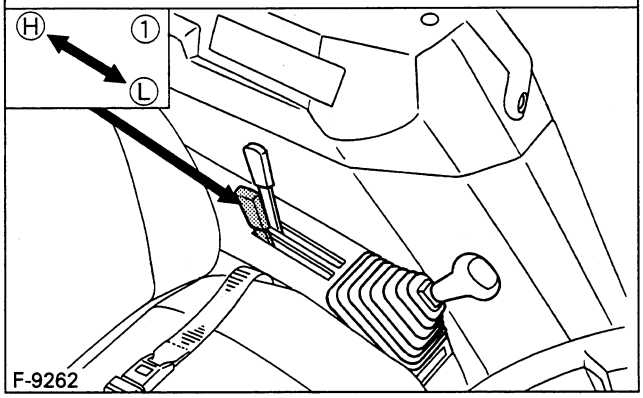
■クリープレバー

“L”位置で低速（クリープ速度），“H”位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。

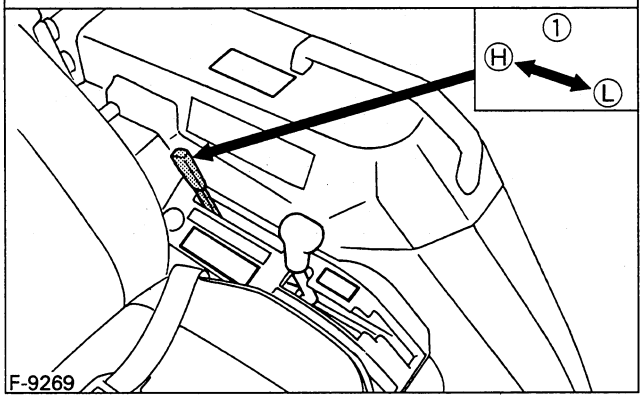
重 要

＊クリープレバーには，AD解除装置が組込まれていますので，正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。
〔取扱いの詳細は，**“AD（オートディスクブレーキ）レバー”**の“重 要”の項を参照〕

マニュアルシフト仕様



Uシフト(F)仕様



①クリープレバー　　Ⓛ “低速”
Ⓗ “高速”

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   ＊ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   ＊ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   ＊プランタによる移植作業。
   ＊農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
   ＊車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業(故障の原因になります)
   ＊湿田での沈没状態から脱出する作業。
   ＊けん引・トレーラ作業。
   ＊フロントローダ作業。
   ＊フロントブレード作業(除雪作業)。
   ＊土木作業。
   ＊ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   ＊変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   ＊発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   ＊クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
   停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重 要

＊クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊クリープ速度では，けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補 足

＊クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったんシャトルレバーを**“中立”**(N)にしてから操作してください。

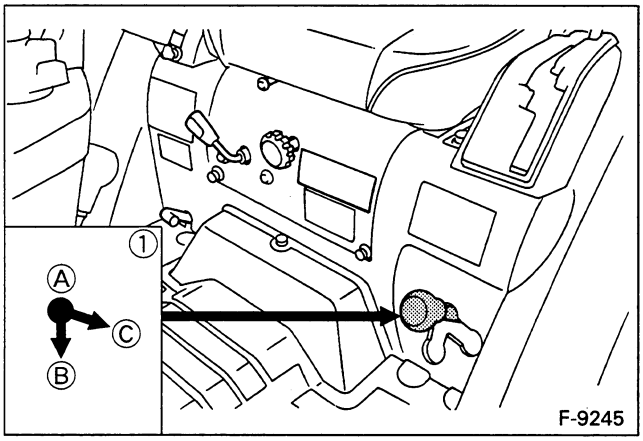
■倍速ターンレバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。

倍速ターン“入”（倍速ターンランプ点灯）
……旋回時，倍速ターンが作動する。

前輪駆動“入”……4輪が駆動される。

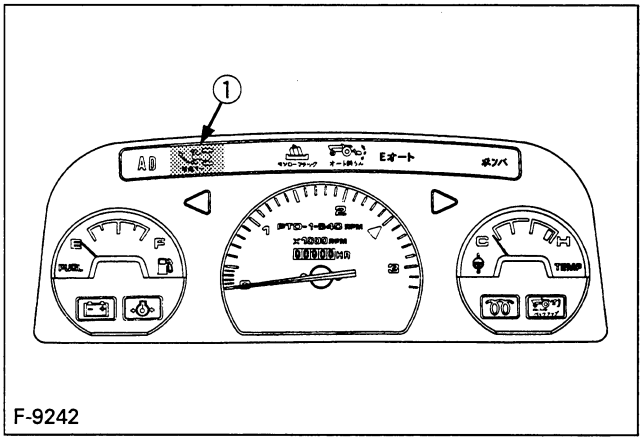
前輪駆動“切”……前輪駆動が切れる。



①倍速ターンレバー　Ⓐ前輪駆動“入”
Ⓑ前輪駆動“切”
Ⓒ倍速ターン“入”

補　足

＊倍速ターンレバーを“入”にすると，イージーチェッカの倍速ターンランプが点灯します。



①倍速ターンランプ

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

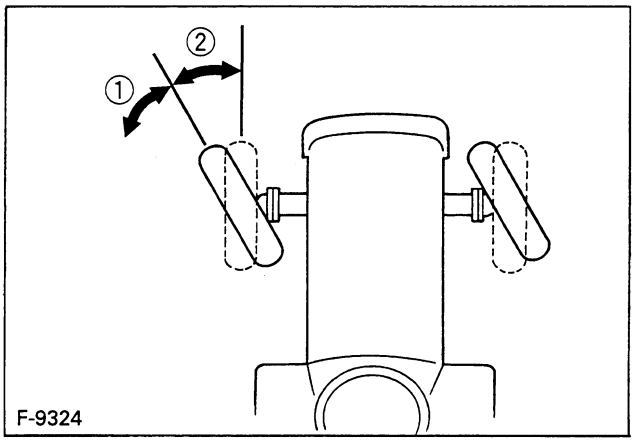
◆倍速ターンの使い方

警　告

＊倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを前輪駆動“入”又は前輪駆動“切”に切換えてください。

＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は次のようになっています。
旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態から約30度になるまでは，通常の4輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
更にステアリングハンドルを切り約30度以上になると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約2倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



①倍速ターン作動
②通常の4輪駆動(約30度)

重　要

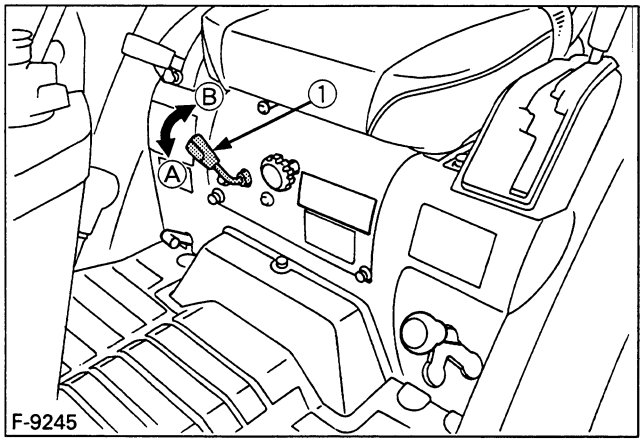
＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

■AD(オートディスクブレーキ)レバー

片ブレーキの自動作動をさせるレバーです。

AD **“入”** ……ステアリングハンドルを一杯に回すと，自動的に内側後輪に軽くブレーキがききます。

AD **“切”** ……片ブレーキの自動作動が切れます。



F-9245

①ADレバー　　Ⓐ “入”
Ⓑ “切”

重　要

＊ADレバー **“入”** で
下記変速位置（高速位置）にすると，自動的にADレバーを“切”にする装置（AD解除装置）を装備しています。他の変速位置から下記変速位置に変速するときは，必ず**前輪を直進状態**にして変速操作してください。前輪を切ったまま，無理に下記変速位置に変速させるとAD解除装置に負担がかかり故障の原因になります。

【マニュアルシフト仕様】

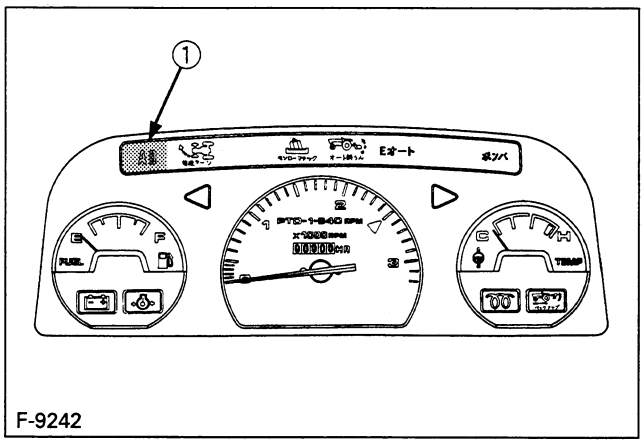
クリープレバー	副変速レバー
H	H

【Uシフト(F)仕様】

クリープレバー	主変速レバー
H	5～8速

補　足

＊ADレバーを **“入”** にするとイージーチェッカのADランプが点灯します。



F-9242

①ADランプ

◆AD(オートディスクブレーキ)の使い方

注　意

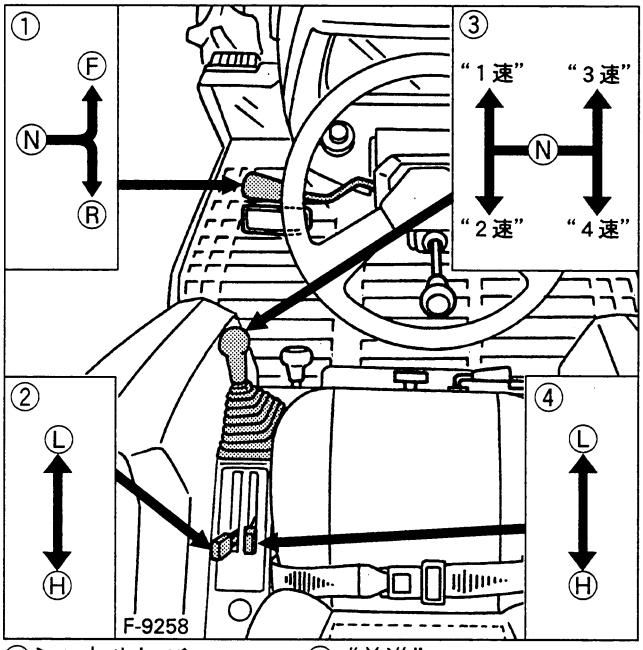
＊AD “入” のままでほ場以外を走行すると，旋回時急に回わり事故の原因になります。
ほ場から出る前に必ずADレバーを “切” にしてください。

1. 隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，ADはこの操作を自動的に行なうものです。
2. ADの作動は次のようになっています。
   旋回動作に入り，ステアリングハンドルを一杯に切ると，ADが連動して内側後輪に軽くブレーキがかかり，小さく，スムーズな旋回が行なえます。
3. ADは，２輪駆動時，４輪駆動時にも作動しますが，倍速ターンと併用すると最も効果を発揮します。

以下，仕様により操作が異なります。

マニュアルシフト仕様

5.走行速度を選択します。



①シャトルレバー　Ⓕ “前進”
②副変速レバー　Ⓝ “中立”
③主変速レバー　Ⓡ “後進”
④クリープレバー　Ⓛ “低速”
Ⓗ “高速”

４本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

重　要

＊操作はクラッチを切り，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■シャトルレバー

レバーを持ち上げ，前に押して**“前進”**，手前(後)に引いて**“後進”**です。

■主変速レバー

レバー１本で４段の車速が選択できます。

■副変速レバー

“L”位置で低速，**“H”**位置で高速が得られます。

重　要

＊副変速レバーには，AD解除装置が組込まれていますので，正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。
〔取扱いの詳細は，**“AD（オートディスクブレーキ）レバー”**の“**重　要**”の項を参照〕

■クリープレバー

“L”位置で低速（クリープ速度），**“H”**位置で高速が得られます。
〔取扱いの詳細は**“4.作業に応じ必要なレバー類を操作します”**の項を参照〕

6.エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

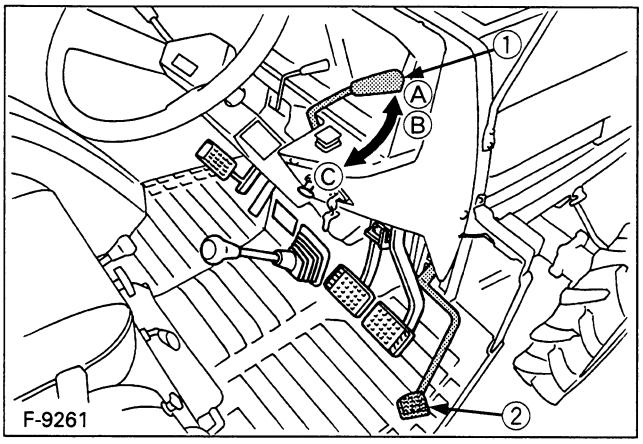
主に農作業時に使用する。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。

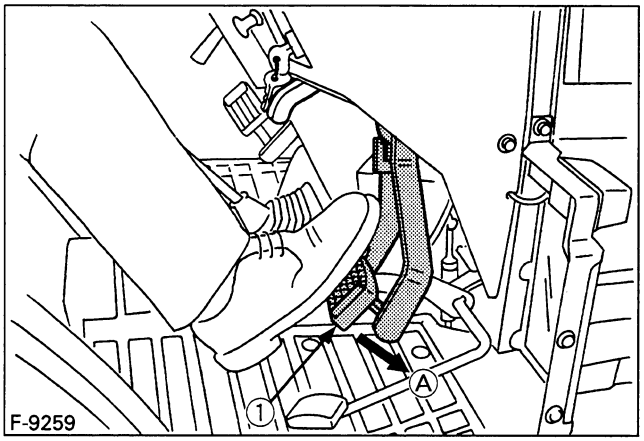


①アクセルレバー　Ⓐ “アイドリング”
②アクセルペダル　Ⓑ “低速”
Ⓒ “高速”

7.駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**“踏込む”**と駐車ブレーキが解除されます。



①ブレーキペダル　　Ⓐ “踏込む”

8.クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

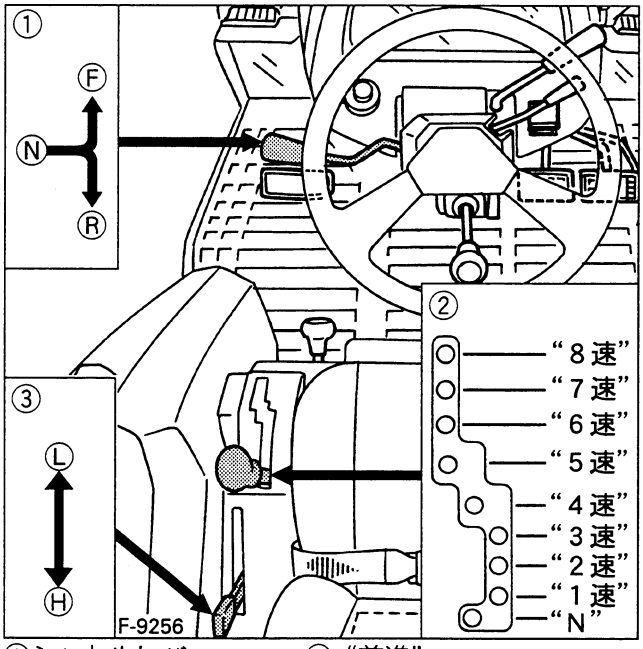
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

Uシフト（F）仕様

5.主変速レバーを“1速”に入れます。

6.シャトルレバーを“前進”又は“後進”に入れると，トラクタが動き始めます。

7.主変速レバーを1段ずつ変速したい位置まで変速してください。



①シャトルレバー　　Ⓕ “前進”
②主変速レバー　　Ⓝ “中立”
③クリープレバー　　Ⓡ “後進”
Ⓛ “低速”
Ⓗ “高速”

3本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

■主変速レバー

注 意

＊急発進はしないでください。
＊安全のため，急激な変速は避けてください。変速は1段ずつ行なってください。
＊緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーで発進するとき，変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
・十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。
・低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。

重 要

＊主変速レバーには，AD解除装置が組込まれていますので，正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。
〔取扱いの詳細は，**“AD（オートディスクブレーキ）レバー”**の“**重 要**”の項を参照〕
＊油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。
1. 作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
2. 急激なシフトダウンは避けてください。
3. トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

補 足

＊レバー1本で8段の車速が選択できます。
停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。

■シャトルレバー

注 意

＊シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。
＊“前進”←→“後進”のシフト操作は，いったん“中立”位置にして停止してから操作してください。

レバーを持ち上げ，前に押して**“前進”**，手前(後)に引いて**“後進”**です。レバー操作は，クラッチペダルを踏まなくても(ノンクラッチ)変速することができます。

■クリープレバー

“L”位置で低速(クリープ速度)，**“H”**位置で高速が得られます。
〔取扱いの詳細は**“4.作業に応じ必要なレバー類を操作します”**の項を参照〕

停車・駐車

警 告

＊Uシフトは油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注 意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・シャトル・PTO）を“中立”(N)，作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

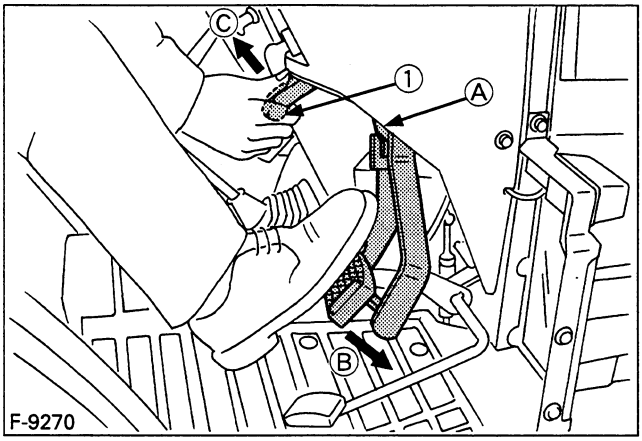
1.アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2.クラッチ及びブレーキペダルを“踏込み”ます。

3.完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及びPTO 変速レバーを“中立”(N)にします。

4.作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。

5.駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。



①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“上げる”

6.キースイッチを“切”にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

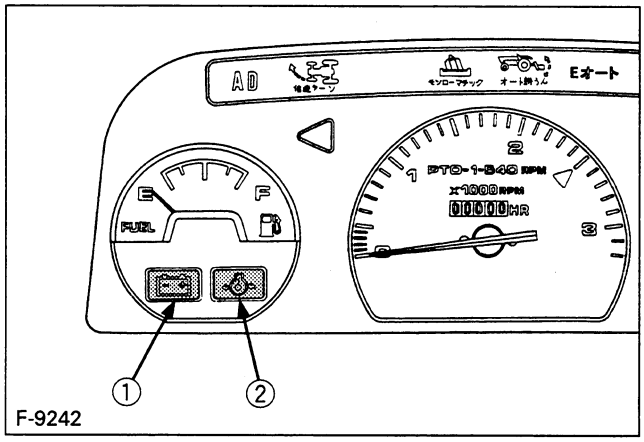
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



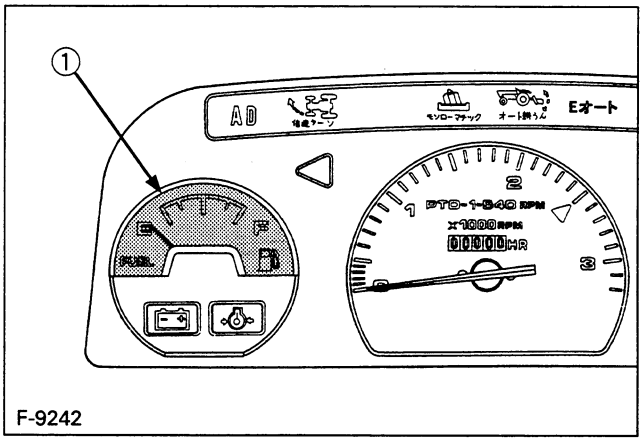
F-9242

① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

② エンジンオイルランプ
（エンジン油圧警告灯）
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを**“入”**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

■燃料計

指針が**“E”**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
〔**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照〕



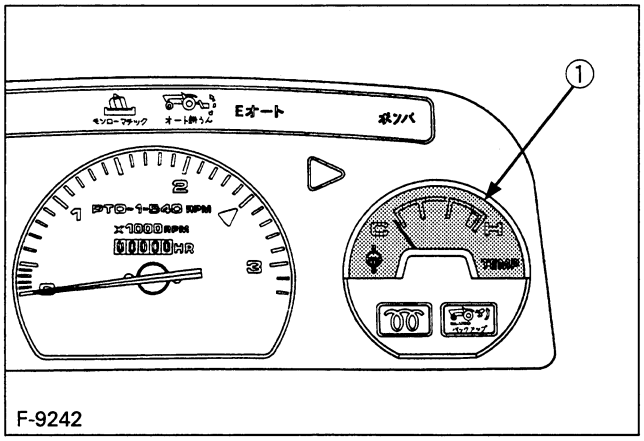
F-9242
①燃料計

■水温計

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**“H”**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が**“H”**にあるとき)したときは，

❶作業を中止し，

❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから，

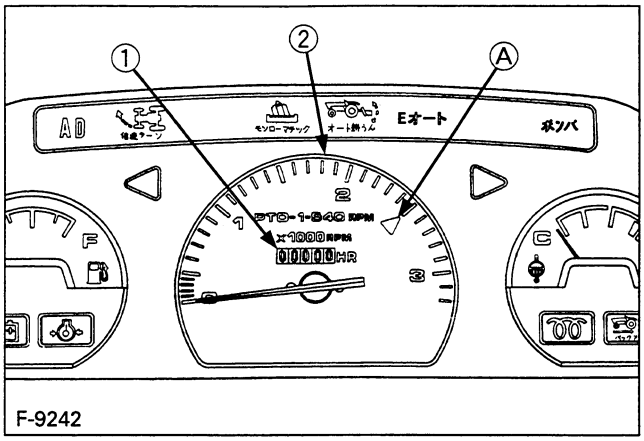
❸エンジンを停止し，停止後30分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記**“◆オーバヒートしたときの処置”**を行なってください。

■トラクタメータ



①積算時間計　　Ⓐ ＰＴＯ-１:540rpm
②エンジン回転計

◆積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は1/10時間(６倍すると**“分”**単位)を示します。

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

◆ＰＴＯ回転計

ＰＴＯ**“１速”**時，エンジン回転計の指針を**“ＰＴＯ-１:540rpm”**位置に合わせると，ＰＴＯが540回転となります。

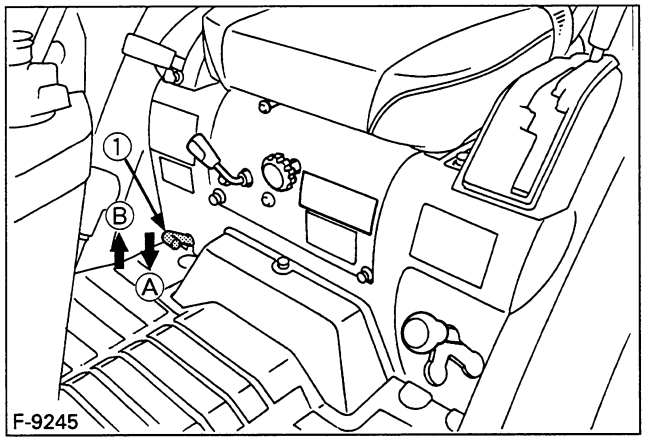
デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル　　Ⓐ踏む“ロック”
Ⓑ離す“解除”

◆デフロックの使い方

注　意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。

＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

＊使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

注　意

＊高速で回ると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

警　告

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。

＊坂道では主変速を“中立”にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。

＊急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警 告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注 意

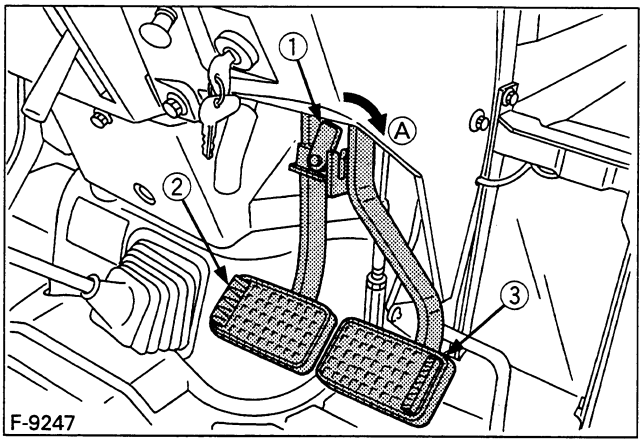
＊倍速ターンレバーは“２輪又は４輪駆動”にしてください。
＊AD(オートディスクブレーキ)レバーはAD“切”にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

警 告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ“道路走行時は必ずかける”

注 意

＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【“道路運送車両法”の保安基準】
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊道路走行時にはモンロー切換えスイッチを必ず“切”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドランプを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**“連結”**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い【パワーステアリング仕様】

注　意

＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重　要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

＊ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。

＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

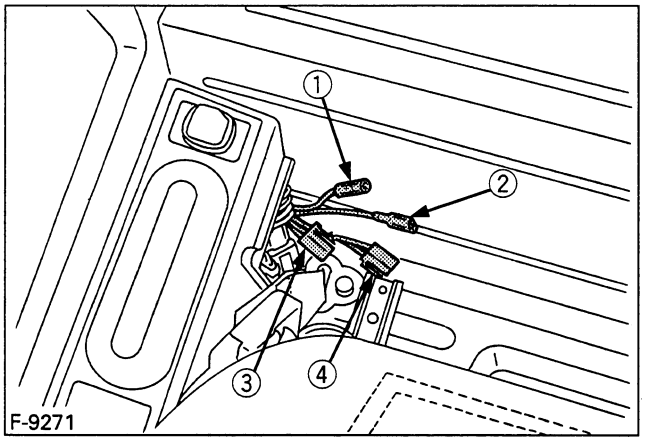
＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，ローダ電源用カプラ，予備電源カプラ

作業灯，トレーラ尾灯，ローダ電源，予備電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。



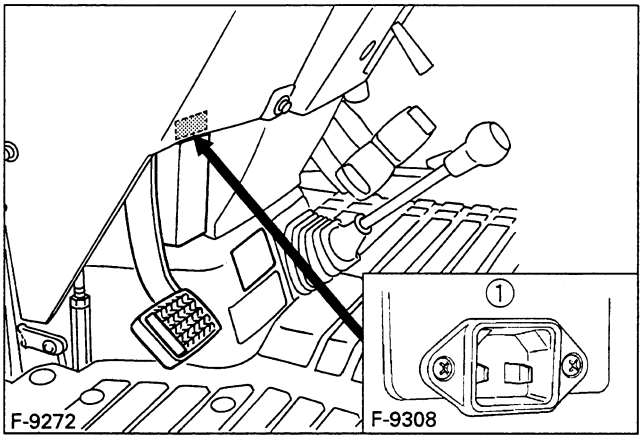
①トレーラ尾灯用カプラ　(青)
②作業灯用カプラ　(黄)
③作業機(ローダ)用電源カプラ　(黄赤，黒)
④予備電源カプラ　(黄赤，黒)

補　足

＊TX201・221・241キャブ仕様の作業灯用カプラは，ルーフの後ろにあります。
＊キャブ仕様には，上図の作業灯用カプラ(黄)はありません。
＊キャブ仕様の，上図予備電源カプラ(黄赤，黒)には，シガライタが接続されています。

■燃料給油ポンプ専用電源コンセント

燃料給油ポンプを使用するときは，クラッチペダル上方に専用電源コンセントがあります。



①燃料給油ポンプ専用電源コンセント

重　要

＊ローダ電源，予備電源，及び給油ポンプ電源は同時には使用できません。ヒューズ切れの原因となります。

油圧・三点リンク・ＰＴＯ

油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

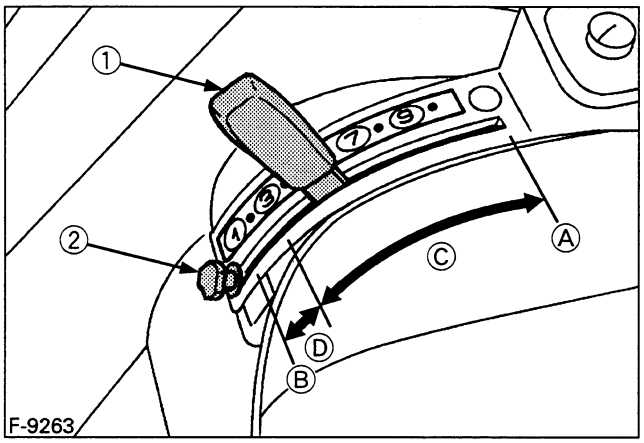
■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，

レバーを後方に引く……作業機が上昇する。

レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に作動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。



①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ “上がる”
Ⓑ “下がる”
Ⓒポジション範囲
Ⓓフローティング範囲

◆油圧レバー

安全のため，次の取扱い特性があります。

1.エンジン始動後，油圧レバーを元の位置（エンジン停止時の位置）に操作しポンパランプの点滅を解除しないと作業機は昇降しません。
ポンパランプ点滅解除時，ブザー音が２回鳴ります。

2.エンジン停止後，キースイッチを**“入”**にして上記１．の操作後，油圧レバーを**“前方に倒す”**と，作業機は下降します。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇高さを制限している時は，制限位置までしか上昇しません。
〔詳細は**“モンローマチックオート”**の項を参照〕

■レバーストッパの使い方

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■ポンパレバー

注　意

＊ほ場内作業以外では，ポンパを使用しないでください。
＊ポンパアップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバー操作で作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる(ポンパランプ点灯)……作業機上昇
レバー下げる(ポンパランプ消灯)……作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯），ポジション制御になります。

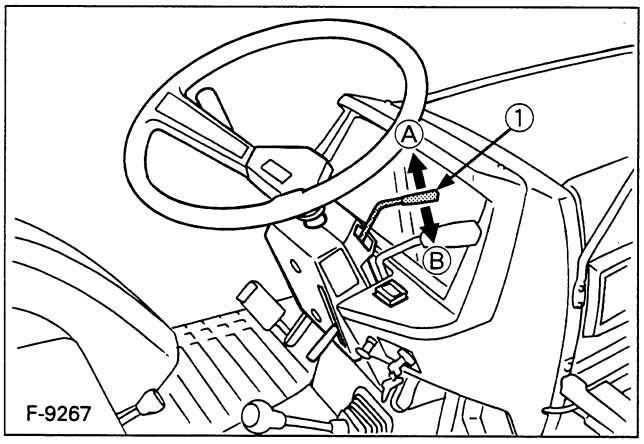
補　足

＊ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がフロアシートに当らないことを確認してください。
＊ポンパレバー操作時，ブザー音が１回鳴ります。

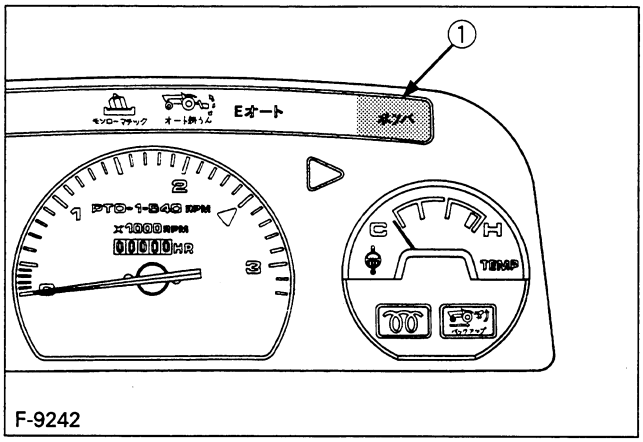
◆ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。

【耕深位置制御】



①ポンパレバー　　Ⓐ“上げる”
Ⓑ“下げる”



①ポンパランプ

補　足

＊ポンパランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの**“点滅を解除”**してから使用してください。

■ポンパランプについて

油圧レバー位置及びポンパレバーの状態とロアーリンク位置が異なる状態でエンジンを始動した場合，ポンパランプが点滅するようになっています。このようなときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除して使用してください。解除時ブザーが２回鳴ります。
また，三点リンク高さ規制ダイヤルを**“油圧取出”**位置でエンジンを始動した場合も，ポンパランプが点滅するようになっています。
このようなときは，**“油圧取出”**位置から**“高”**に戻してください。このとき，さらにポンパランプが点滅しているときには，油圧レバー又はポンパレバーを操作して点滅を解除して使用してください。
点滅が解除され作業機が動き始めるとき，ブザーが２回鳴ります。

■オートアップスイッチ

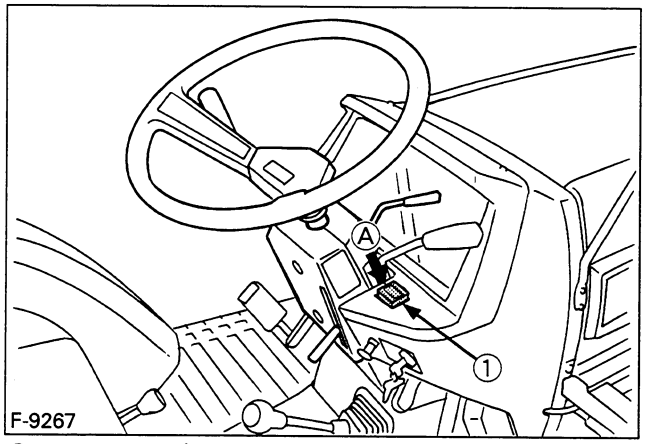
注 意

＊危険防止のため，オートアップスイッチの使用は，ほ場内作業のみにしてください。

＊オートアップで作業する場合は，ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは，作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると，作業機を引きずり，傷害事故を引起すおそれがあります。

◆オートアップの使い方

1. オート切換えスイッチを標準・敏感，Eオートの位置にします。
2. オートアップスイッチを押します。
   （スイッチランプ点灯）
3. 隣接耕うん作業での旋回時，前輪を約35度以上に切ると，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
   （上昇時ブザー音が1回鳴ります。）
4. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
5. オートアップスイッチを再度押すと，オートアップが**“切”**となります。
   （スイッチランプ消灯）



①オートアップスイッチ　　Ⓐ“押す”

補 足

＊下記状態では，オートアップは作動しません。（スイッチランプ消灯）　正しく操作し，スイッチランプの点灯を確認してから作業をしてください。

1. オート耕うん対応の作業機が正しく装着されていないとき。
2. ポンパランプが点滅しているときやオート切換えスイッチが**“切”**のとき。
3. オート切換えスイッチを，オート（標準・敏感）↔Eオートに切換えたときや作業中エンストしたとき。（再度スイッチを押してください）

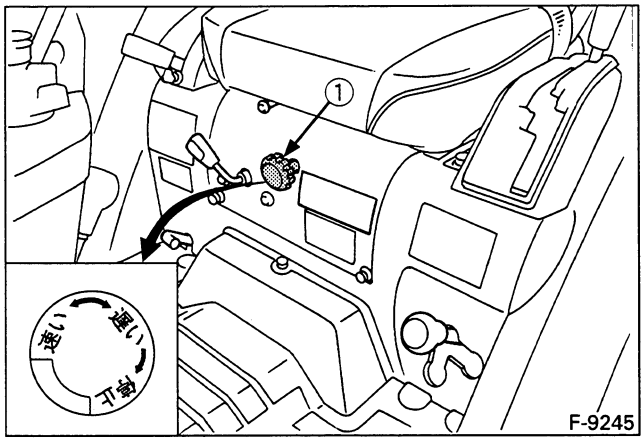
＊隣接耕うん作業以外では，オートアップスイッチを**“切”**にしてください。

■作業機落下速度の調整

注 意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整グリップでロックした後，油圧レバーを“前方に倒して”，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



①落下調整グリップ

“速い” 方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

“遅い” 方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**“停止”** 方向に軽く締込むと，油圧がロック(停止)します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

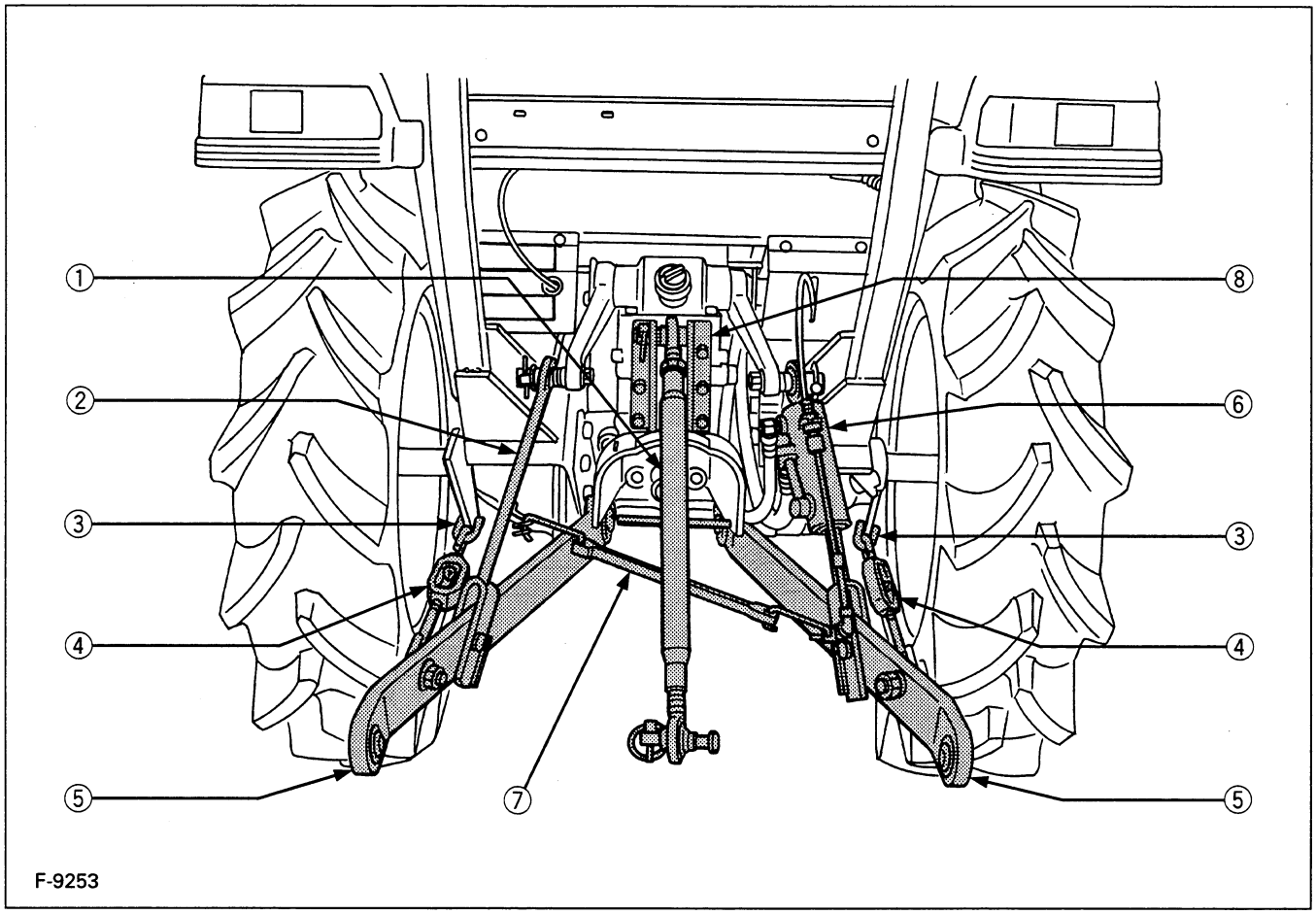
重 要

＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

◆油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管しますと，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
❶エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締込んでください。
❷油圧レバーを**“前方に倒して”**ください。
(このとき，作業機が下がらないことを確認してください。)
❸エンジンを停止してください。

三点リンク



①トップリンク
②リフトロッド左
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤ロアーリンク
⑥リフトシリンダ（リフトロッド右）
⑦振止めゴム
⑧トップリンクブラケット

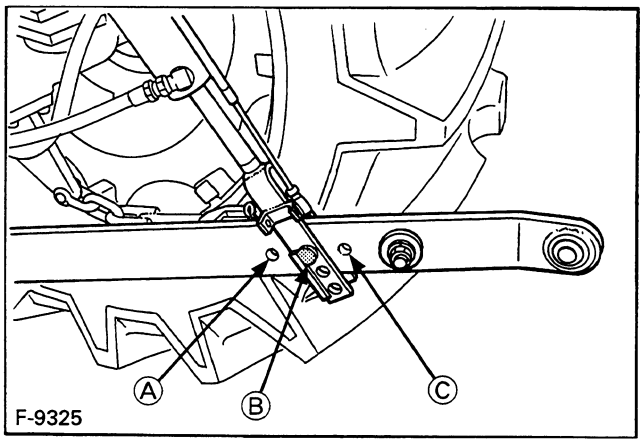
1. 三点リンクは，JIS 1 形です。
2. **TX201・221・241・261仕様**をご購入の方は，トップリンクアッシを別途購入してください。
3. 三点リンク用作業機を装着するときは，後輪輪距を広げてください。〔詳細は**“輪距の調整”**の項を参照〕

	TX201·221·241仕様	TX261·281仕様	TX301仕様	TX321仕様
後輪輪距	1130 mm	1145 mm	1260 mm	1235 mm

1.インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 一般作業機を使うときは，ロアーリンクの**“前穴”**を使ってください。
2. 特殊三点リンクロータリを使うときは，ロアーリンクの**“中穴”**を使ってください。
3. 播種機を使うときは，ロアーリンクの**“後穴”**を使ってください。



Ⓐ “前穴”
Ⓑ “中穴”
Ⓒ “後穴”

補　足

＊ロアーリンクのⒸ穴を使用するときは，リフトロッドの上穴は使用できません。

2.作業機の着脱

警　告

＊作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのＰＴＯ作業機は完全に止まるまで待ってください。

＊駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。

＊作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。

＊作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンクの調整

1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。
3. 調整後はロックナットでロックしてください。

■リフトロッドの調整

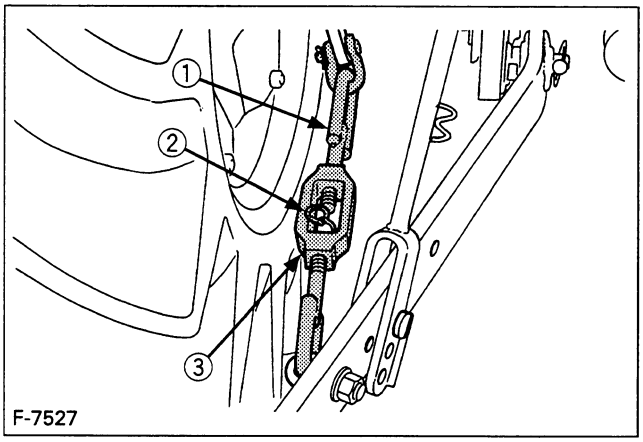
〔調整方法は**“モンローマチック・モンローマチックオートの取扱い”**の項を参照〕

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

調整後はスナップピン又はロックナットで，ターンバックルを固定してください。

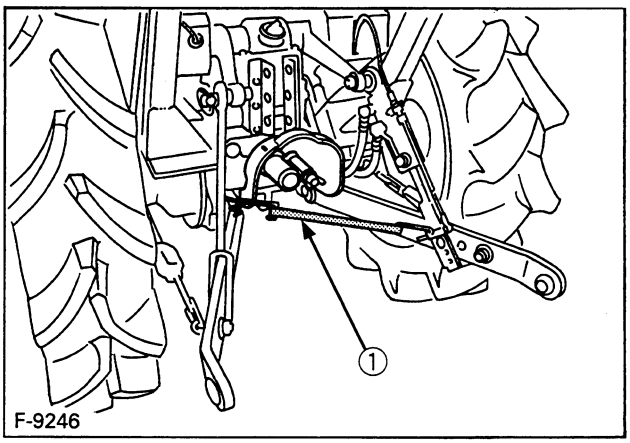
作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる 作業機が横方向に ５～６㎝動く程度
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ，	軽く締める



①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



①振止めゴム

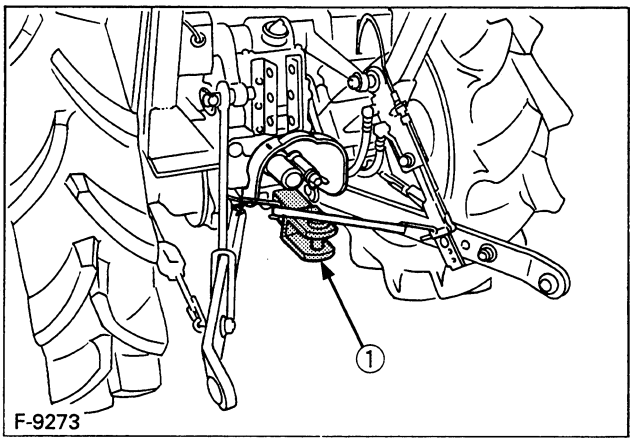
けん引ヒッチ〔別途購入品〕

警 告

＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチ〔別途購入品〕を必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。
転倒事故を引起すおそれがあります。

＊三点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。
そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

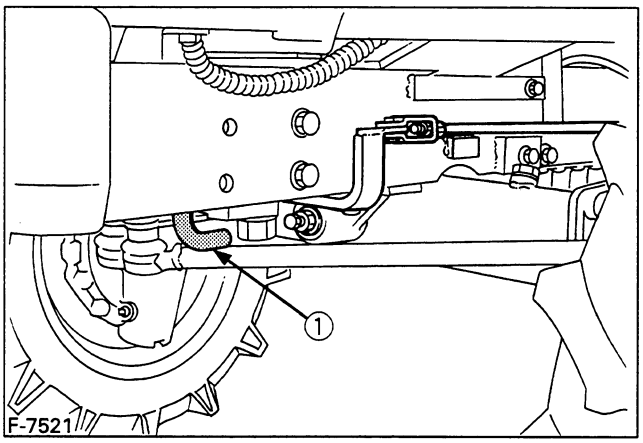


①けん引ヒッチ

■けん引フック

注 意

＊けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると，外れやすくフレームが曲るおそれがあります。



①けん引フック

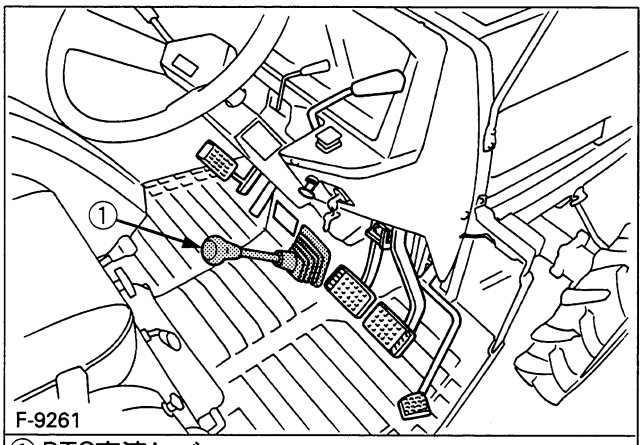
PTO

■PTO変速レバー

注 意

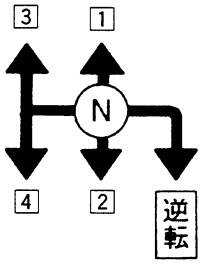
＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は，機種により下記のように変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。



①PTO変速レバー

●変速シフトパターン



◆PTO“逆転”の使い方

1. 使用できる作業機
＊メーカ指定のロータリに限ります。

重 要

＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊土寄せ作業
＊草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

重 要

＊オート切換えスイッチは**“切”**にして油圧（ポジション）レバーで作業してください。
〔詳細は**“モンローマチックオート”**の項を参照〕

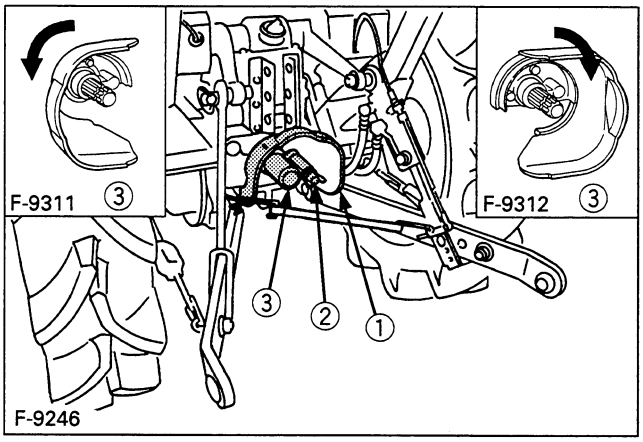
3. 使用できない作業
＊未耕地での耕うん作業
＊ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■PTO軸カバー，PTO軸キャップ

注 意

＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，PTO軸キャップを取付けておいてください。
そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
＊PTO軸キャップを使用しないときは，PTO軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊PTO軸カバーを取外さないでください。
＊PTO軸カバーの上に乗らないでください。

ユニバーサルジョイント着脱時は，PTO軸カバーを左右に回すと便利です。
着脱時以外は，必ず元の位置に戻しておいてください。

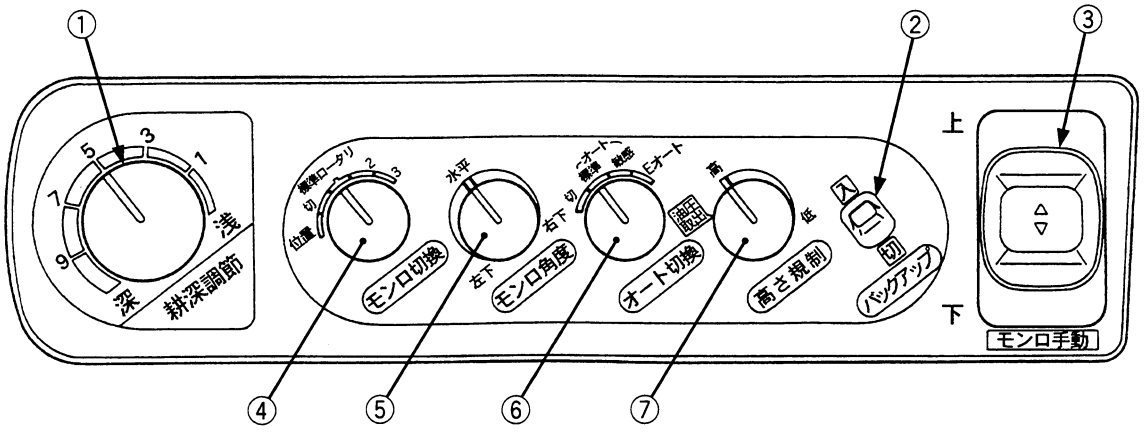


①PTO軸カバー
②蝶ボルト
③PTO軸キャップ

モンローマチック・モンローマチックオートの取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■スイッチの取扱い

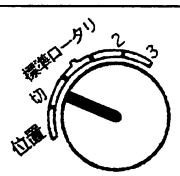
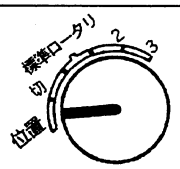


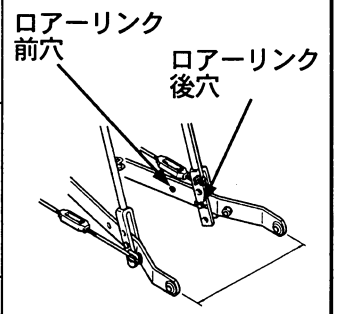
F-9243

①耕深調節ダイヤル
②バックアップスイッチ
③モンローマチック手動スイッチ
④モンロー切換えスイッチ
⑤モンローマチック角度調節ダイヤル
⑥オート切換えスイッチ
⑦三点リンク高さ規制ダイヤル

■モンロー切換えスイッチ

標準ロータリ，２，３，位置の切換えは，作業機によって定まる三点リンクの取付け状態（ロアーリンク幅及びロアーリンク穴）に応じて選択してください。

モンローマチック	切換えスイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位置	作業機例
自動		広	中(後)	Aフレーム付ロータリ（特殊３Ｐ仕様） Aフレーム付代かきハロー
自動		広	前	プラウ 代かきハロー，ロータリ（標準３Ｐ仕様）
自動		狭	前	ロータリ（標準３Ｐ仕様）
手動		モンローマチックの自動制御が解除され，**“手動”**になります。		
位置制御		—	—	プラウ，サブソイラ あぜ塗り機，片培土

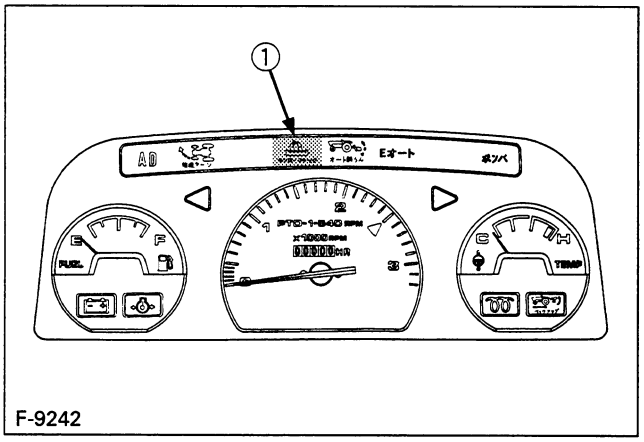


ロアーリンクの幅
“広”…718mm (JIS)
“狭”…590mm (参考)

F-7044

◆モンローマチックランプ

モンロー切換えスイッチが**“切”以外の位置**で点灯します。



F-9242

①モンローマチックランプ

補　足

＊**位置制御**とは：

このモードは，プラウ作業などで，常にモンローリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。**“モンロ切換”**スイッチを**“位置”**にセットすると，モンローリフトシリンダの長さを**“モンロ角度”**ダイヤルで，設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。なお，**“モンロ角度”**ダイヤルの**“水平”**位置では，作業機が車体と平行になります。

リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，モンローリフトシリンダを**“モンロ角度”**ダイヤルで適当な長さに合せて，耕起できます。通常に耕起する場合には，**“モンロ角度”**ダイヤルを**“水平”**位置に戻すだけで，常にプラウは車体と平行に保たれます。

重　要

＊ロアーリンクにリフトロッド（リフトシリンダ）との接合穴が３コありますので，後の２コを使用する場合ロアーリンク穴位置**“後”**として切換えスイッチを選択してください。

＊**“位置制御”**及び**“手動”**では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。

従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。

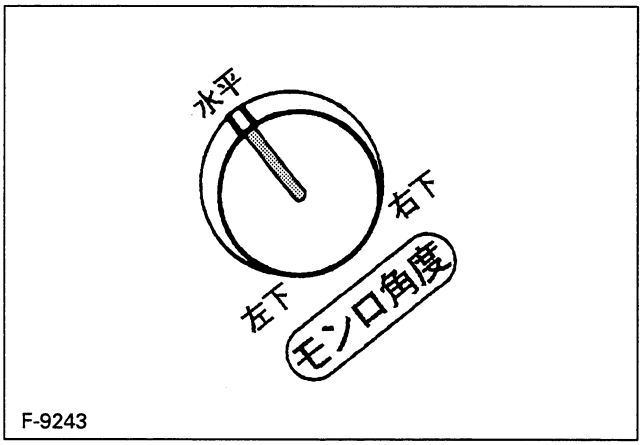
リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

良い例	悪い例
リフトロッド　リフトシリンダ	リフトロッド　リフトシリンダ
同じ位置の穴	異なる位置の穴

F-8586

■モンロ角度ダイヤル

“モンロ切換”スイッチが**標準ロータリ，2，3**の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。



F-9243

1. ダイヤルを**“水平”**位置にしますと，作業機は**水平**に保持されます。
2. ダイヤルを**“左下”**方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。
3. ダイヤルを**“右下”**方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，**“モンロ切換”**スイッチが**“自動”**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

■オート切換えスイッチ

	オート切換えスイッチ	作　業　例
オート自動		浅起しから深起しまで,一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。
		ロータリカバーを上げたままで行なうオート作業に使用します。
切		オートの**“自動”**制御が解除されます。

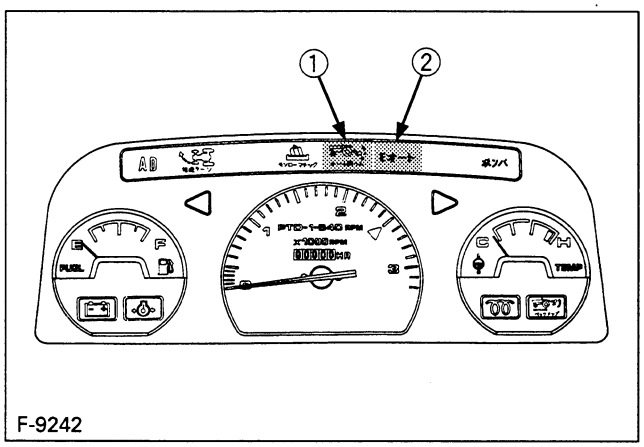
補　足

＊畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，**“Eオート”**または，**“切”**にしてください。

◆オート耕うん／Eオートランプ

オート切換えスイッチの選択位置により，下記ランプが点灯します。

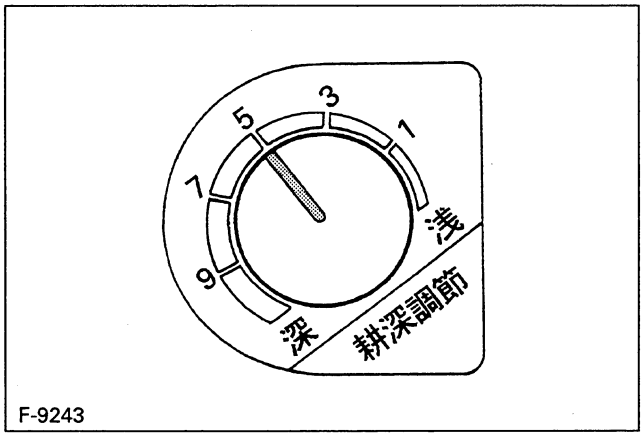
1. **“オート”**選択時　……オート耕うんランプ点灯（標準・敏感）
2. **“Eオート”**選択時　…Eオートランプ点灯
3. **“切”**選択時　……両ランプ消灯



F-9242

①オート耕うんランプ
②Eオートランプ

■耕深調節ダイヤル



F-9243

◆オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合

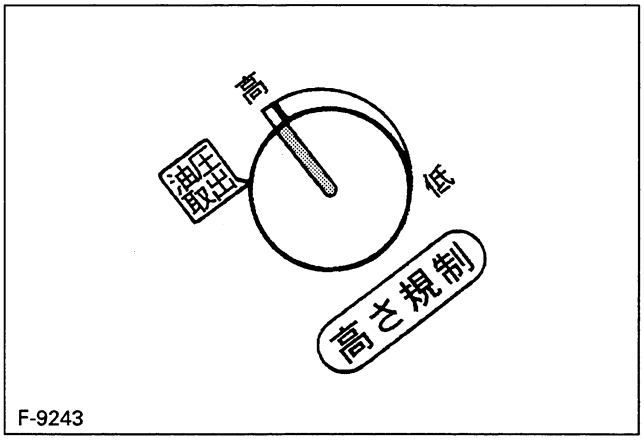
オート切換えスイッチが，**“標準”“敏感”“Eオート”**の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

補　足

＊**“浅”**から**“1”**付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田での代かき作業に利用してください。

＊ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が深くなる場合は，ダイヤルで調節してください。

■三点リンク高さ規制ダイヤル



F-9243

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

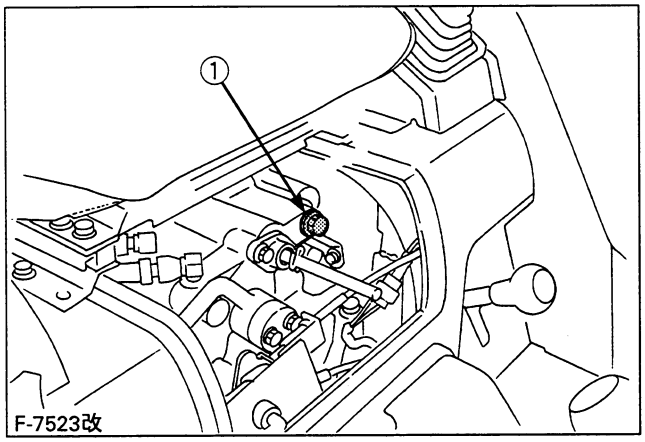
1. ダイヤルを**“高”**にすると，三点リンクの上昇高さが**高く**なります。
2. ダイヤルを**“低”**方向に回すと，三点リンクの上昇高さが**低く**なります。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルにより，ポンパレバー及び油圧レバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

◆油圧取出しの使い方

油圧シリンダから油圧を取出すときに使用します。



①油圧取出し口

1. ポンパレバー又は，油圧レバーで三点リンクを最上位置にし，モンローマチックを**“平行停止”**させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを**“油圧取出”**位置にします。
3. 落下調整グリップを回し，油圧をロックします。
4. 油圧の取出し**“上げ－中立－下げ”**は，モンローマチック手動スイッチで行ないます。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルを**“油圧取出”**位置にすると，**“モンローマチック”** **“オート耕うん”** **“Eオート”** **“ポンパ”** **“バックアップ”** **“オートアップ”**の各ランプが消灯します。

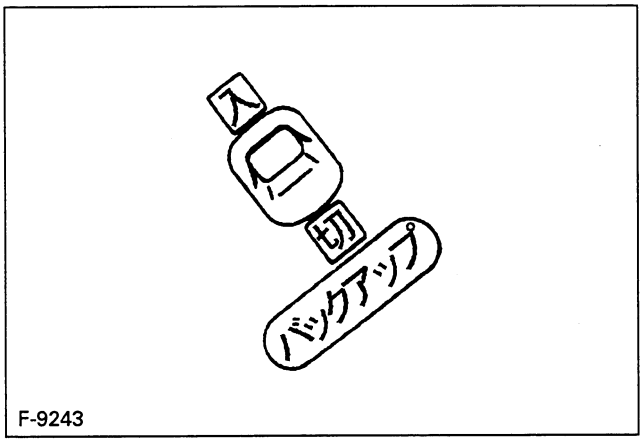
＊**“油圧取出”**位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオートは作動しません。

＊**“油圧取出”**位置でエンジンを停止し，再度**“油圧取出”**作業を行なう場合は，エンジン始動後，**“油圧取出”**を解除し(ダイヤルを**“油圧取出”**位置から**“高”**，**“低”**の方向へ回す),再度**“油圧取出”**位置にしてください。

＊油圧取出し作業の終了後は，**“油圧取出”**を解除してください。

■バックアップスイッチ

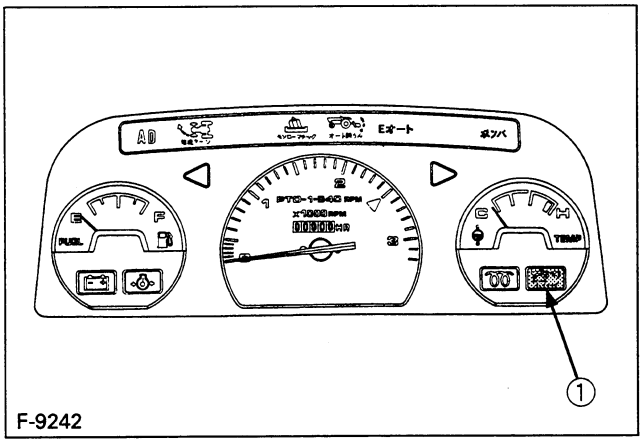
シャトルレバーを**“後進”**に入れると，作業機が上昇する装置です。



1. 作業機を下げたままの**“うっかりバック”**から作業機を守ります。
2. バックアップで上昇した作業機下げるときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作してください。

◆バックアップランプ

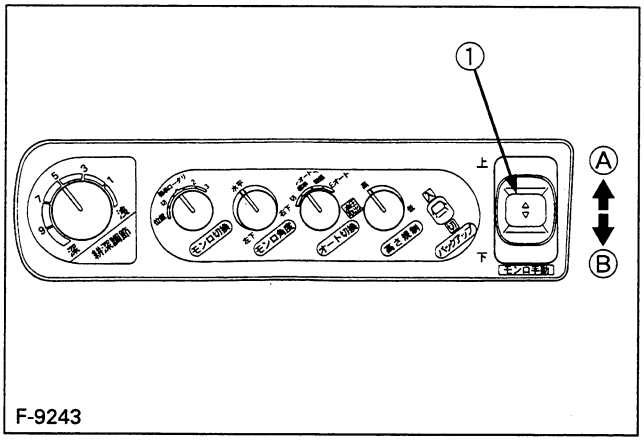
バックアップスイッチが**“入”の位置**で点灯します。



①バックアップランプ

■モンローマチック手動スイッチ

モンロー切換えスイッチが**“切”**の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



①モンローマチック手動スイッチ　Ⓐ“上げ”　Ⓑ“下げ”

1. **“上げ”**方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **“下げ”**方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

重　要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック“入”（自動）では次のような作業に効果があります。

トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機の傾斜が一定になります。

1. モンローマチック角度調節ダイヤルが**“水平”**位置の場合
   ＊水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
   ＊整地板・代かきロータリなどによる均平作業
   ＊畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. モンローマチック角度調節ダイヤルが**“水平”**位置以外の場合
   ＊広幅畝立て，その他

◆モンローマチック“切”（手動）では次のような作業に効果があります。

＊メロンなどの高畝作り，その他
＊作業機の着脱

重　要

＊モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**“切”**で作業してください。
＊**“手動”**で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

■作業機の取扱い

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

購入先にご相談ください。

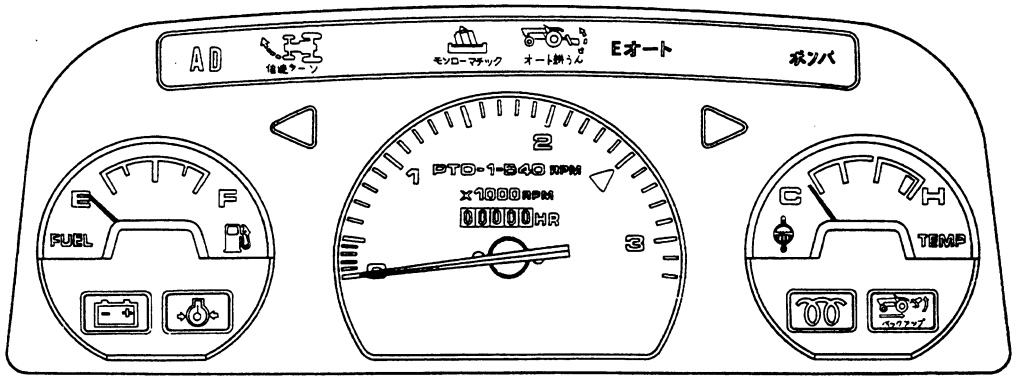
●取外す場合は，下記部品が必要となります。

（別途購入品）

品　名	備　考
キャップアッシ	キャップ及び プラグを含む

■故障・異常の表示

1. この製品は，下記のセンサを使用しています。
2. これらのセンサに異常が発生した場合には，オート耕うん，モンローマチック，Eオート，バックアップのランプで異常を表示します。（点検調整は購入先にご相談ください）
3. 異常の表示方法と対応方法を下に示します。



F-9242

センサ名称	警告方法	異常の現象	緊急の対応方法
①リフトアームセンサ	オート，モンローランプ点滅。	ポジション，オート，モンロー作動せず。	モンロー手動で平行にする。**“油圧取出”**位置で作業機昇降する。
②ポジションレバーセンサ	オート，モンローランプ点滅。	ポジション，オート，モンロー作動せず。	モンロー手動で平行にする。**“油圧取出”**位置で作業機昇降する。
③ストロークセンサ	モンローランプ点滅。	モンロー自動，位置制御作動せず。	モンロー手動で動かす。
④カバーセンサ	オートランプ点滅。	オート（標準,敏感）作動せず。	**“Eオート”**，油圧レバーで動かす。
⑤アクセルセンサ	Eオートランプ点滅。	Eオート作動せず。	**“標準”**，**“敏感”**では通常のモンローマチックオートとして作動する。
⑥エンジン回転センサ	Eオートランプ点滅。	Eオート作動せず。エンジン回転による制御を行なわない。	**“標準”**，**“敏感”**では通常のモンローマチックオートとして作動する。
⑦ローリングセンサ	————	作業機が傾く。	手動又は位置制御で動かす。
⑧耕深調節	オート，Eオートランプ点滅。	オート，Eオート作動せず。	油圧レバーで動かす。
⑨モンロー切換え	モンローランプ点滅。	モンロー作動せず。	モンロー手動で動かす。
⑩モンロー角度調節	モンローランプ点滅。	モンロー作動せず。	モンロー手動で動かす。
⑪オート切換え	オート，Eオートランプ点滅。	オート，Eオート作動せず。	油圧レバーで動かす。
⑫高さ規制	オート，モンローランプ点滅。	ポジション，オート，モンロー作動せず。	モンロー手動で動かす。
⑬バックアップ切換え	バックアップランプ点滅。	バックアップ作動せず。	ポンパ，油圧レバーで上げる。

タイヤ・ウエイト

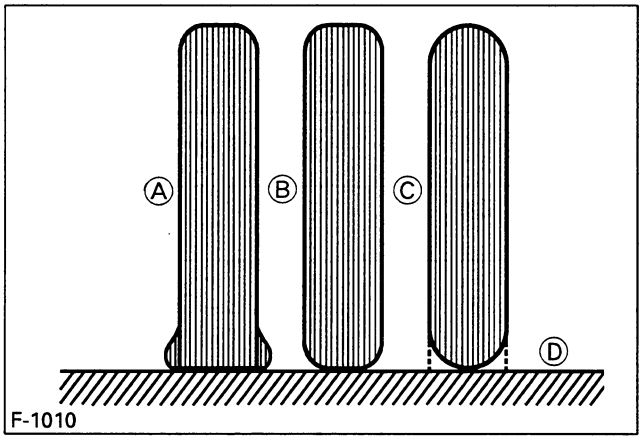
タイヤ

■タイヤの空気圧

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

【 】内はフロントローダ装着時

	空気圧kPa(kgf/㎠)
前　輪	160(1.6)　【200(2.0)】
後　輪	100(1.0), 120(1.2)…12.4-28-4PRタイヤのみ

輪距の調整

注 意

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，２～６段階に変えられます。(タイヤの仕様により異なります。)

重　要

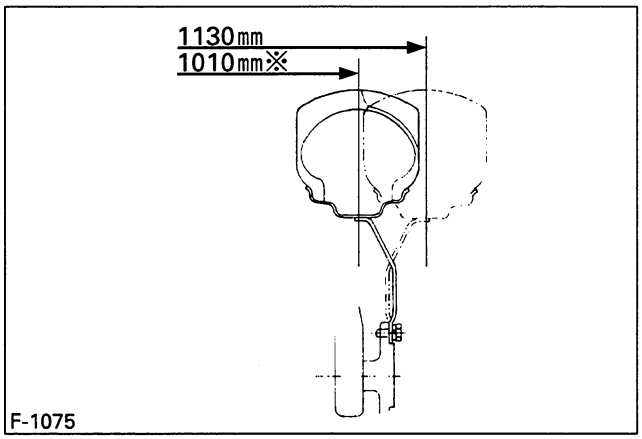
＊決められた輪距以外では使用しないでください。

補　足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

◆TX201・221・241仕様

後輪の輪距は**2段階**に調節できます。



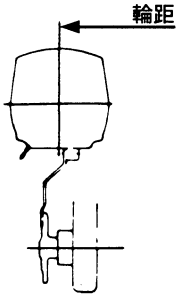
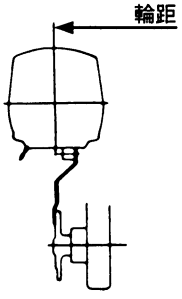
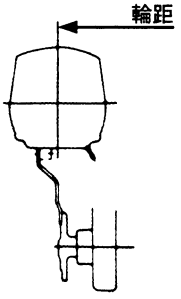
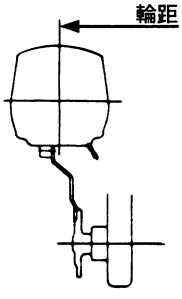
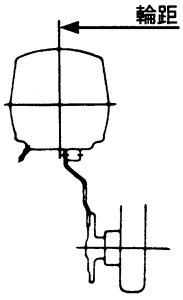
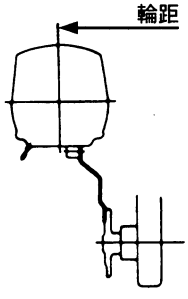
※は出荷状態

◆TX261・281・301・321仕様

後輪の輪距は**5段階**又は**6段階**に調節できます。

補　足

＊輪距によりディスクの組換えも合せて行なってください。
＊安全キャブ仕様はTX281Qのみ輪距が異なります。

形　式 (標準タイヤ)						
TX261 (11.2-24)	1050 mm (出荷状態)	1145 mm	1070 mm	1165 mm	1250 mm	1345 mm
TX281 (11.2-26)	———	1130 mm (出荷状態)	1145 mm	1245 mm	1320 mm	1420 mm
TX301 (12.4-26)	1090 mm (出荷状態)	1185 mm	1260 mm	1360 mm	1380 mm	1480 mm
TX321 (13.6-24)	1110 mm (出荷状態)	1205 mm	1235 mm	1330 mm	1480 mm	1575 mm
TX281Q (11.2-26)	1110 mm (出荷状態)	1210 mm	1230 mm	1330 mm	1405 mm	1500 mm

キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

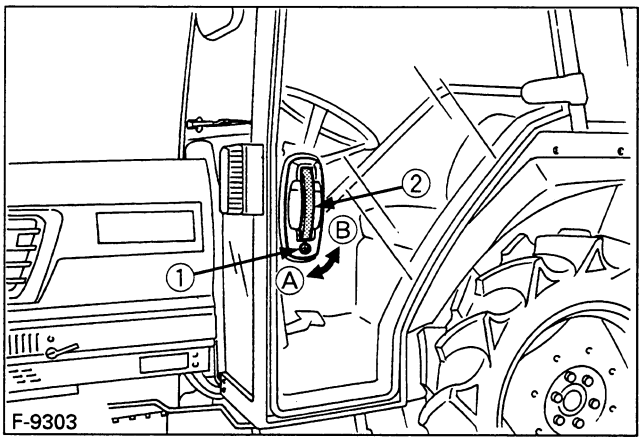
注 意

＊リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ガラスを破損させるおそれがありますのでキャブ内には物を載せないでください。
＊ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

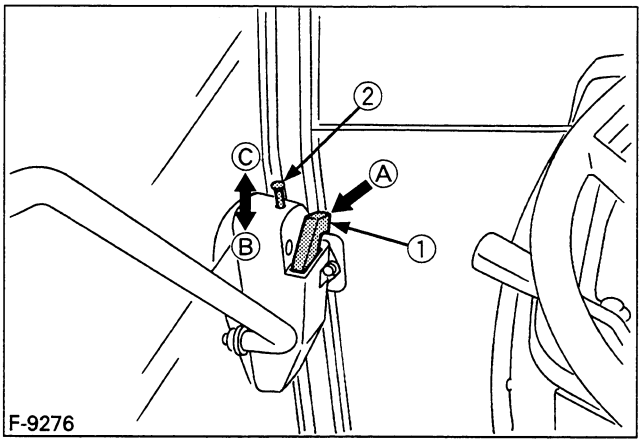
◆ドアの開閉とロック

車外から……キーを回すと**“施錠”** **“解錠”**されます。
ドアアウタハンドルを引き，開けます。



①ドアキー　　Ⓐ “施錠”
②ドアアウタハンドル　　Ⓑ “解錠”

車内から……ロックノブを下げると**“旋錠”**，上げると**“解錠”**されます。
インナハンドルを引き，開けます。



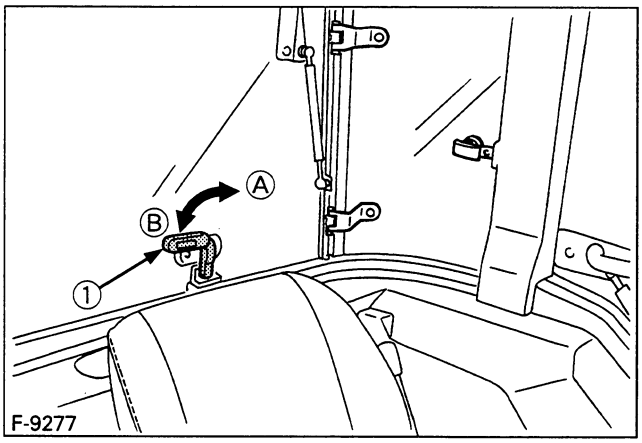
①ドアインナーハンドル　　Ⓐ “開く”
②ロックノブ　　Ⓑ “施錠”
Ⓒ “解錠”

補 足

＊ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。



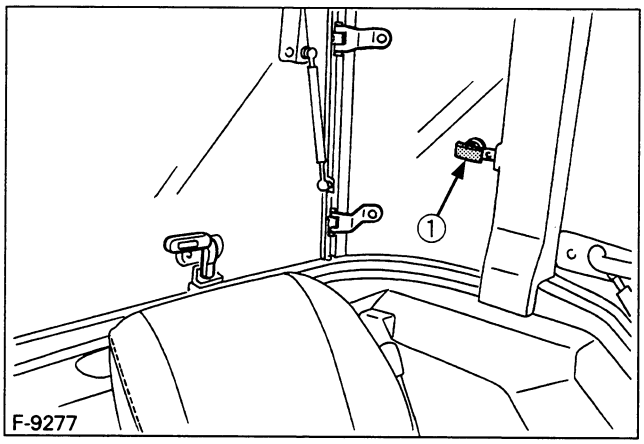
①リヤウインドハンドル　　Ⓐ “開”
Ⓑ “閉”

重 要

＊作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



①止め金具

重　要

＊クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

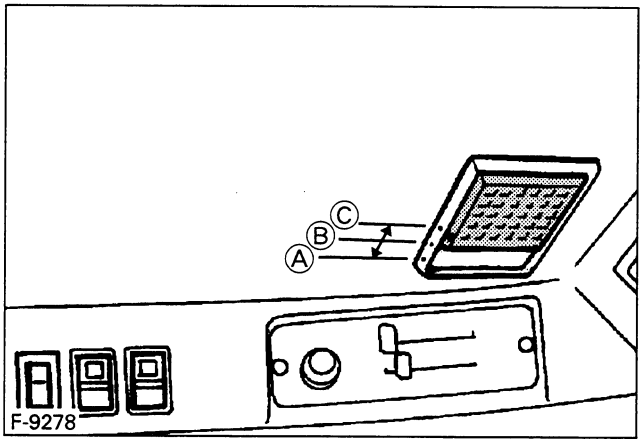
■ルームランプ

ルームランプカバーを前後方向にスライドさせることにより，スイッチが作動します。

“OFF” ……常時消灯。
ドアを開けてもランプは点灯しません。

“DOOR” …ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

“ON” ……ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



①ルームランプ

Ⓐ “ON”
Ⓑ “DOOR”
Ⓒ “OFF”

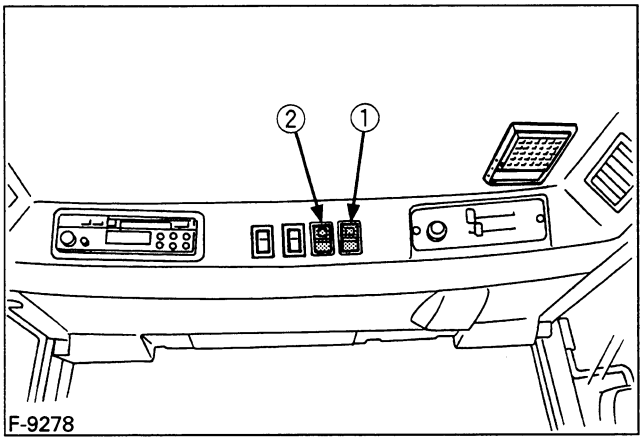
ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

ウォッシャスイッチの上側を１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
また，ワイパが**“OFF”**の状態でもスイッチの下側を押すと，押している間ウォッシャ液が噴射します。
ウォッシャスイッチはライト点灯時点灯します。

補　足

＊からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



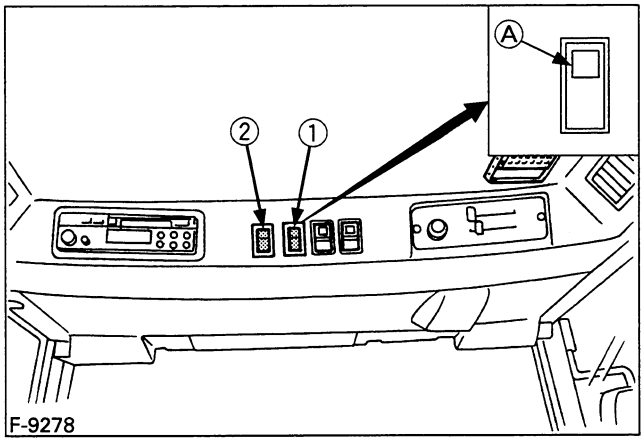
①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
②リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

作業灯

TX201・221・241仕様	前２灯
TX261・281・301・321仕様	前後４灯

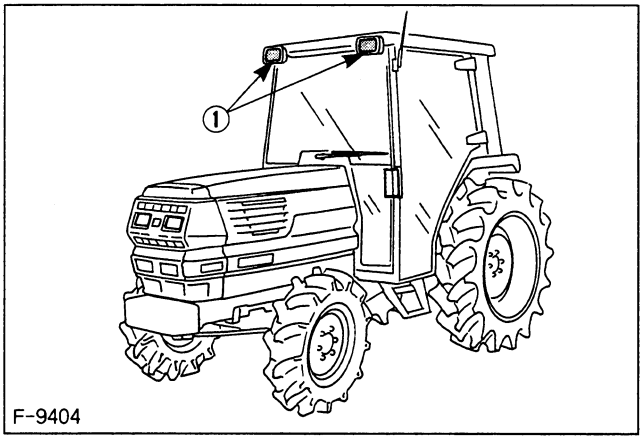
キースイッチ**“入”**位置にして，作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯します。このとき，スイッチのランプも点灯します。下側を押すと消灯します。

■作業灯スイッチ



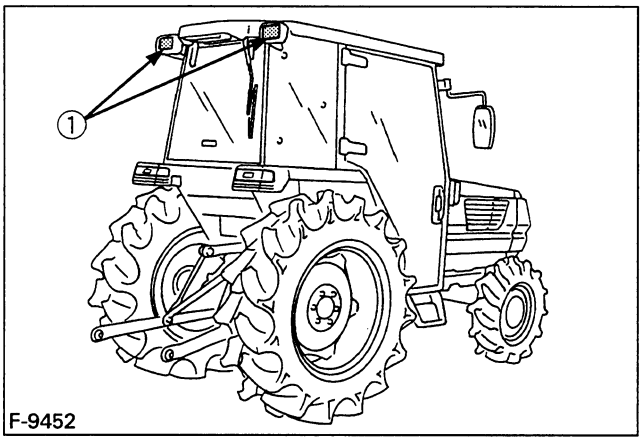
①作業灯（前）スイッチ　　Ⓐランプ
②作業灯（後）スイッチ

■作業灯（前）



①作業灯（前）

■作業灯（後）



①作業灯（後）

重　要

＊バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1600min^{-1} (rpm)以上にしてください。

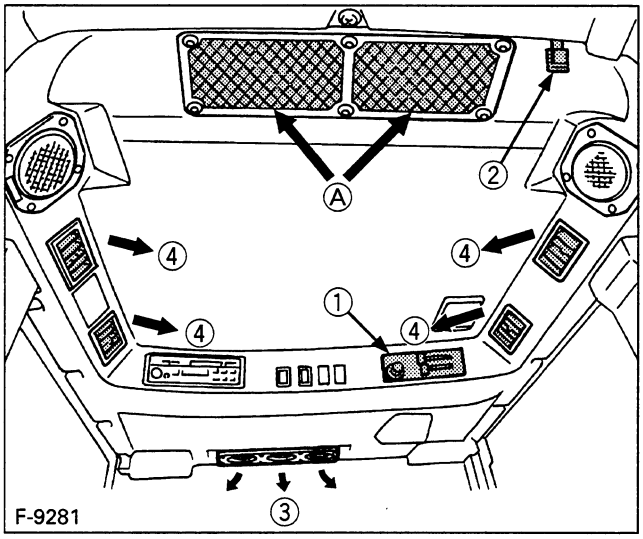
補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

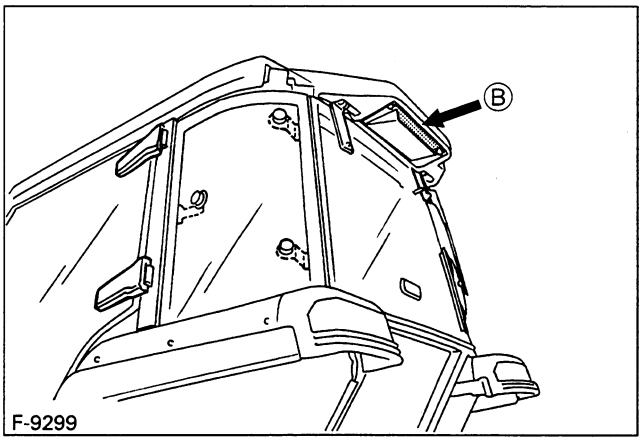
エアコン【Q仕様】

■空気の流れ

キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
５カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



①パネルスイッチ　　Ⓐ内気循環導入口
②内外気切換えレバー
③フロント吹出口
　(フロントガラス・足元)
④サイド吹出口(顔面・背面)

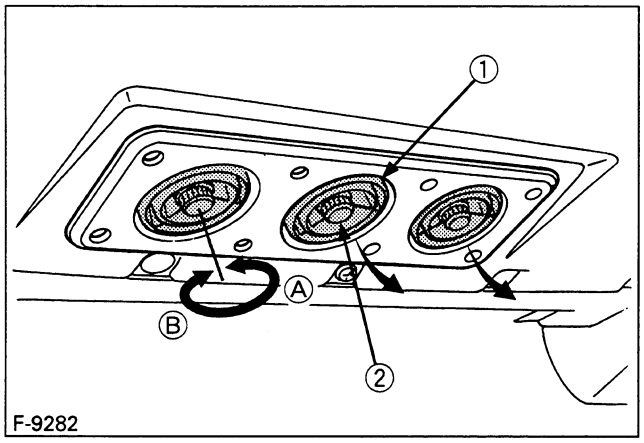


Ⓑ外気導入口

■風向調整

◆フロント吹出口

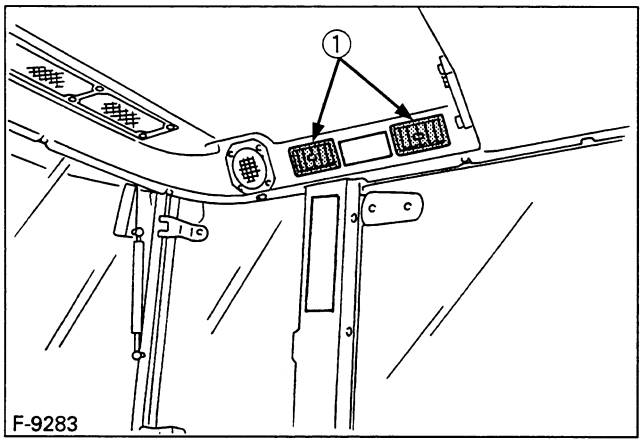
1. 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。
2. 吹出口は，中央のツマミを回すことで吹出口の開閉ができます。



①フロントグリル　　Ⓐ吹出口“開”
②ツマミ　　Ⓑ吹出口“閉”

◆サイド吹出口

冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。

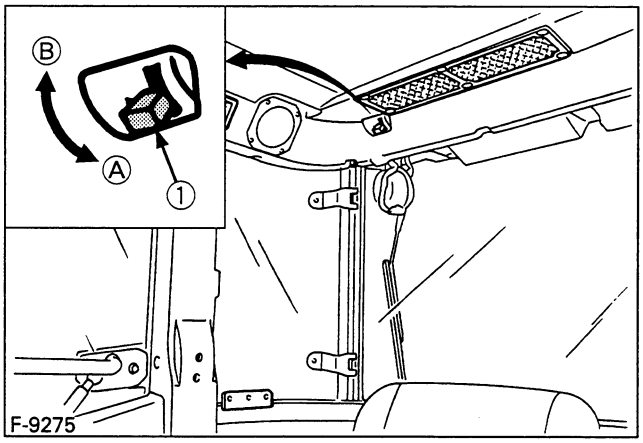


①サイドグリル

◆内外気切換えレバー

外気導入……レバーを**“外気”**位置にすると，キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

内気循環……レバーを**“内気”**位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。



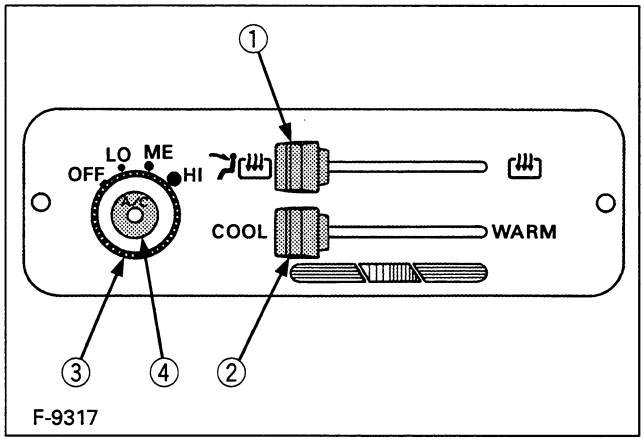
①内外気切換えレバー　　Ⓐ“外気”
Ⓑ“内気”

補　足

＊内気循環での長時間暖房は避けてください。
ガラスが曇りやすくなります。

＊ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

■コントロールパネル



①モードレバー
②温度コントロールレバー
③ファンスイッチ
④エアコンスイッチ

◆モードレバー

フロント吹出口及びサイド吹出口より風が出ます。

フロント吹出口より風が出ます。

◆温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

◆LO･ME･HIファンスイッチ

風量が３段階に切換えられます。**“HI”**は最も風量の多い位置です。

◆A/Cエアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して**“ON”**にします。**“ON”**のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱い操作方法

◆暖房

1. モードレバーを又はにします。
2. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
   早く室温を上げたいときは内気循環にします。
3. ファンスイッチ(**LO・ME・HI**)と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

補　足

＊夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーを**COOL**(左端)に寄せてください。

◆冷房・除湿暖房

1. モードレバーをにします。
2. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し**“ON”**にします。
4. ファンスイッチ(**LO・ME・HI**)を作動させます。
5. 温度コントロールレバーを**COOL**又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

◆デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. モードレバーをにします。
3. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
4. ファンスイッチを**HI**，温度コントロールレバーを**WARM**(右端)にします。

■ヒータ使用上の注意

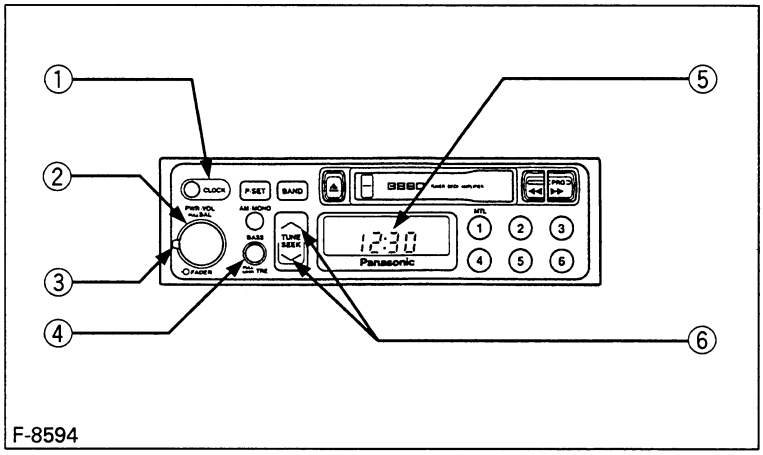
1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
   また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
   (冷却水の排水のしかたは，**“2年ごとの点検・整備”**の**“冷却水の交換”**の項を参照してください。)
3. ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
   （ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）
   ＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ，
   ＊ウォータホースジョイント部の水漏れ
   ＊ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
   ＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損
5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

注 意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

共通部の操作のしかた



①CLOCK時計ボタン
②PWR・VOL電源／音量ツマミ
　Pull BALバランス調整ツマミ
③FADERフェダー調整ツマミ
④BASS低音調整ツマミ
　Pull Lock TRE高音調整ツマミ
⑤時計・周波数デジタル表示
⑥時計調整ボタン

■電源の入／切のしかた、音量調節

◆PWR・VOL 電源／音量調整ツマミ

ツマミを時計方向（◯）に回すと電源が**“ON”になり，さらに回すと音量が増大します。**

反時計方向（◯）に回すと音量が減衰し，さらに回すと電源が**“OFF”になります。**

■左右のバランス調整ツマミ

◆Pull BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引きながら時計方向（◯）に回すと右側スピーカの音量が強調されます。

ツマミを引きながら反時計方向（◯）に回すと左側スピーカの音量が強調されます。

■フェダー調整

◆FADER フェダー調整ツマミ

２スピーカ方式のため，ツマミを反時計方向（◯）にいっぱい回してご使用ください。

補 足

＊ツマミを時計方向（◯）に回すと音が出なくなります。

■低音・高音の調整

◆BASS・Pull Lock TRE 低音・高音調整ツマミ

ツマミを時計方向（◯）に回すと低音が強調され，反時計方向（◯）に回すと低音が減衰されます。

ツマミを引き時計方向（◯）に回すと高音が強調され，反時計方向（◯）に回すと高音が減衰されます。

■時計表示のしかた

◆CLOCK 時計ボタン

電源が**“ON”**のとき，CLOCKボタンを２秒以上押すと，ディスプレイが時計表示になります。

時計表示は，CLOCKボタンを再度押すか，他のボタン操作により解除されます。

■時計の調整のしかた

◆[∧]TUNE／SEEK[∨]時計調整ボタン

❶電源が“ON”のとき，CLOCKボタンを２秒以上押して時計表示にします。

　最初に使用するときは“0:00”を表示します。

❷再度，CLOCKボタンを２秒以上押すと，時計表示が１回点滅します。

❸CLOCKボタンを押しながら[∨]（時間設定）ボタン（下側）を押すと，時間表示の調整ができます。

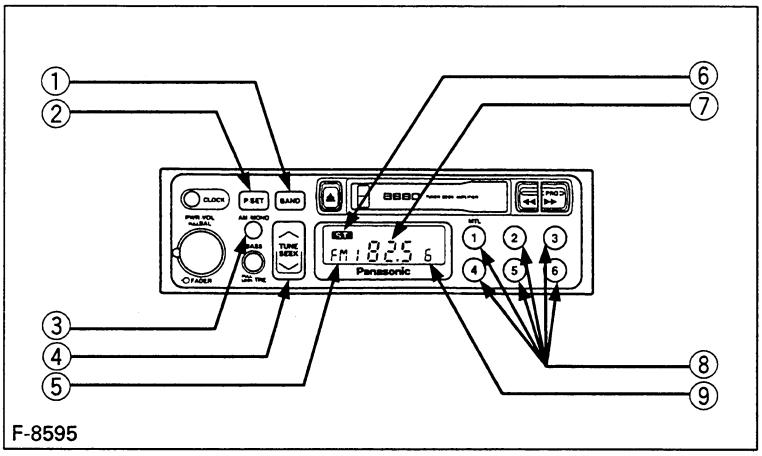
❹CLOCKボタンを押しながら[∧]（分設定）ボタン（上側）を押すと，分表示の調整ができます。

❺CLOCKボタン再度押すと時計の調整が完了し，もとの表示に戻ります。

補 足

＊TUNE／SEEKボタンは，[∨]（時間設定）ボタン，[∧]（分設定）ボタンとも押し続けると，連続して時間（分）が変わります。

ラジオを聞くには



①BAND AM／FMバンド切換えボタン
②P・SETオートプリセットボタン
③AM・MONO AMモノラルボタン
④TUNE SEEK周波数同調ボタン
⑤AM／FMバンドインジケータ
⑥ST ステレオインジケータ
⑦周波数デジタル表示
⑧プリセットボタン
⑨プリセットインジケータ

■バンド切換え

◆BAND AM／FMバンド切換ボタン

電源を“ON”にする。

BANDボタンを一回押すごとにバンドが下記のように切換わり，バンドインジケータも同時に表示します。

FM 1 → FM 2 → AM

補　足

＊カセットテープが挿入されている場合，▲イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■手動選局のしかた

◆∧TUNE SEEK∨周波数同調ボタン

∧ボタン（上側）を押すと，周波数のデジタル表示数が上がり，∨ボタン（下側）を押すと表示数が下がりますので，ご希望の放送局のところで選局してください。

AM受信時は９KHzずつ移行し，FM受信時は0.1MHzずつ移行します。

■自動選局のしかた

◆∧TUNE SEEK∨周波数同調ボタン

∧ボタン（上側）または∨ボタン（下側）を0.5秒以上押して離すと，周波数が上または下に移行し，放送局のあるところで自動的に停止し，周波数がデジタル表示されます。

■プリセット選局のしかた

◆１～６プリセットボタン

１～６のボタンを押すと，あらかじめプリセットされた放送局を選局します。

プリセットのしかたは右記を参照してください。

■プリセット・オートプリセットについて

あらかじめ、プリセットボタンにご希望の放送局をプリセット（放送局メモリ）しておきますと，ワンタッチで選局することができます。

プリセットは，下記の通り最大18局まで行なえます。

FM 1	FM 2	AM
最大６局	最大６局	最大６局

FM２バンドでは，放送局を自動的にプリセットするオートプリセットが使用できます。

◆プリセットのしかた

❶BANDボタンを押し，ご希望のバンドに切換えます。

❷∧ボタン又は∨ボタンで，ご希望の放送局を手動選局又は，自動選局します。

❸❶❷の操作で放送局を選局したら，メモリさせたいチャンネル（１～６）のプリセットボタンを押し続け，一度ディスプレイ表示が点滅したら離してください。

これでプリセットボタンに放送局メモリは完了しました。

❹同じように，別のプリセットしたい放送局は❶～❸の操作を繰返してください。

補　足

＊一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作をすると，前にメモリされた放送局は解除されます。

■オートプリセットのしかた（FM 2バンドのみ）

❶BANDボタンを押し，**“FM 2”**バンドに切換えます。

❷P・SETオートプリセットボタンを2秒以上押すと，電波の強い局を6局までプリセットボタンに自動的にメモリし，その後プリセットスキャンします。

補　足

＊P・SETボタンを押すと，プリセットスキャンモードになり，あらかじめプリセットされている放送局を順番に呼び出し，5秒間ずつ受信します。
動作中はディスプレイ表示が点滅します。

＊オートプリセット，プリセットスキャンを解除する場合，再度P・SETボタンを押してください。

■ディスプレイ表示

◆バンドインジケータ

FM 1，FM 2，AMバンドを表示します。

◆周波数デジタル表示

受信周波数をデジタル表示します。
AM放送受信時はKHz単位で，FM放送受信時は，MHz単位で表示します。

◆プリセットインジケータ

プリセットボタン（1～6）を押すと，そのチャンネルを表示します。

◆ステレオインジケータ（AM・FM放送）

ステレオ放送受信時に**ST**の文字を表示します。

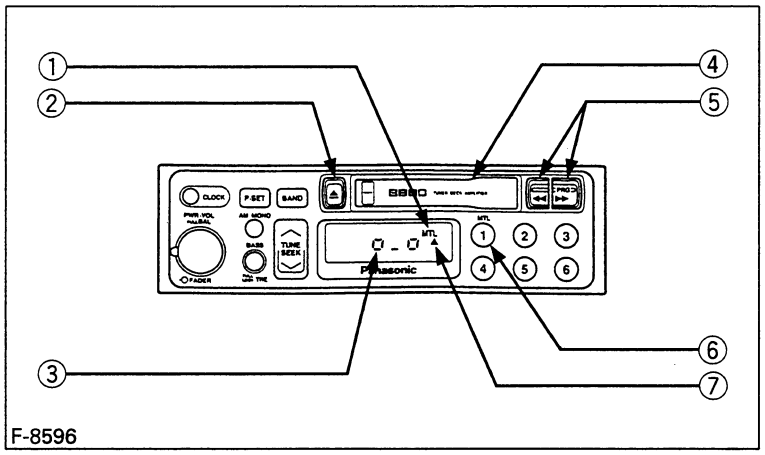
■AM放送時のモノラル切換え

◆AM・MONO AMモノラルボタン

AM放送受信時に押すと，モノラル受信モードに切換わり，**“MONO”**表示が点灯します。
再度押すと，解除されます。
電波の状態によりノイズが発生し聞きとりにくい場合は，モノラル受信モードに設定してください。

■ラジオの放送は同一のプログラムが各地の放送局から送られていることがありますので，感度のよい放送局に合わせてください。

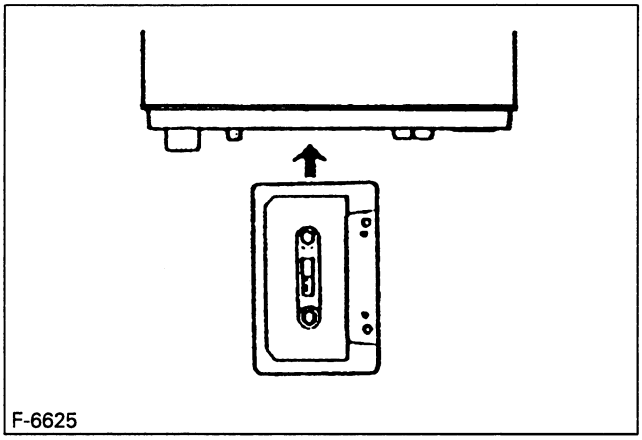
テープを聞くには



①メタルテープインジケータ
②イジェクトボタン
③テーププレイインジケータ
④テープ挿入口
⑤◀◀ ▶▶ 早送り，巻戻しボタン
兼⊏PRG⊐ プログラム切換えボタン
（両押し）
⑥MTLメタルボタン
⑦プログラムインジケータ

■カセットテープの挿入

電源を“ON”にする。
カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。このとき，テーププレイインジケータは“▯-▯”又は“▯˙▯”，プログラムインジケータは“▲”又は“▼”が点灯します。



■演奏面の切換え

◆⊏PRG⊐ プログラム切換えボタン

⊏PRG⊐ の両ボタンを同時に軽く押すと，演奏面が切換わり，ディスプレイに表示されます。
▯-▯▲：上面を演奏しています。
▯˙▯▼：下面を演奏しています。
テープが終端にくると，このボタンを押さなくても自動的に演奏面が切換わります。

■巻戻し，早送り

◆◀◀ 巻戻しボタン

◀◀ 巻戻しボタンを押すと，現在演奏している面のテープを巻戻します。巻戻しが完了すると自動的にテープの初めより演奏を開始します。

◆▶▶ 早送りボタン

▶▶ 早送りボタンを押すと，現在演奏している面のテープを早送りします。早送りでテープが終端になると，自動的に演奏面が切換わり演奏を開始します。

補　足

＊巻戻しを途中で中止するときは▶▶ 早送りボタンを，早送りを途中で中止するときは◀◀ 巻戻しボタンを軽く押します。
＊巻戻し（早送り）の動作中はテーププレイインジケータおよびプログラムインジケータが点滅します。

■カセットテープの取出し

◆▲イジェクトボタン

▲イジェクトボタンを押すと，カセットテープが取出され，ラジオ放送に切換わります。

補　足

＊カセットテープを開かないときは，必ず▲イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■メタルテープの切換え

◆MTLメタルボタン

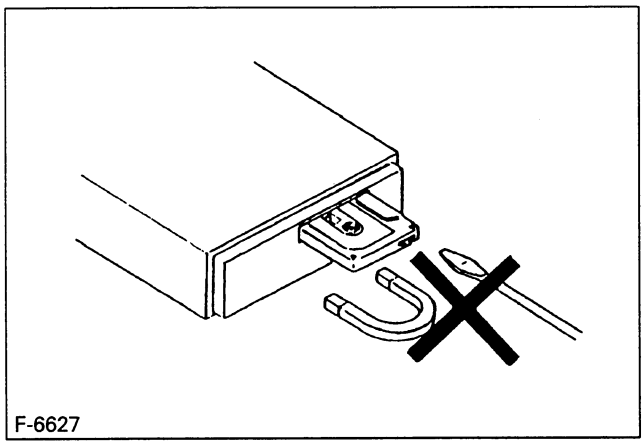
ボタンを押すと，メタルテープモード（70μsテープ用）に切換わり，“MTL”のインジケータが点灯します。
解除するときはもう一度押してください。

補　足

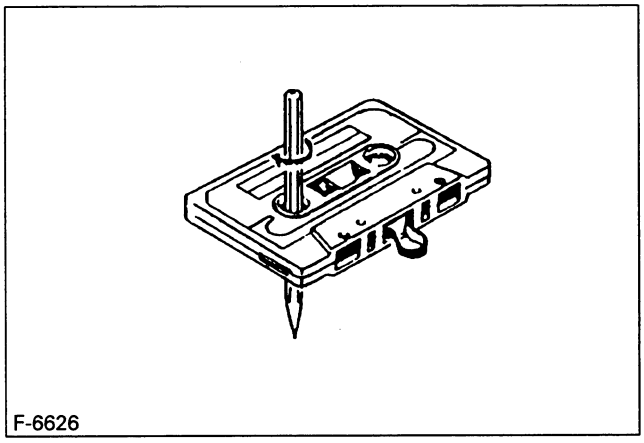
ノーマルテープ	テープに120μsと書いてあります
メタルテープ，ハイポジションテープ	テープに70μsと書いてあります

取扱い上の注意

1. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，社内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。

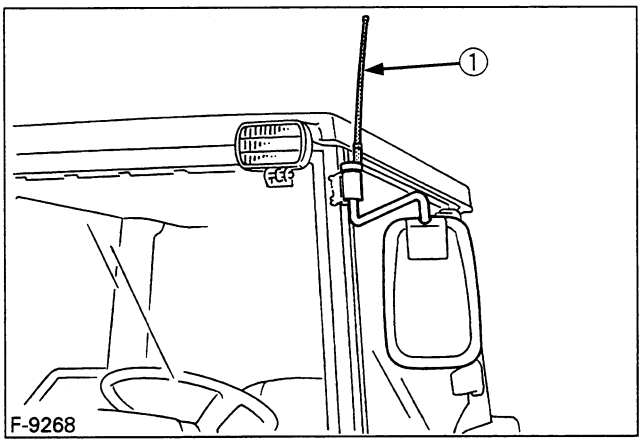

F-6627

3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。


F-6626

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

■アンテナ



F-9268

①アンテナ

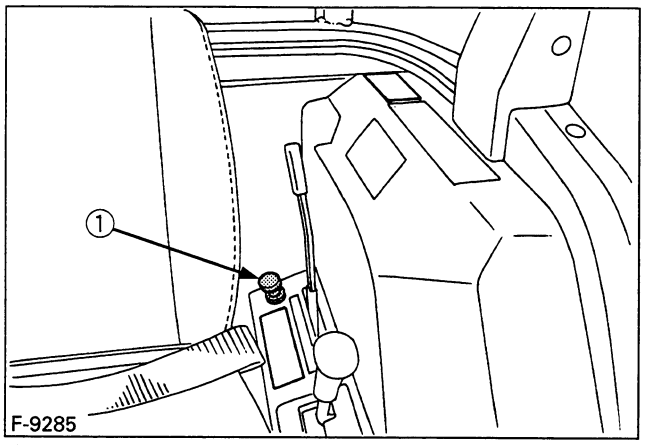
重 要

＊アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

灰皿

■シガライタ

シガライタはキースイッチが**“入”**のときに，使用できます。



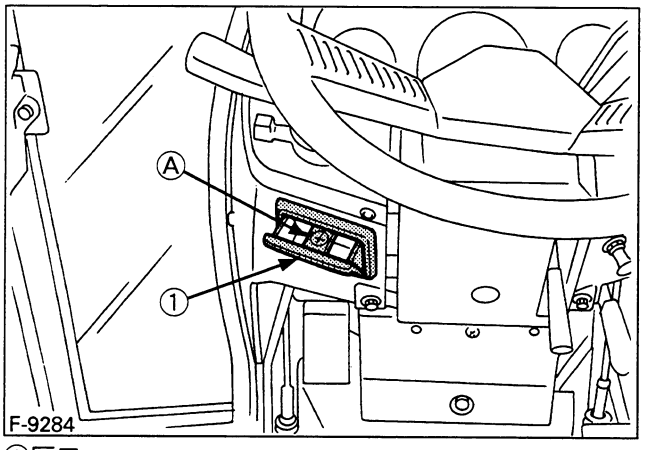
①シガライタ

補　足

＊シガライタはシート右後部の**“予備電源カプラ”**に接続されています。**“予備電源カプラ”**を作業機などの電源として使用する場合は，このカプラ部で接続しなおしてください。

◆アッシュトレイ（灰皿）

1. 上部を手前に引出して使用します。
2. 清掃するときは，Ⓐ部を押し下げて，手前に引出すと外れます。

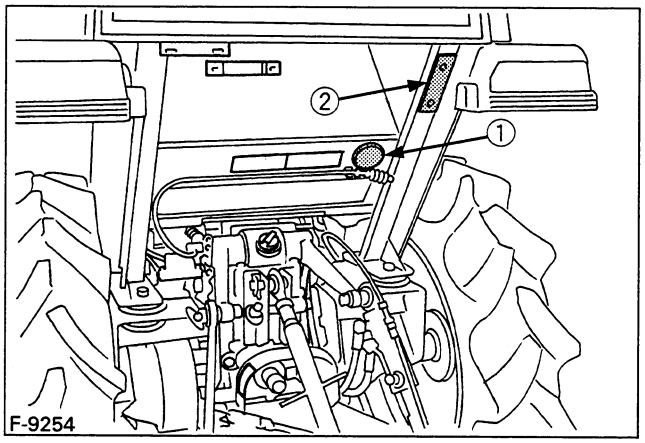


①灰皿

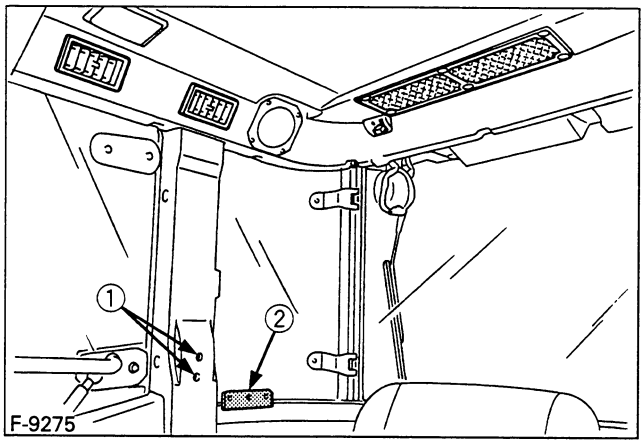
インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの組付け

ゴムキャップに穴を開け，インプルメント用操作コード・油圧ホースなどをキャブ室内に導入してください。



①ゴムキャップ
②外部取出し油圧バルブ取付け位置



①ローダ用操作ボックス取付け位置
②ローダ用コントロールボックス取付け位置

トラクタの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷作業機を降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹エンジンを止め，❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

定期点検箇所一覧表 〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目＼時期		アワーメータ表示時間															それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	
1	エンジンオイル	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	77
2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	81
3	油圧オイルフィルタカートリッジ	交換		◎		○				○				○				○	200時間ごと	82
4	ミッションオイル	交換		◎						○								○	400時間ごと	86
5	前車軸ケースオイル	交換						○						○					300時間ごと	85
6	グリースの注入	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	74
7	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	74
8	けん制装置の点検	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	75
9	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	75
10	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	76
11	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	75
12	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	76
		交換																	2年ごと	89
13	燃料パイプ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	76
		交換																	2年ごと	89
14	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	77
15	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	79
		交換																	1年ごと	87
16	燃料フィルタエレメント	交換								○								○	400時間ごと	86
17	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	79
18	クラッチペダル	調整	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	81
19	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	80
20	停止ソレノイドリンク	注油																	1年ごと	87
21	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	82
		交換																	2年ごと	89
22	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○				○	200時間ごと	83
23	エンジンバルブクリアランス	点検																○	800時間ごと	87
24	前部デフケース前後遊び	調整												○					600時間ごと	87

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
25	ラジエータ (クーリングシステム)	洗浄																	2年ごと	89
26	冷却水	交換																	2年ごと	88
27	モンローシリンダホース	交換																	2年ごと	89
28	バッテリプラス カットリレー	リセット																	必要に応じて	90
29	燃料の空気抜きのしかた	ー																	必要に応じて	89
30	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	90
31	ランプ類	交換																	必要に応じて	90

【キャブ仕様】

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	84
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	84
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	85
4	エアコンベルトの張り	調節				○				○				○				○	200時間ごと	85
5	ヒータ配管，ホース	点検																	1年ごと	87
6	エアコン配管，ホース	点検																	1年ごと	87
7	ウォッシャ液	補充																	必要に応じて	91
8	各部への注油	ー																	必要に応じて	91
9	冷媒(ガス)量	点検																	必要に応じて	91

給油（水）一覧表

No.	給油（水）項目	容量（L）							備考
		TX201	TX221	TX241	TX261	TX281	TX301	TX321	
1	燃料	27					35		ディーゼル軽油
2	冷却水	6			7				ホンダ純正ウルトラクラジエータ液(50%)
3	エンジンオイル	5.7 （オイルゲージ上限全量で）							ホンダ純正ウルトラディーゼルオイル又はAPI分類CC，CD級相当のSAE10W-30ディーゼルオイル
4	ミッションオイル （油圧オイル）	35			37		35		ホンダ推奨オイル(スーパーUDT)
5	前車軸ケース	3.2			3.9				
6	各操作レバー・ペダル支点	注油							
7	三点リンク	注入・塗布							グリース
8	バッテリターミナル	塗布							
9	倍速カム	塗布							
10	ウォッシャ液 【キャブ仕様】	2							自動車用ウォッシャ液

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル
日本石油	ホンダ純正ウルトラディーゼルオイル又はAPI分類CC，CD級相当のSAE10W-30ディーゼルオイル	ホンダ推奨オイル(スーパーUDT)
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エビノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホーイルベアリング HDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

フロントグリル及びサイドカバーの外し方

注 意

＊エンジン回転中は絶対にサイドカバーを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■フロントグリル及びサイドカバー

注 意

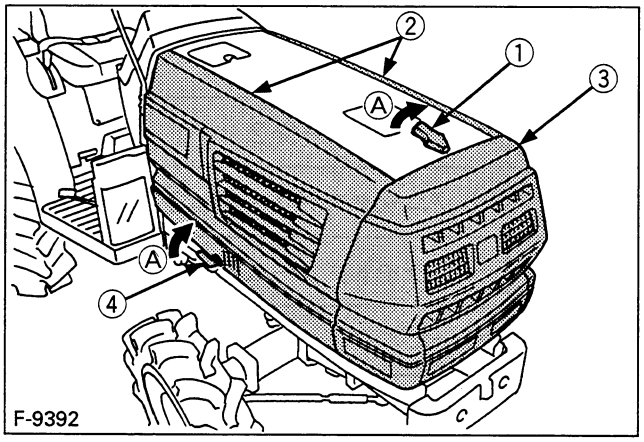
＊ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

❶フロントグリルはマスコットを回すと外れます。

補 足

＊フロントグリルを外す場合，ヘッドライトの配線コネクタを外してください。

❷サイドカバーはロックハンドルを回すと外れます。



①マスコット　　Ⓐ “回す”
②サイドカバー
③フロントグリル
④ロックハンドル

日常点検

注 意

＊火気厳禁
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴き出してヤケドをすることがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2.トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

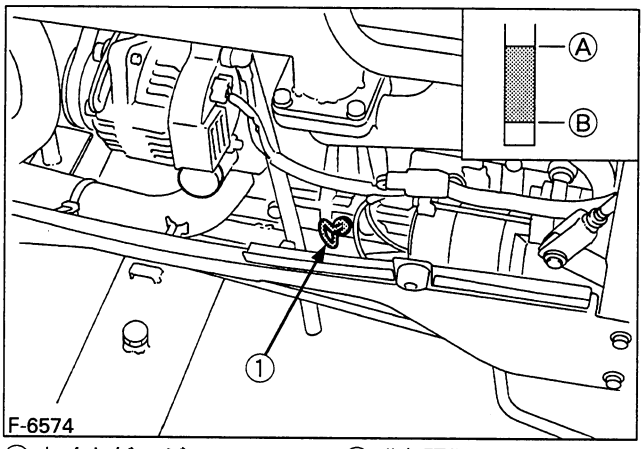
■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



①オイルゲージ　Ⓐ“上限”　Ⓑ“下限”

重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

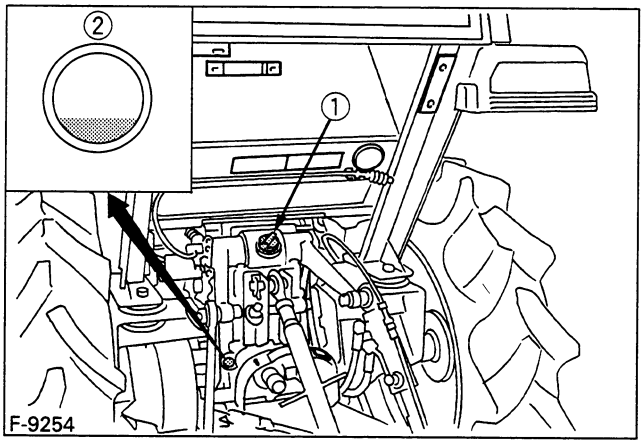
■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶エンジン始動後，オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

❷検油窓以下の場合は補給が必要ですが，検油窓以上には入れないでください。（油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。）



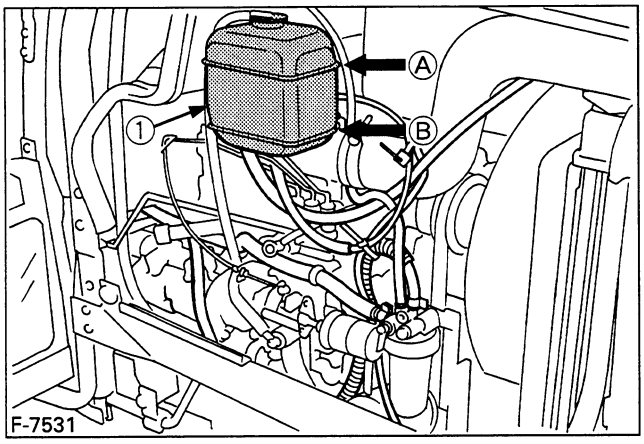
①給油口
②検油窓

■冷却水の量

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。
FULL以上は入れないでください。



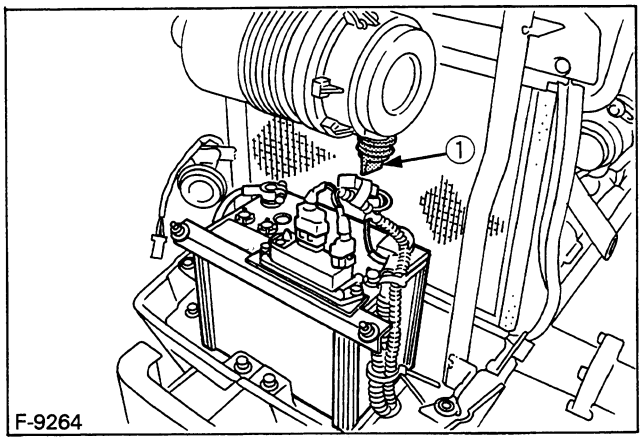
①リザーブタンク　Ⓐ “FULL”
Ⓑ “LOW”

補 足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

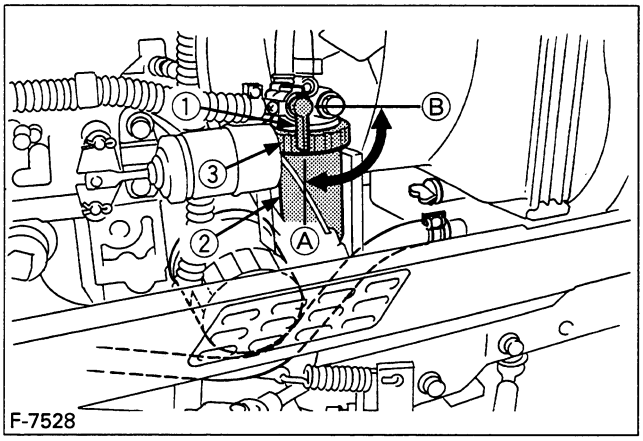
❶燃料フィルタコックを**“OFF”**にしてください。

❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

＊エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。
〔**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照〕



①燃料フィルタコック　　Ⓐ “ON”
②燃料フィルタ　　Ⓑ “OFF”
③リテーナリング

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

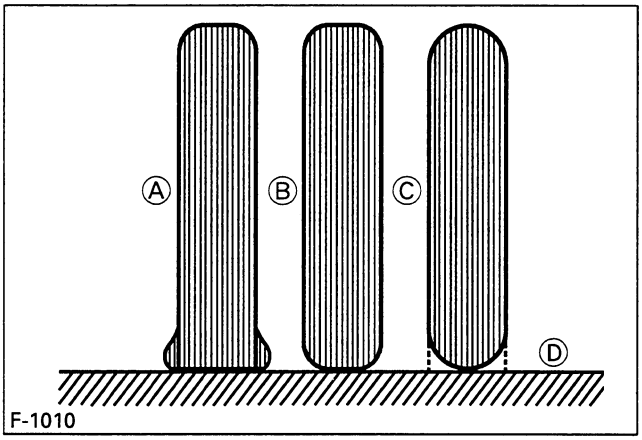
警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

【　】内はフロントローダ装着時

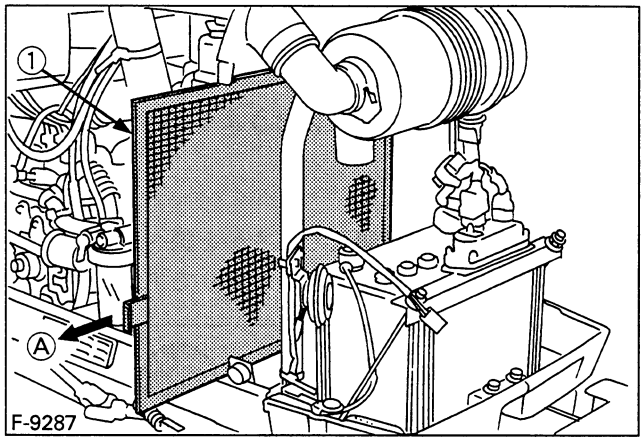
	空気圧kPa(kgf/㎠)
前　輪	160(1.6)　【200(2.0)】
後　輪	100(1.0), 120(1.2)…12.4-28-4PRタイヤのみ

■防虫網の清掃

注 意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
防虫網を引出して掃除します。



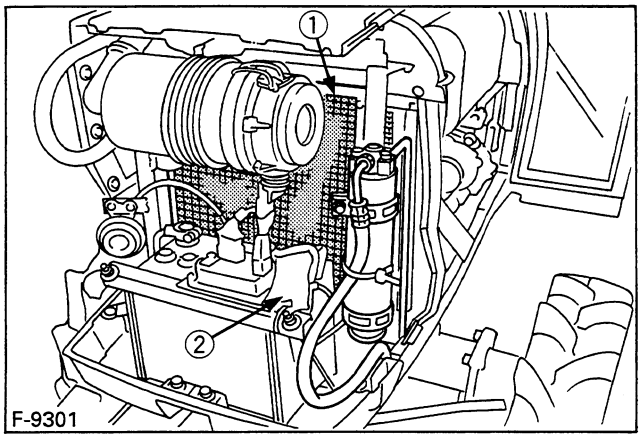
①防虫網　　Ⓐ“引出す”

■防虫網の清掃（コンデンサ用）

エアコン仕様では，ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。
防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は，必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。

重 要

＊防虫網は金属性ですので，バッテリの⊕端子に触れないように特に注意してください。



①防虫網
②⊕端子

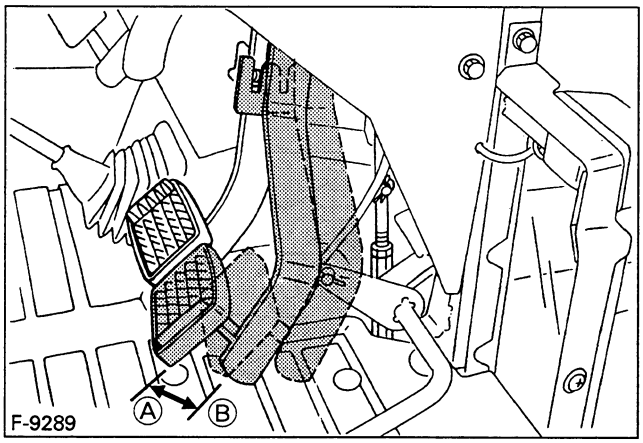
3.運転席に座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

警 告

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

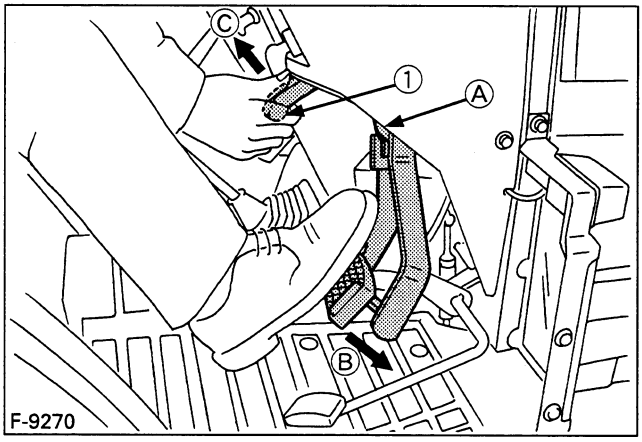
ペダルを踏んで遊び量が**“15～20㎜”**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5㎜以内**かどうかを調べます。
〔調整のしかたは**“100時間ごとの点検・整備”**の**“ブレーキペダルの点検・調整”**の項を参照〕



Ⓐ遊び
Ⓑこの位置での左右差
5㎜以内

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**“上げ”**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

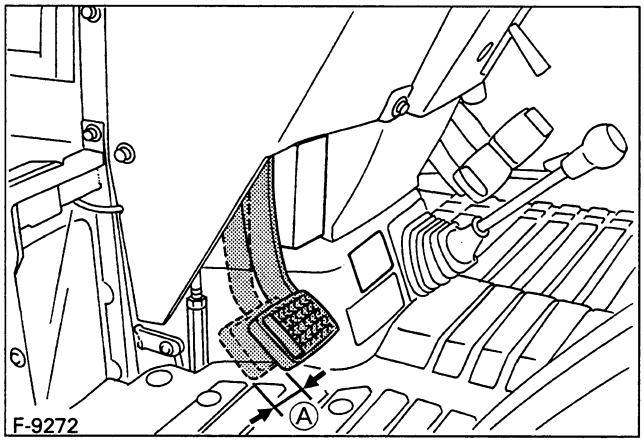


①駐車ブレーキレバー
Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“上げる”

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が“20～30㎜”あるか確認してください。

〔調整のしかたは“100時間ごとの点検・整備”の“クラッチペダルの点検・調整”の項を参照〕



Ⓐ遊び

重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起し損傷につながります。

4.エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

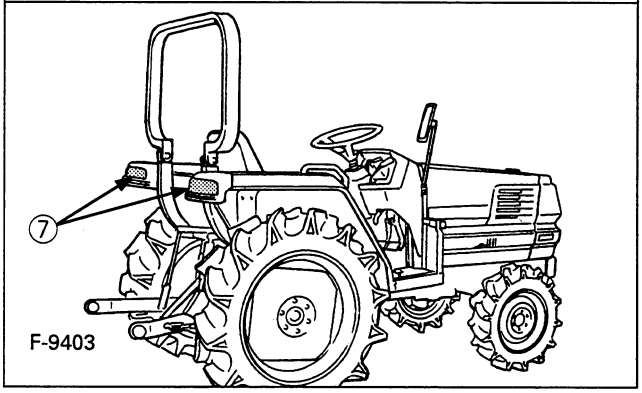
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

①燃料計
②水温計
③エンジン回転計
④ホーン
⑤イージーチェッカ
⑥ヘッドライト
⑦ウインカ(前・後)
⑧作業灯

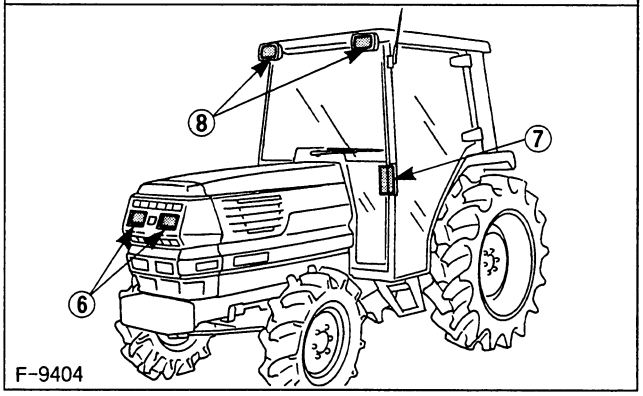
安全フレーム仕様



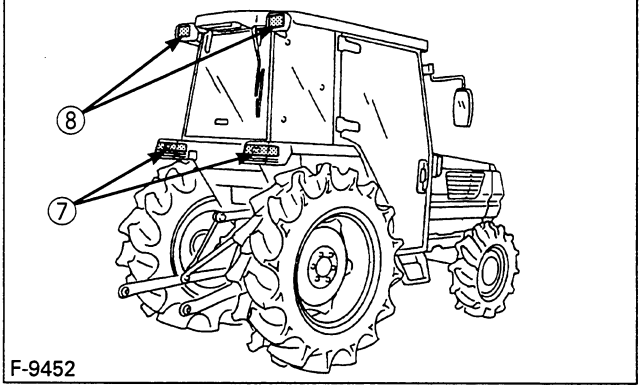
安全フレーム仕様



キャブ仕様



キャブ仕様



5.燃料の補給

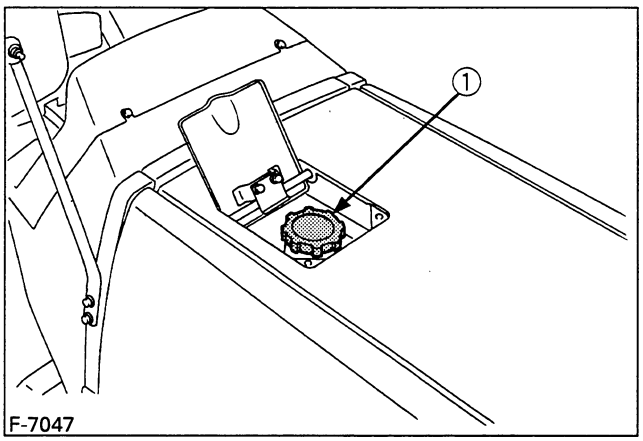
注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料には，**“ディーゼル軽油”**を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特　1　号	+5以上
1　　号	0及び－5
2　　号	－10
3　　号	－15及び－20
特　3　号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①燃料給油口

重 要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

■燃料給油ポンプの取扱い

警 告

＊火気厳禁。
＊ガソリンエンジン搭載車（田植機，バインダーなど）やベンジンなどには使用しないでください。火災のおそれがあります。
＊給油中は離れないでください。万一クランプが外れて軽油があふれるおそれがあります。
＊使用後はスイッチを必ず“切”にしてください。スイッチが“入”のままでは，電源プラグを差込むだけでポンプが作動します。

注 意

＊エンジンをかけながら給油しないでください。火災のおそれがあります。
＊ポンプはポリタンクに差込んだままにしないでください。転倒時に軽油があふれるおそれがあります。
＊ホース破れなど，もれたまま使用しないでください。噴出した軽油で目を痛めるおそれがあります。
＊クランプが浮いたまま使用しないでください。また，クランプの位置をずらさないでください。軽油があふれるおそれがあります。
＊分解，改造をしないでください。
＊センサや吸込み口を汚したり，傷をつけないでください。自動停止をせず軽油があふれたり，故障の原因になります。センサ部や吸込み口が汚れた場合は軽油で洗浄してください。
＊液もどし口より給油口が低いポリタンクは使用しないでください。軽油がもれるおそれがあります。
＊車体が傾いた状態では給油しないでください。吸込み不良やセンサの自動停止不良になるおそれがあります。
＊クランプ部は取外したり，下側へスライドさせないでください。軽油があふれるおそれがあります。
＊ゴミなどを吸込ませたり，水をかけないでください。自動停止せず軽油があふれたり，作動しなくなるおそれがあります。

❶使用時は，給油ポンプの吸込み口をポリタンクの底まで入れます。
❷クランプを燃料給油口へ差込みます。
　①クランプを指で押えます。
　②給油口の爪部に当らない所にクランプを差込みます。
❸電源コードをコンセントに差込みます。
❹トラクタのキースイッチを**“入”**位置にします。
❺スイッチを入れます。
　● **“カチッ”**と音がするまで押します。
　● 軽油が満タンになると自動停止します。
❻給油が終わったら，ポンプのスイッチ，トラクタのキースイッチを切り，コンセントを抜いてポンプを収納してください。

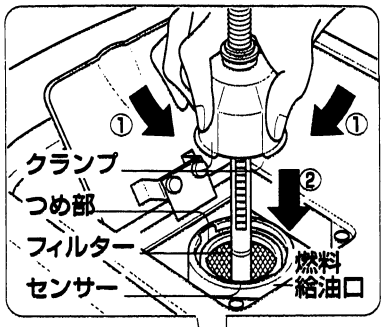
補 足

＊必ず，吸込み口を軽油の中に入れてからスイッチを入れてください。スイッチを入れてから吸込み口を軽油の中に入れると空気がたまり吸上げません。

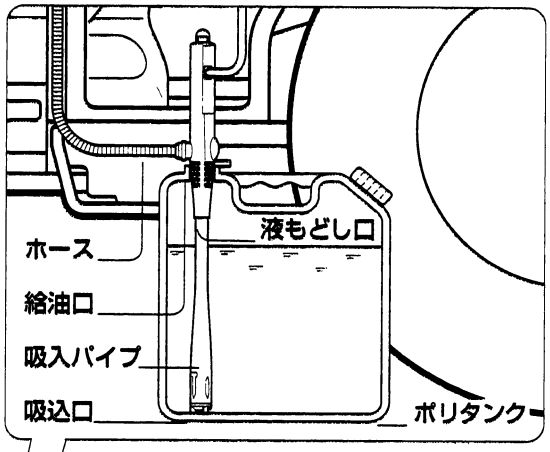
ご使用方法

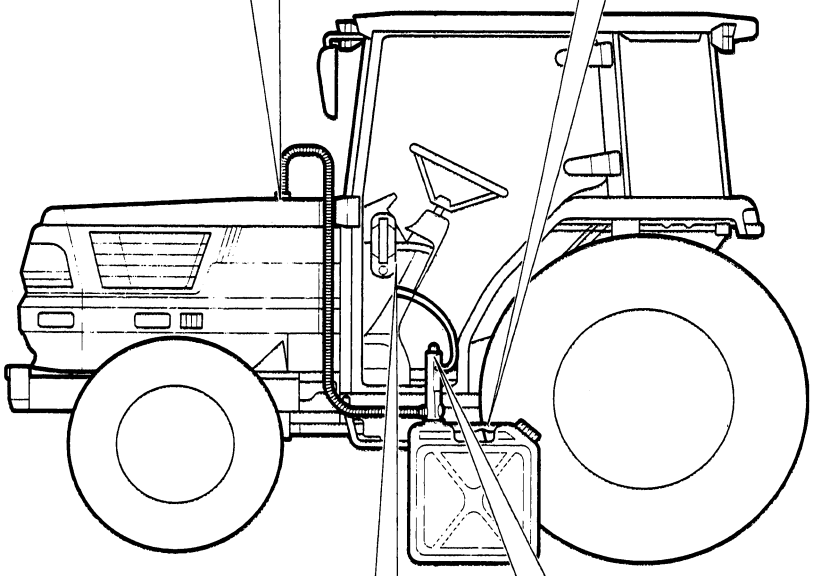
❷ クランプを燃料給油口へ差し込む

①クランプを指で押さえる。
②給油口のつめ部に当たらない所にクランプを差し込む。
※つめ部に差し込むと、クランプがはずれて、油がもれる原因になります。
※クランプ部を下側へスライドさせないでください。

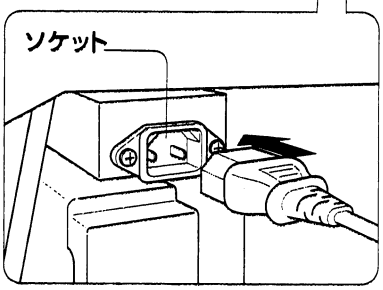


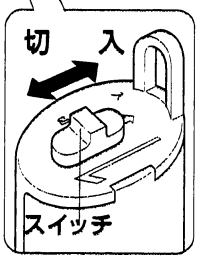
❶ 給油ポンプの吸込口をポリタンクの底まで入れる





❸ 電源コードをソケットに差し込む





給油後は、必ずスイッチを「切」にしてください。

❹ スイッチを入れる

●「カチッ」と音がするまで押す。
●軽油が満タンになると自動停止します。
※必ず、吸込口を軽油の中に入れてからスイッチを入れてください。スイッチを入れてから吸込口を軽油の中に入れると空気がたまり吸い上げません。
※水平な場所で給油してください。

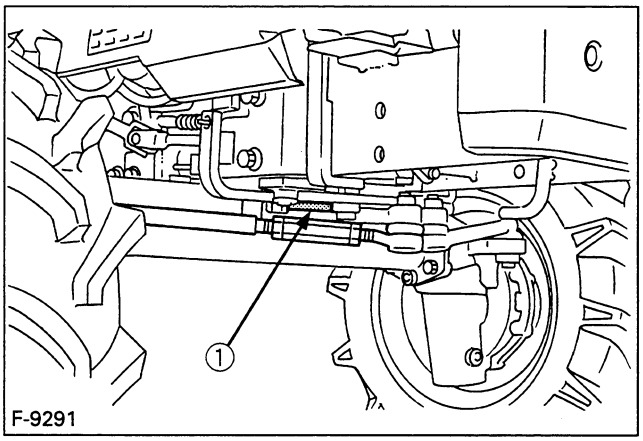
補　足

＊燃料給油口のフィルタや，ポリタンク内のゴミは洗浄（除去）してご使用ください。
＊自動停止後スイッチを切り，ホース内の残油を完全に流してからクランプを外し，油をよくきってください。
＊ご使用後は，センサ部や吸込み口を布ぎれでふき取り，雨や直射日光の当らない所に保管してください。
＊コードは電源プラグを持って引抜いてください。また，電源プラグを改造したり，AC100V電源に使用しないでください。

50時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“推奨グリース”**を使用してください。



①倍速カム

■エンジン始動システムの点検

注 意

＊点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。

＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

❶運転席に座り，主変速，シャトル及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にします。

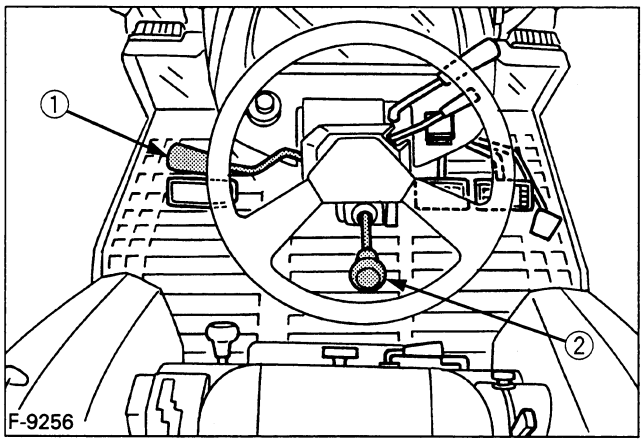
❷駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。

❸アクセルレバーを**“最低速”**位置にします。

❹クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。
このとき，エンジンが回れば正常です。

❺次に，クラッチペダルを一杯踏込んだままシャトルレバーを**“前進”**又は**“後進”**に，PTO変速レバーを**“各変速段”**〔**一方が中立(N)の場合も含む**〕に入れ，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。
このとき，エンジンが回らなければ正常です。

❻もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



①シャトルレバー
②PTO変速レバー

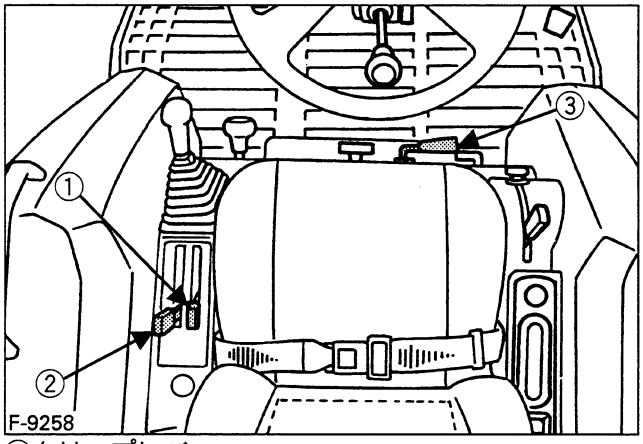
■けん制装置の点検

注 意

＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

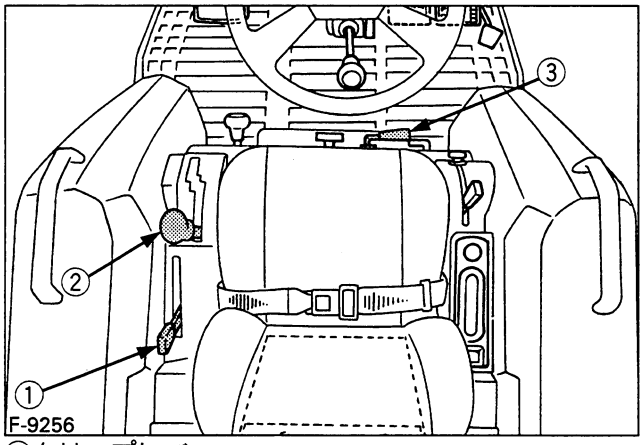
【マニュアルシフト仕様】



①クリープレバー
②副変速レバー
③ADレバー

❶運転席に座り，クリープレバーを“H”，副変速レバーを“L”，またADレバーを“入”にします。
❷副変速レバーを“H”に入れます。
このとき，けん制装置がはたらき，ADレバーが“切”になれば正常です。

【Uシフト(F)仕様】



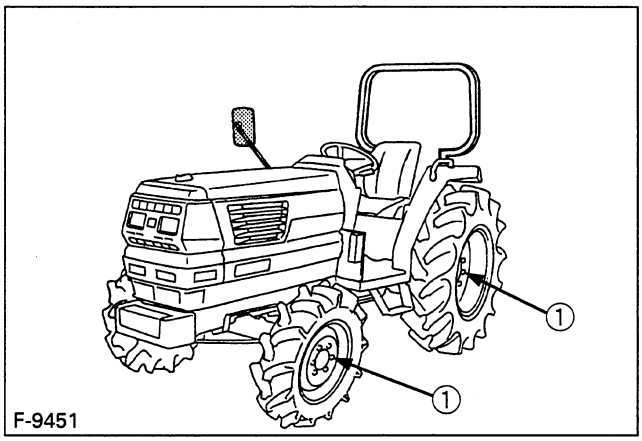
①クリープレバー
②主変速レバー
③ADレバー

❶運転席に座り，クリープレバーを“H”，主変速レバーを“4速”，またADレバーを“入”にします。
❷主変速レバーを“5速”に入れます。
このとき，けん制装置がはたらきADレバーが“切”になれば正常です。

■タイヤ取付けボルトの点検

注 意

＊タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。



①ボルト／ナット

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注 意

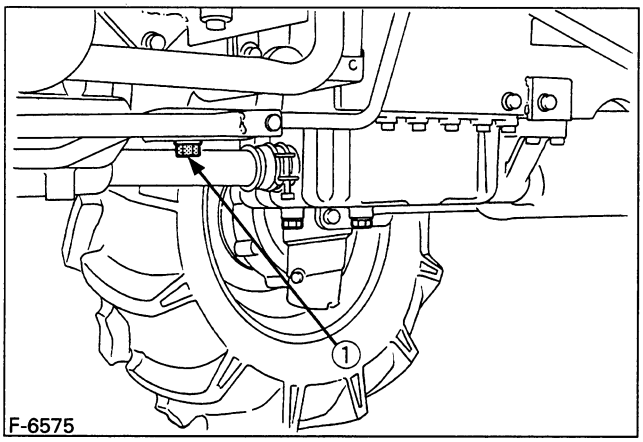
＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



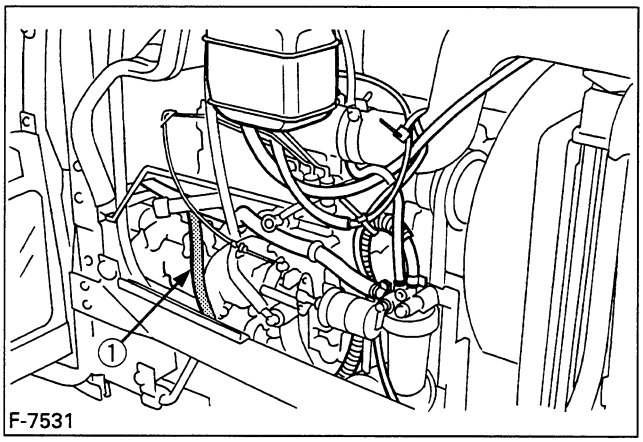
①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

重　要

＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

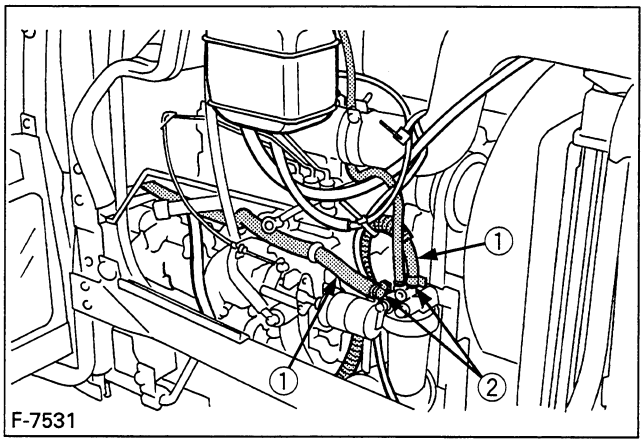
■燃料パイプの点検

注　意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
〔**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照〕



①燃料パイプ
②締付けバンド

重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

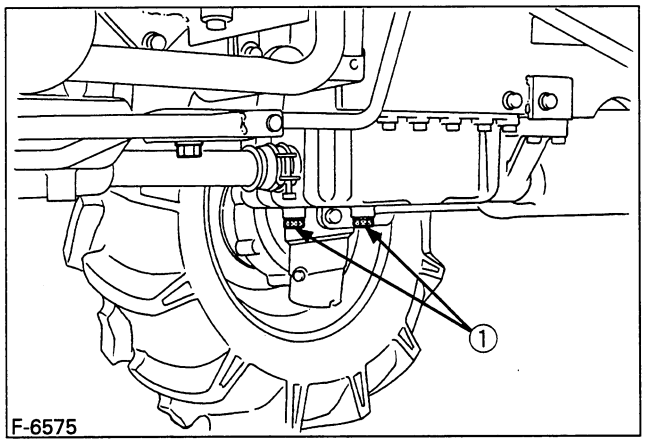
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

注 意

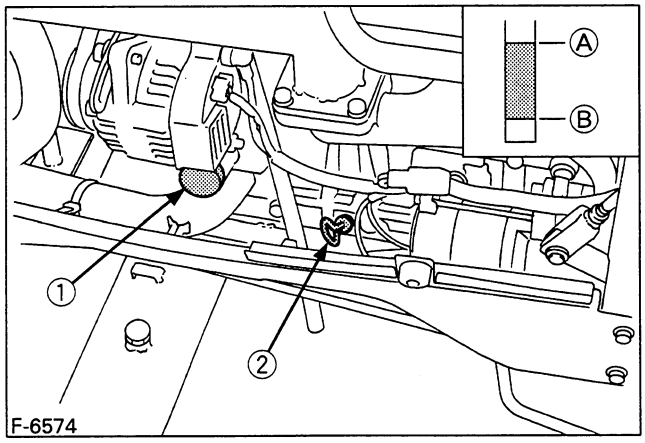
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



①エンジンオイル給油口　　Ⓐ “上限”
②オイルゲージ　　Ⓑ “下限”

重 要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから,新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	10W30(オールシーズン用)
15℃以上	30，又は10W30

＊冬期は必ず10W30を使用してください。

■バッテリ電解液の点検

警 告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。

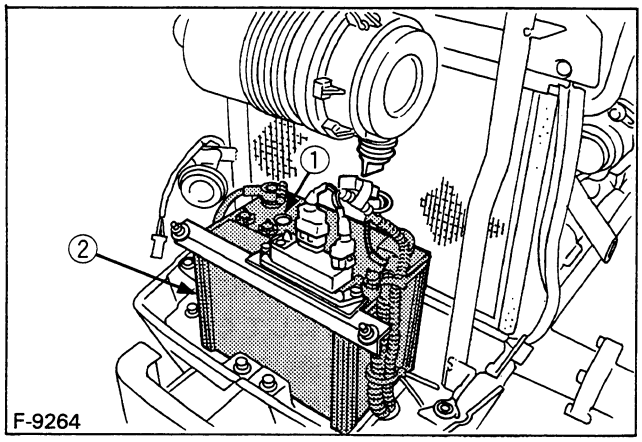
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止してください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり，その表示状態によって蒸留水を補給，または補充電してください。



①インジケータ
②バッテリ

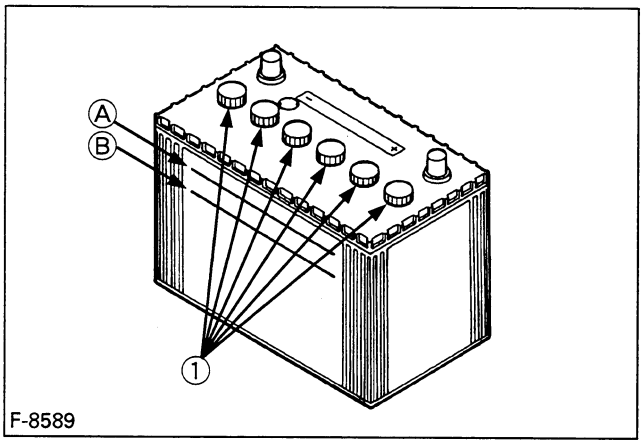
◆インジケータの見方

青…OKです。**白**…点検してください。

インジケータ表示状態	**青**	電解液比重 電解液量	共に良好です。
	白	要点検です。 (点検順序) 1. 液面が下がっている場合 蒸留水を補水し，**青**になればそのままご使用ください。**白**のままの場合は，6～7Aの普通充電電流で補充電してください。 2. 液面が正常な場合 6～7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。	

◆補水のしかた

❶バッテリ上フタの補水キャップを外します。
❷6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
❸キャップを元の穴にねじ込みます。



①補水キャップ　　Ⓐ“上限”　　Ⓑ“下限”

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（75D26R-MF）のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警　告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

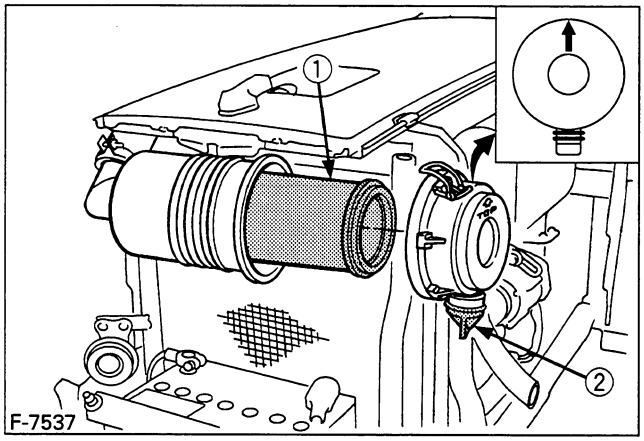
■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。〔エアの圧力は0.69MPa(7kgf/㎠)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。〕

◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。



①エレメント
②バキュエータバルブ

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
＊ダストカップの（⬆マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆バキュエータバルブの清掃

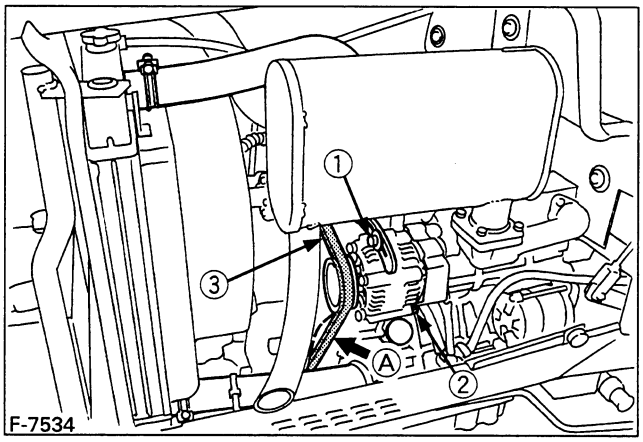
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で抑えて,約7㎜たわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



①ボルト　　Ⓐ“押す”
②ナット
③ファンベルト

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊き裂やはがれがあれば交換してください。

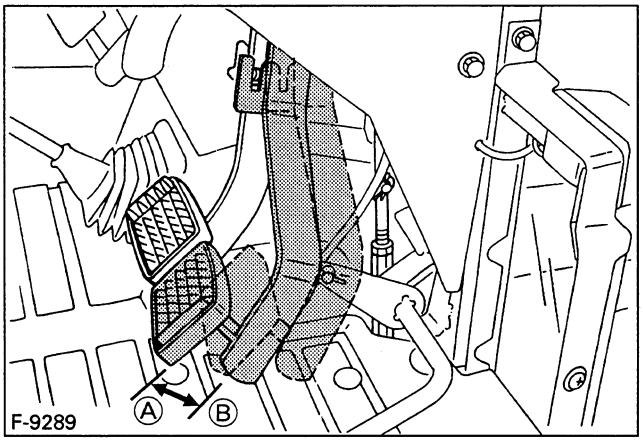
■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“5㎜以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで15～20㎜

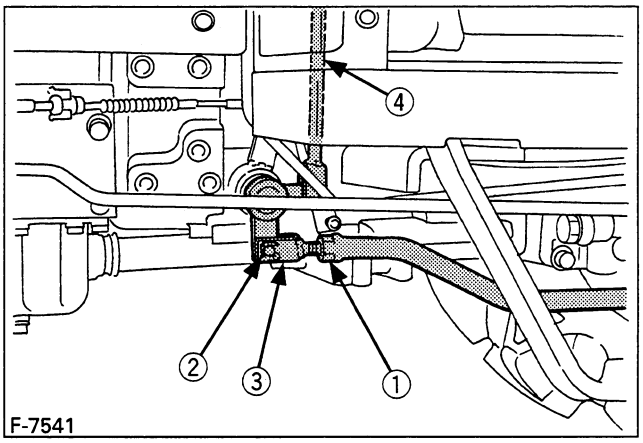
◆調整方法



Ⓐ遊び
Ⓑこの位置でのペダルの左右差5㎜以内

【AD(オートディスクブレーキ)仕様】

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ステップ下のブレーキロッドのロックナット①をゆるめる。
❸ピン②を外し，金具③を回してブレーキペダルの遊びを調整します。



①ロックナット
②ピン
③金具
④ターンバックル

重 要

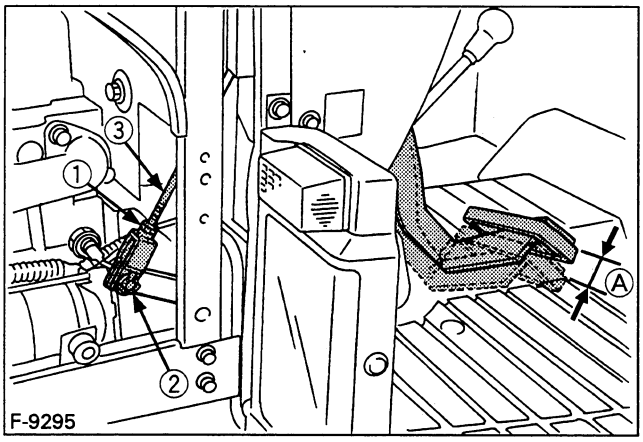
＊通常のブレーキにAD(オートディスクブレーキ)の機構が組込まれていますので，ペダルの遊び調整方法を守ってください。
＊④のターンバックルはさわらないでください。
ADの調整がくるいます。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20～30mm

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
❷調整後はロックナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。



①ロックナット　　Ⓐ “遊び”
②頭付きピン
③クラッチロッド

重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起し損傷につながります。

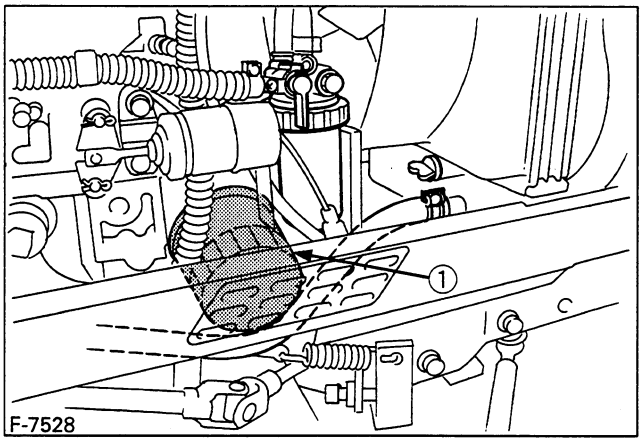
200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

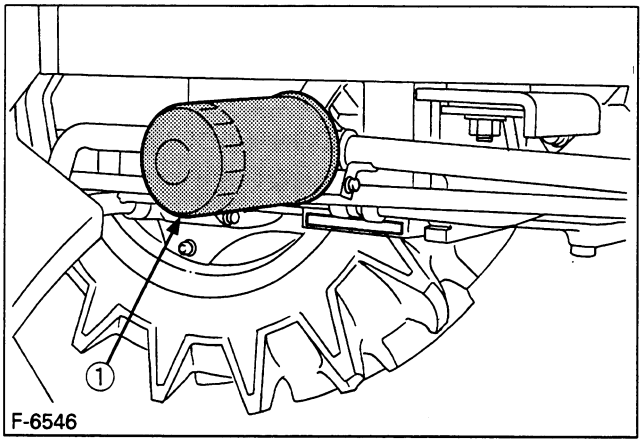
❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



①油圧オイルフィルタカートリッジ

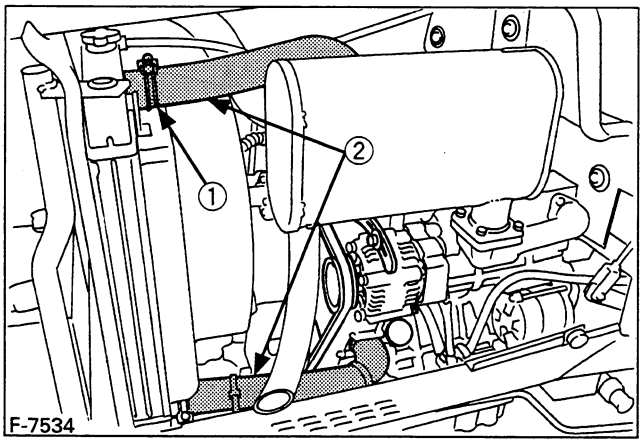
❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
〔ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**“400時間ごとの点検・整備”**の**“ミッションオイルの交換”**の項を参照〕

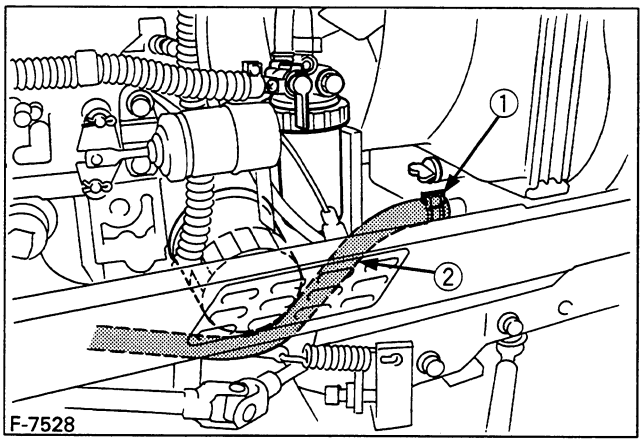
■ラジエータホースの点検

注 意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。





①締付けバンド
②ラジエータホース

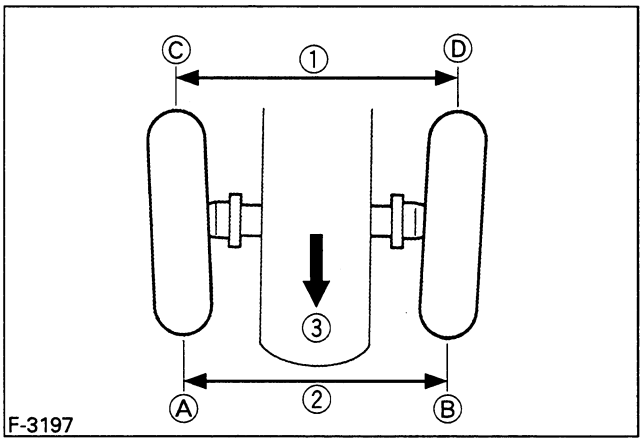
■ トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～８㎜になっているかを調べます。

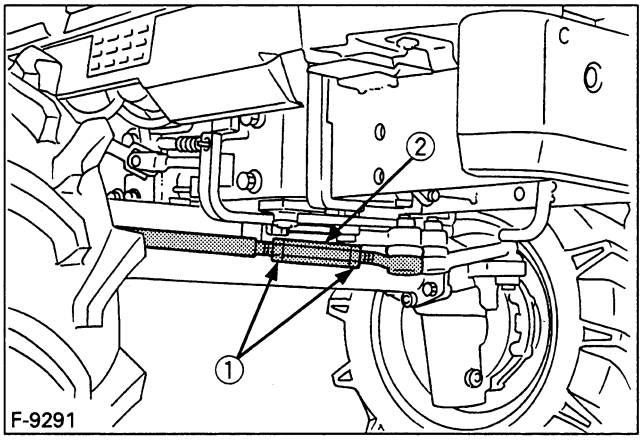


①後幅
②前幅
③前

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめ，ⒸⒹ－ⒶⒷ ＝２～８㎜になるように調整します。

❷調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



①ロックナット
②ターンバックル

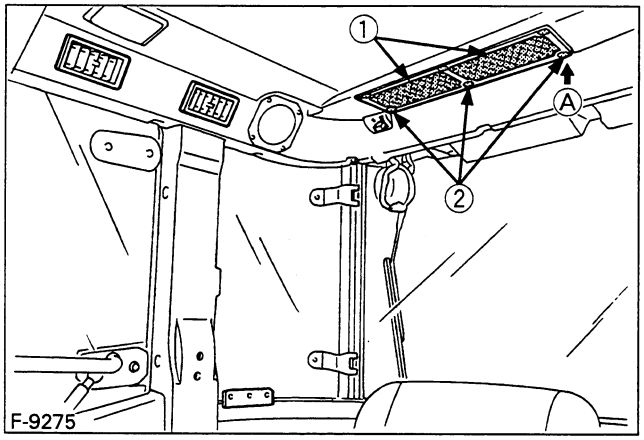
補　足

＊トーインの点検・調整時，タイロッドエンド（関接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

以下はキャブ仕様のみの点検項目です。

■室内エアーフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。



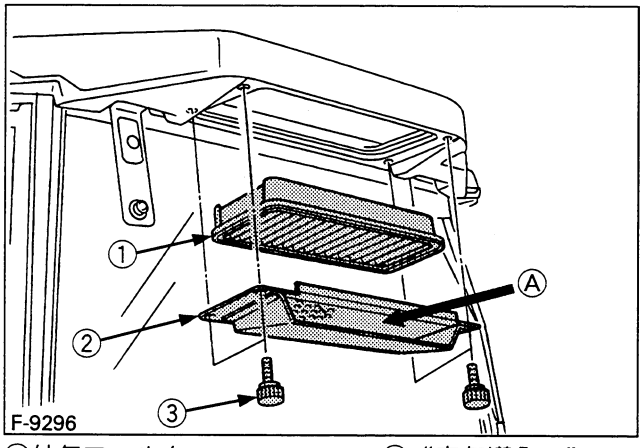
①室内エアーフィルタ　　Ⓐ “押す”
②プッシュリベット

補　足

＊プッシュリベットの中央部を少し押すとリベットが外れます。

■外気フィルタ

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



①外気フィルタ　　Ⓐ “空気導入口”
②カバー
③ノブボルト

補　足

＊カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

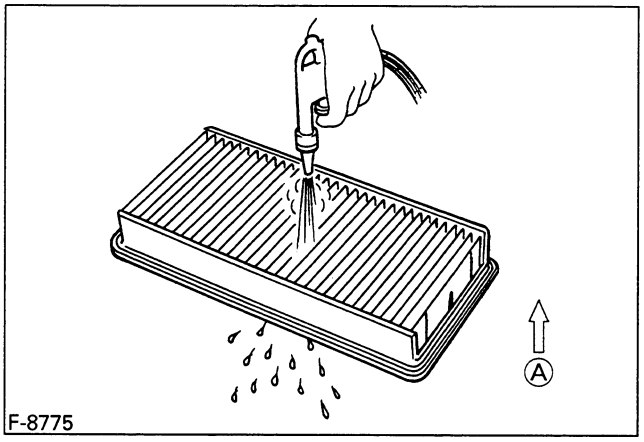
◆外気フィルタの清掃法

● **通常**

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。



Ⓐ風の流れ

● **汚れが著しいとき**

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

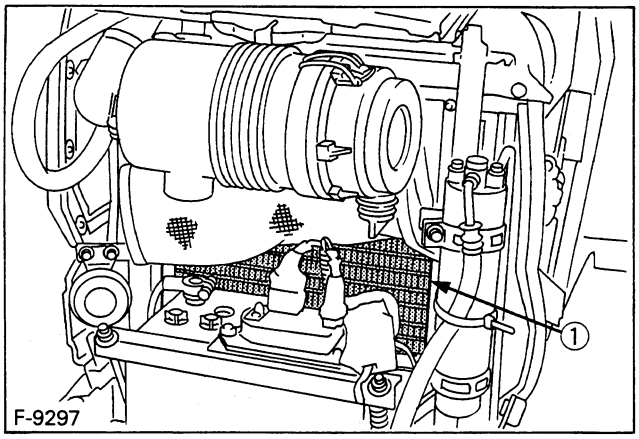
＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

コンデンサフィンにゴミが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。



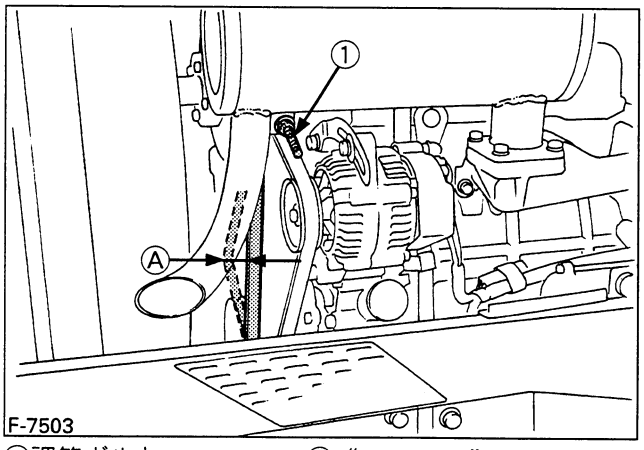
①コンデンサ

■エアコンベルトの張り

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgfで**“10～12mm”**が適正です。



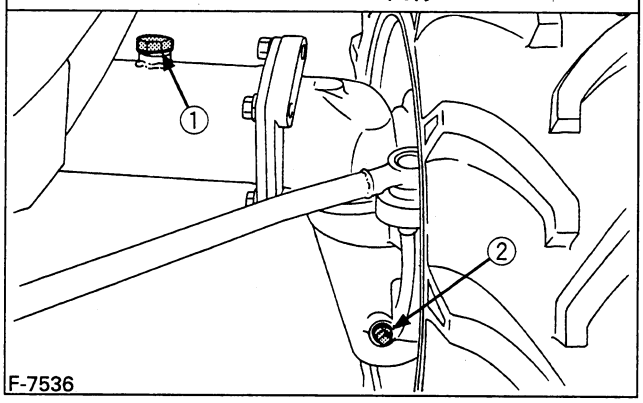
①調節ボルト　　Ⓐ “10～12mm”

300時間ごとの点検・整備

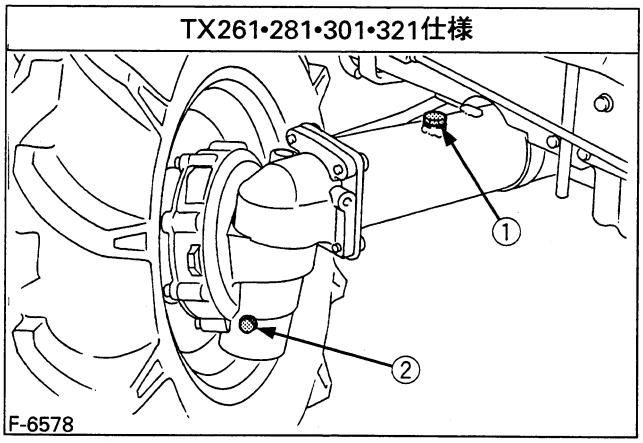
■前車軸ケースオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

TX201•221•241仕様



TX261•281•301•321仕様



①給油プラグ
②ドレーンプラグ

❷ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

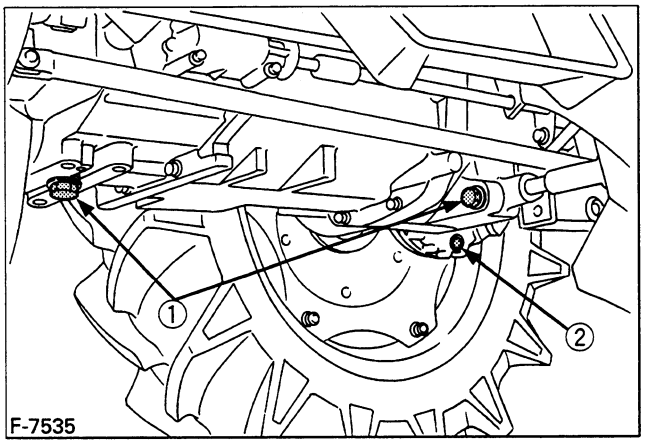
400時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注 意

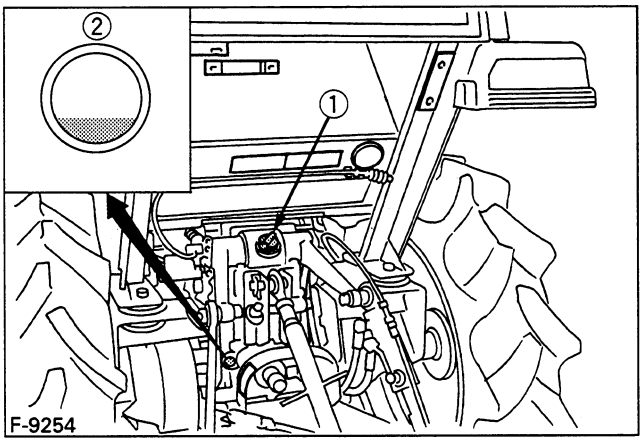
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを(4カ所)外してオイルを抜きます。



①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ(左右2カ所)

❷ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。



①給油口
②検油窓

❸エンジンを始動して2～3分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。

補 足

＊油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。

＊ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

❶燃料フィルタコックを“OFF”にしてください。

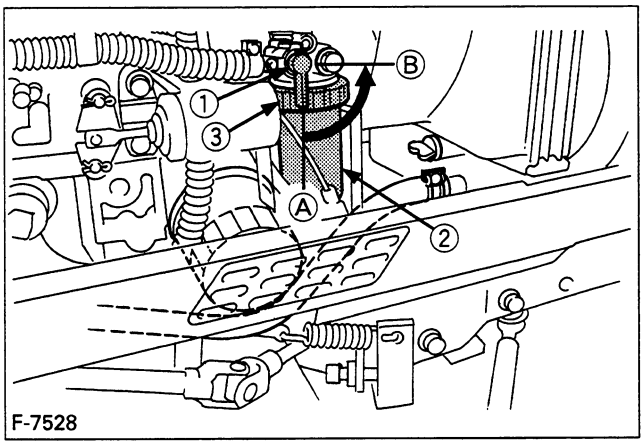
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重 要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

＊エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。〔**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項参照〕



①燃料フィルタコック　Ⓐ “ON”
②燃料フィルタ　Ⓑ “OFF”
③リテーナリング

600時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの調整

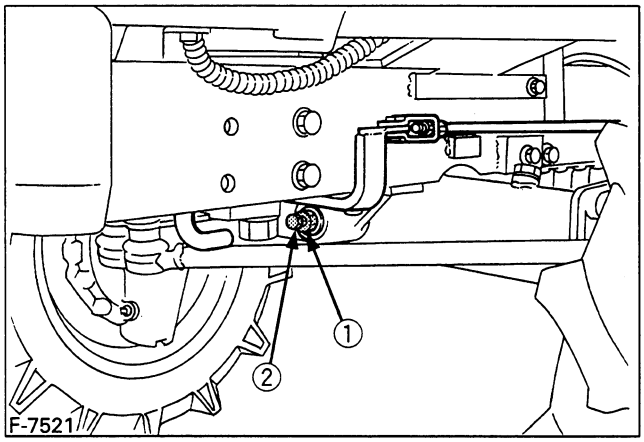
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。



①ロックナット
②調整ボルト

800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

〔**“100時間ごとの点検・整備”**の**“エアクリーナエレメントの清掃”**の項を参照。〕

■注油

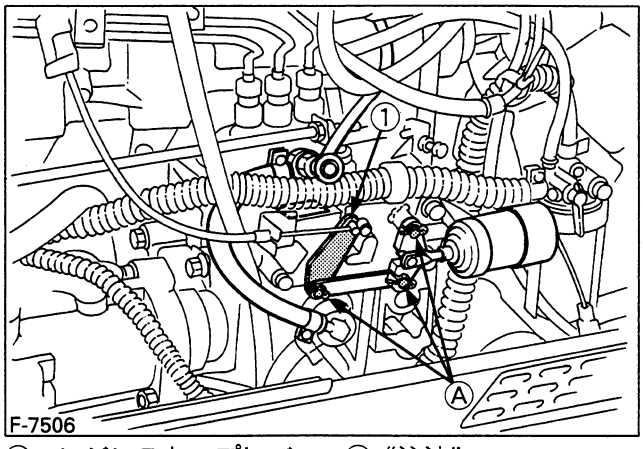
◆停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は，1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。

注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してキースイッチ**“切”**でエンジンが停止するか確認してください。

重　要

＊この部分は，キースイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。



①エンジンストップレバー　Ⓐ“注油”

■ヒータ配管，ホースの点検

■エアコン配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

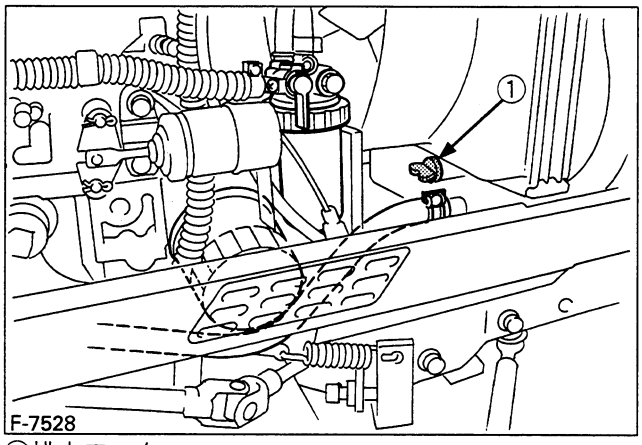
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

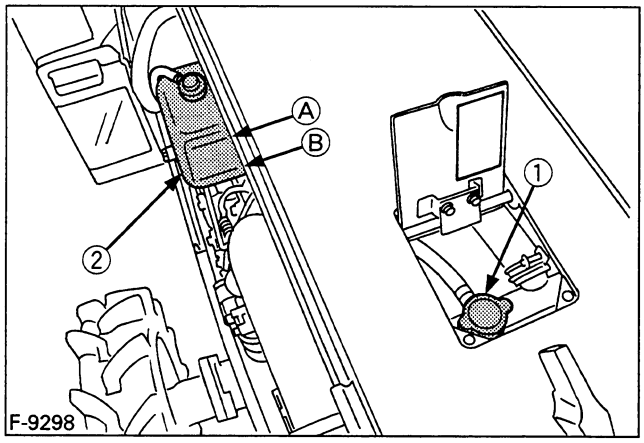
注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



①排水コック



①ラジエータキャップ　Ⓐ“上限”
②リザーブタンク　Ⓑ“下限”

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

❹キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約１Ｌ多く必要となります。
冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**“ON”**（温度コントロールレバーを**WARM**(右端)に寄せる）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。
冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸いこまれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

重 要

＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 %	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度 ℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，**ラジエータ洗じょう剤**を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

＊２年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。

■ラジエータホースの交換
■パワーステアリングホースの交換
■燃料パイプの交換
■モンローシリンダホースの交換

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

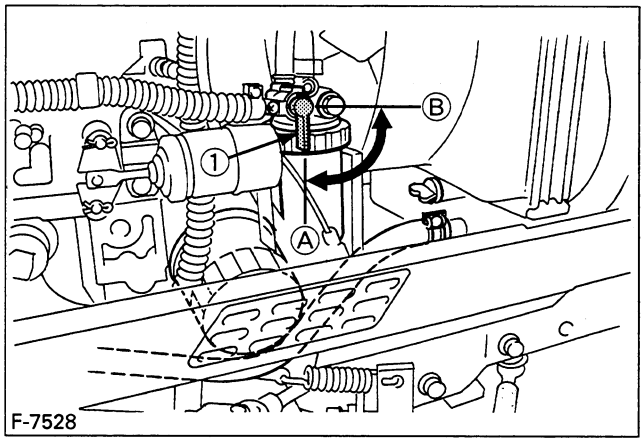
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

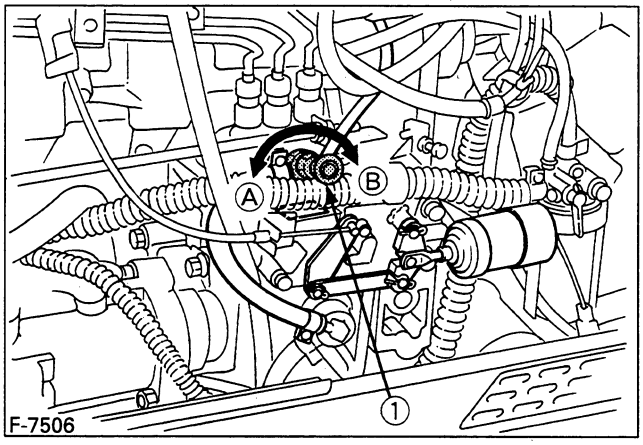
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

❶燃料フィルタコックを**“ON”**にする。



①燃料フィルタコック　Ⓐ “ON”　Ⓑ “OFF”

❷燃料噴射ポンプ上のコックを開く。



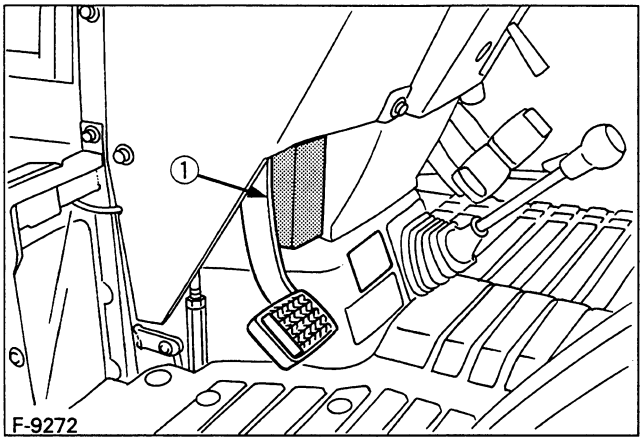
①エア抜きコック　Ⓐ “開”　Ⓑ “閉”

❸タンクに燃料を満たす。
❹エンジンを始動し，約１分間運転後停止する。
❺燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

補　足

＊空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは，必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

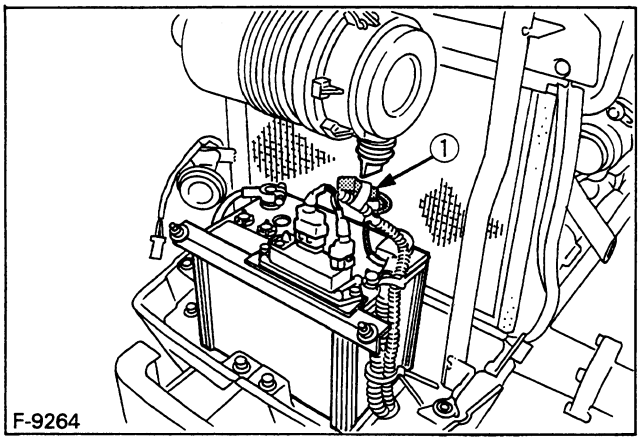
重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換



①スローブローヒューズ

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

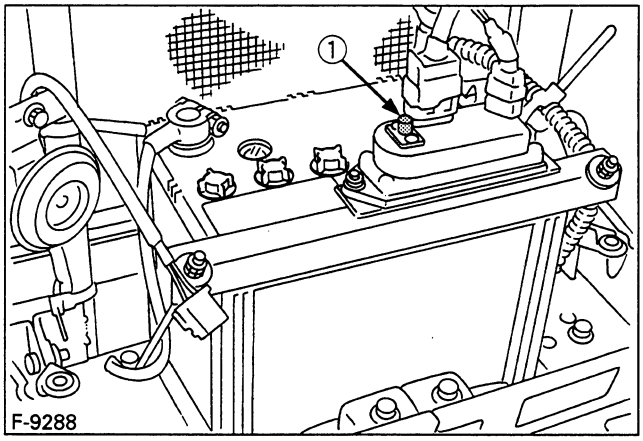
補　足

＊スローブローヒューズ……40A

■ランプ類の交換

1.ヘッドランプとリヤコンビネーションランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2.その他のランプ
レンズを外し，バルブを交換します。

■プラスカットリレーのリセット方法



①リセットスイッチ

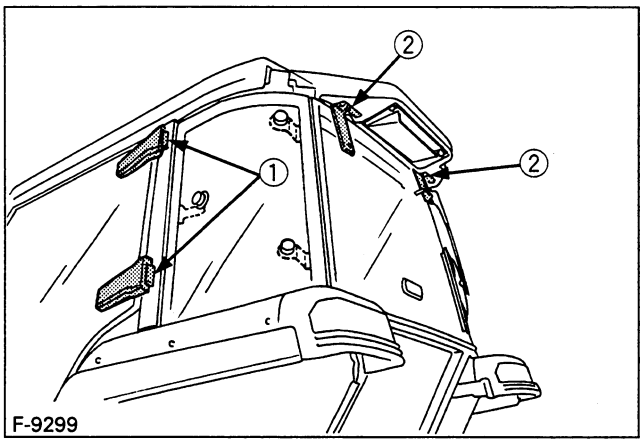
❶キースイッチを**“切”**にする。
❷リセットスイッチを押し，オレンジ色（安全フレーム仕様）又は黄色（キャブ仕様）のスイッチが下に下がったのを確認する。
❸1分以上休止してから，再度キースイッチを**“入”**にして，イージーチェッカランプが点灯するかを確認する。

重　要

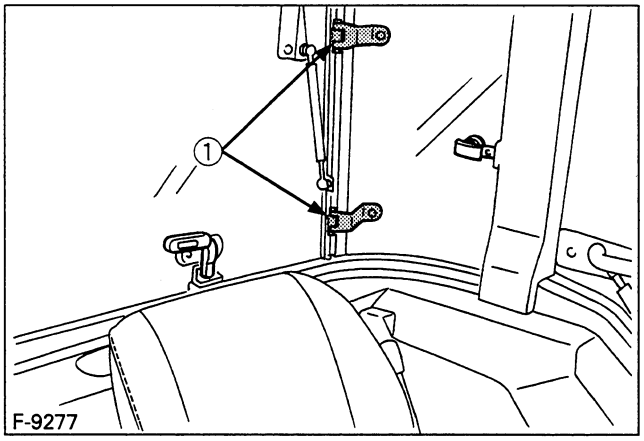
＊リセットスイッチを押しても，すぐにスイッチが上がってしまう場合は，配線のショートのおそれがあるので，購入先に点検・整備を依頼してください。

以下はキャブ仕様のみの点検項目です。

■オイルの注油



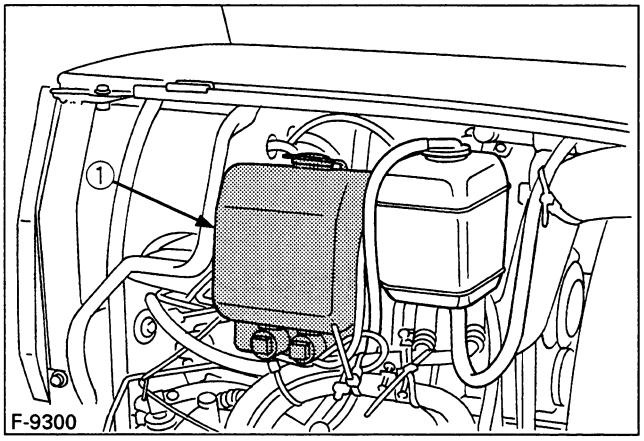
①ドアーヒンジ部
②リヤウインドヒンジ部



①クォータウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



①ウォッシャタンク

重 要

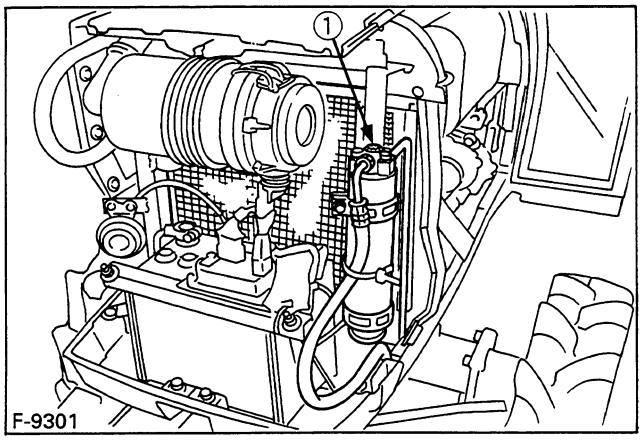
＊凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ウオッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

■冷媒(ガス)量の点検【Q仕様】

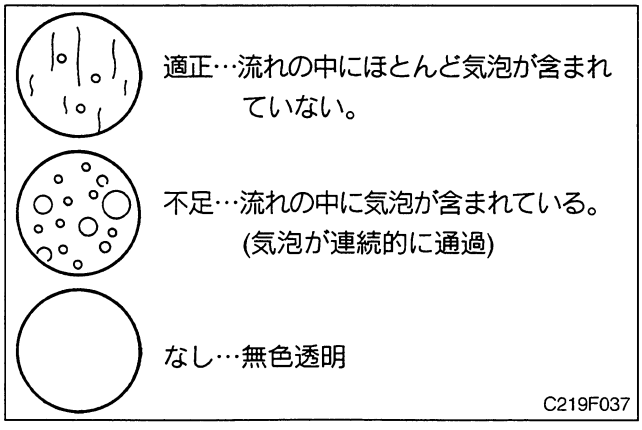
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

◆点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - エンジン回転数　　：約1500min^{-1}(rpm)
   - 温度コントロールレバー：最強冷位置(左端)
   - ファンスイッチ　　：最強風(HI)
   - エアコンスイッチ　　：ON
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。



①サイトグラス



格　　納

注　意

＊長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ“切り”に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

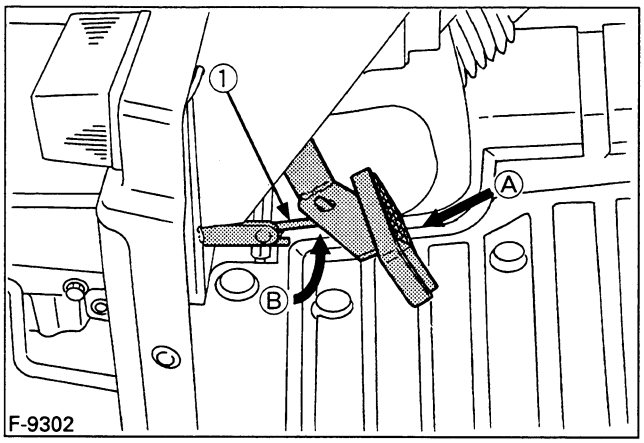
1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 燃料フィルタコックを**“OFF”**にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ“切”保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込み，**“ロック”**します。

❷ロックしたまま，クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは，**“切”**の状態で保持されます。

❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，ロックが外れ，**“切”**保持の状態が解除されます。



①ロック金具　　Ⓐ“踏む”
Ⓑ“穴に引掛けてロックする”

8. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
9. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
10. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
11. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
12. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
13. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
14. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
15. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
16. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

＊格納時は，必ず“切”の位置でキーを抜いておいてください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

形式			TX201	TX221	TX241	TX261	TX281	TX301	TX321
駆動方式			4輪駆動						
機体寸法	全長	mm	〔3005〕		2950〔3005〕	3050	3050〔3130〕	3180	
	全幅	mm	1220	1245		1320	1400	1420	1455
	全高	mm	〔1980〕		1980〔1995〕	1950〔1995〕	1995〔1980〕	1980〔1990〕	
	軸距	mm	1550〔1585〕			1645	1645〔1700〕	1750	
	輪距 前輪	mm	950			1080	1130		
	輪距 後輪	mm	1010, 1130			1050～1345（6段）	1130～1420（5段）	1090～1480（6段）	1110～1575（6段）
	最低地上高	mm	335		350	345	360		
質量（重量）		kg	〔1280〕		1105〔1305〕	1180〔1370〕	1215〔1400〕	1270〔1435〕	1280〔1445〕
エンジン	名称		D1403-NN	D1463-LN	D1463-NN	D1503-LNN	D1503-NN	D1503-HNN	D1503-HHNN
	形式		水冷4サイクル３気筒立形ディーゼル						
	総排気量 cm³（cc）		1393	1463		1499			
	出力/回転速度 kW/min⁻¹(PS/rpm)		15/2600 (21/2600)	17/2500 (23/2500)	18/2600 (25/2600)	20/2600 (27/2600)	21/2700 (29/2700)	23/2700 (31/2700)	24/2800 (33/2800)
	使用燃料		ディーゼル軽油						
	燃料タンク容量 L		27					35	
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ付）						
	バッテリ		75D26R　MF（メンテナンスフリー）						
タイヤ	前輪		6-14-4PR			7-16-4PR	8-16-4PR		
	後輪		8.3-24-4PR	9.5-22-4PR	9.5-24-4PR	11.2-24-4PR	11.2-26-4PR	12.4-26-4PR	13.6-24-4PR
車体	クラッチ方式		乾式単板						
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）						
	かじ取り方式		ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）						
	差動方式		2ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			
	変速方式		コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動/Uシフト						
変速段数（段）			前進16，後進16（シャトル）						
走行速度 (km/h)		前進	0.23～14.67	0.22～14.65	0.23～14.78	0.22～14.80	0.22～14.93〔0.22~14.84〕	0.22～14.48	0.22～14.90
		後進	0.21～13.17	0.19～13.19	0.21～13.28	0.19～13.32	0.20～13.41〔0.20~13.32〕	0.20～13.03	0.20～13.41
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	1.9			2.1		2.2	
PTO	回転速度/エンジン回転速度 min⁻¹（rpm）	正転	568,803 985,1304/2600	546,772 947,1254/2500	544,770 944,1250/2600	568, 803 985, 1304/2600	545,771 945,1252/2700	537,759 931,1233/2700	557,788 966,1279/2800
		逆転	803/2600	772/2500	770/2600	803/2600	771/2700	759/2700	788/2800
	軸寸法	mm	JIS　35						
作業機 昇降装置	制御方式		ポジションコントロール						
	装置方式		3点リンク　JIS　1形						

〔　〕はキャブ仕様

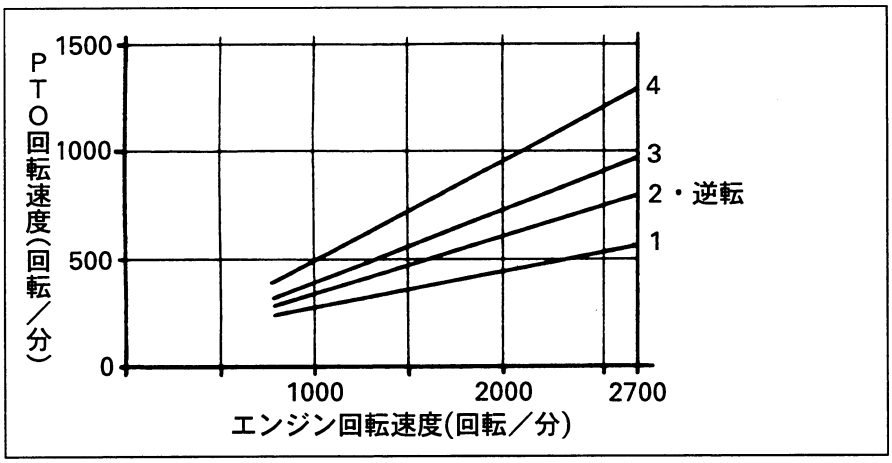
■走行速度表

(km/h)

マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		TX201		TX221		TX241		TX261	
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	L	1	L	0.23	0.21	0.22	0.19	0.23	0.21	0.22	0.19
2			2		0.32	0.29	0.31	0.28	0.33	0.29	0.31	0.28
3			3		0.40	0.36	0.38	0.34	0.40	0.36	0.38	0.34
4			4		0.53	0.47	0.50	0.45	0.53	0.48	0.50	0.45
5	H		5		0.74	0.66	0.73	0.65	0.74	0.67	0.74	0.66
6			6		1.04	0.93	1.03	0.93	1.05	0.94	1.05	0.94
7			7		1.28	1.15	1.27	1.14	1.29	1.16	1.28	1.15
8			8		1.69	1.52	1.68	1.51	1.70	1.53	1.70	1.53
1	L	H	1	H	1.84	1.66	1.77	1.59	1.86	1.67	1.77	1.59
2			2		2.61	2.34	2.51	2.25	2.63	2.36	2.51	2.25
3			3		3.20	2.87	3.07	2.76	3.22	2.90	3.07	2.76
4			4		4.24	3.80	4.07	3.66	4.27	3.83	4.07	3.66
5	H		5		5.93	5.33	5.90	5.31	5.98	5.37	5.98	5.38
6			6		8.39	7.53	8.35	7.52	8.46	7.59	8.47	7.62
7			7		10.29	9.24	10.24	9.22	10.37	9.31	10.38	9.34
8			8		14.67	13.17	14.65	13.19	14.78	13.28	14.80	13.32

マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		TX281		TX281Q		TX301		TX321	
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	L	1	L	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.20
2			2		0.31	0.28	0.32	0.28	0.31	0.28	0.31	0.28
3			3		0.39	0.35	0.39	0.35	0.37	0.33	0.38	0.34
4			4		0.51	0.46	0.51	0.46	0.50	0.45	0.51	0.46
5	H		5		0.75	0.67	0.75	0.67	0.73	0.65	0.75	0.67
6			6		1.06	0.95	1.06	0.95	1.03	0.93	1.06	0.96
7			7		1.30	1.17	1.29	1.16	1.26	1.13	1.31	1.17
8			8		1.72	1.55	1.71	1.54	1.67	1.50	1.73	1.56
1	L	H	1	H	1.79	1.61	1.81	1.62	1.74	1.56	1.80	1.62
2			2		2.54	2.28	2.56	2.29	2.46	2.21	2.55	2.29
3			3		3.11	2.79	3.13	2.81	3.02	2.71	3.12	2.80
4			4		4.12	3.70	4.15	3.72	3.99	3.58	4.14	3.72
5	H		5		6.05	5.43	6.02	5.40	5.87	5.28	6.08	5.47
6			6		8.56	7.69	8.51	7.64	8.31	7.48	8.61	7.75
7			7		10.50	9.43	10.43	9.37	10.18	9.17	10.55	9.50
8			8		14.93	13.41	14.84	13.32	14.48	13.03	14.90	13.41

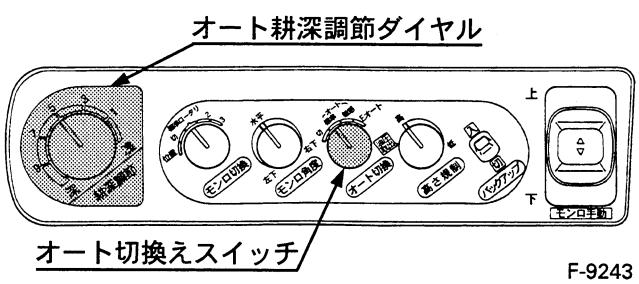
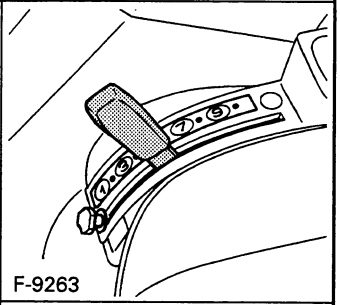
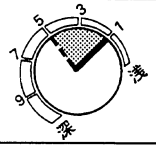
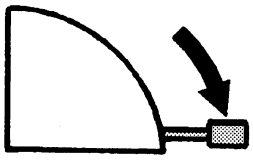
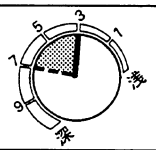
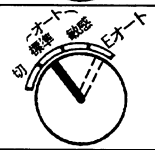
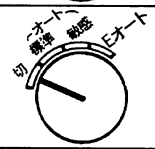
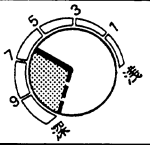
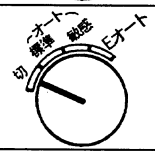
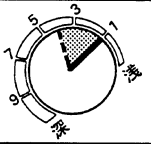
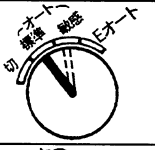
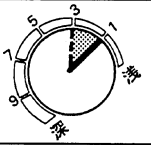
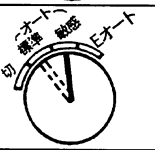
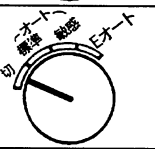
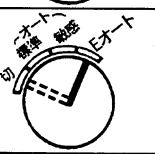
■PTO回転速度表



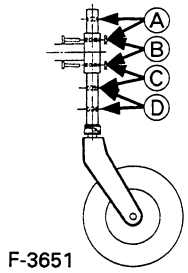
標準付属品

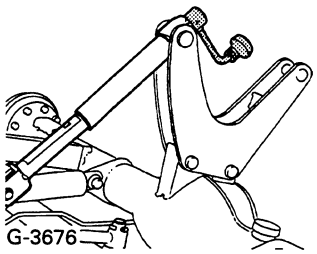
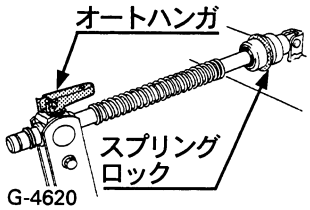
品　　名	数量／台	備　　考	品　　名	数量／台	備　　考
ドライバー	1	+，－差換え式	取扱説明書	1	
10－12　スパナ	1		整備手帳	1	
14－17　スパナ	1		保証票	1	
19－22　スパナ	1		ＰＴＯ軸キャップ	1	
24－27　スパナ	1		ボルト	1	PTO軸キャップ用
17－24　メガネ　レンチ	1		平座金	1	
プライヤ	1		バネ座金	1	
スローブローヒューズ	1		燃料給油ポンプ	1	
メインスイッチキーアッシ	1	キー２コ			

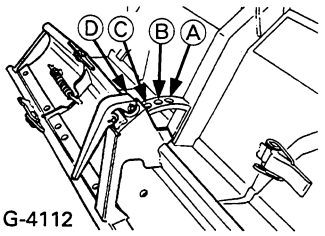
作業ごとの一般的な調整要領

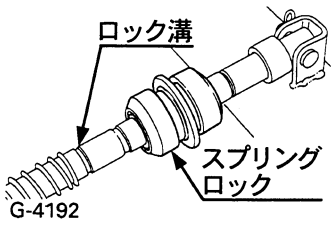
作業内容		操作方法	操作調整箇所		
			 F-9243		 F-9263
			オート耕深調節ダイヤル	オート切換えスイッチ	油圧レバー
浅起し (5～8cm)		オート			 “最下位置”
		ポジションコントロール	———		
一般耕うん (8～15cm)		オート			
		ポジションコントロール	———		
深起し (15cm以上)		オート			
		ポジションコントロール	———		
代かき（10～12cm）	一般ほ場	オート			
	湿田ほ場	オート			
	一般湿田	ポジションコントロール	———		
畝立て		Eオートポジションコントロール	———		

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
　土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

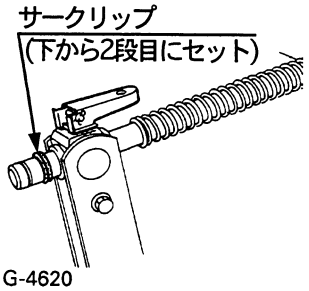
<table>
<tr><th colspan="4">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr>
<td>

F-3651</td>
<td>
G-3676</td>
<td>

G-4620</td>
<td>

G-4112</td>
</tr>
<tr><td>後２輪上下調節</td><td>後２輪ハンドル</td><td>スプリングロック,オートハンガ</td><td>フラップカバー</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="10">●スプリングロック
接地圧条件に合せて
セット


G-4192

●マッドレスロータリ使用時
●ロングカット爪使用時


G-4620</td><td rowspan="2">Ⓑ又はⓒの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐ又はⒷの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">Ⓑの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓑの位置
(必要に応じて
Ⓑ又はⓒの位置)</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">●荒起し
ⓒの位置
●細土耕うん
Ⓐ又はⒷの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後２輪を
外します</td><td rowspan="2">――</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td>●カバーを上げオートハ
ンガでセット</td><td>フラップカバー
を外します</td></tr>
</table>

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。